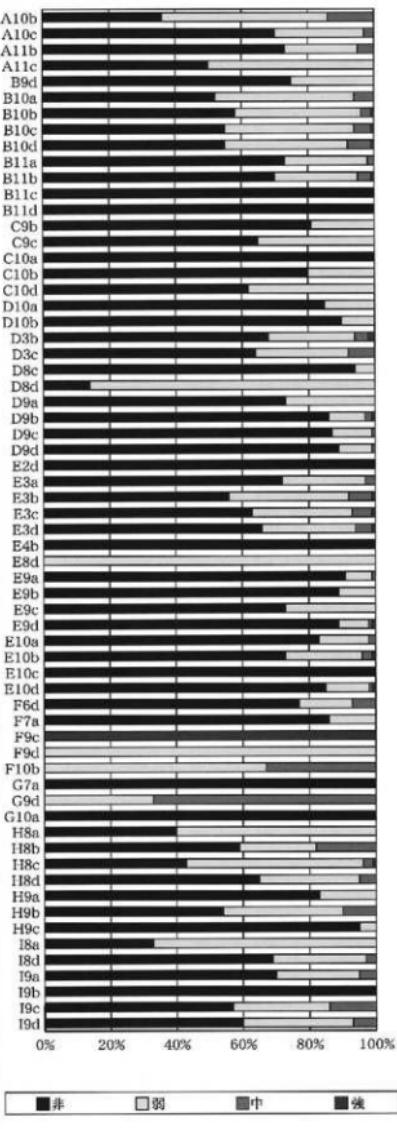
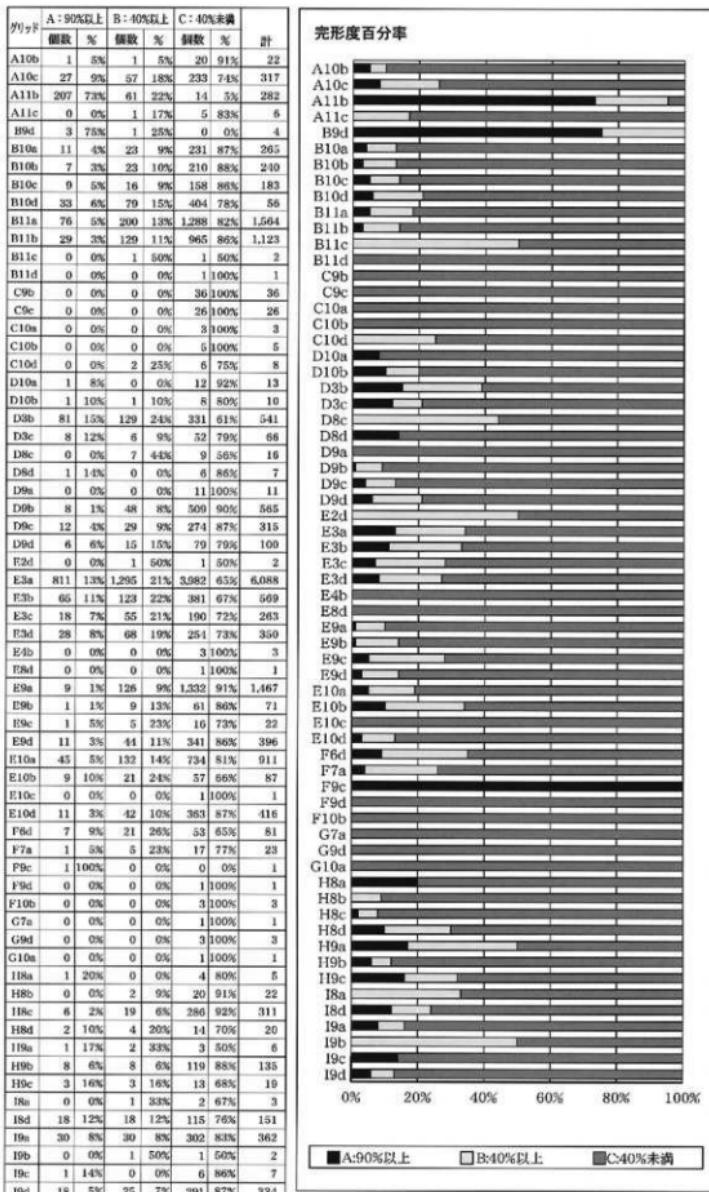


ワード	非			弱			中			強			計	
	個数	%	個数	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	
A10b	8	36%	11	50%	3	14%	0	0%	0	0%	22			
A10c	210	69%	86	27%	11	3%	1	0%	0	0%	317			
A11b	207	73%	61	22%	14	5%	0	0%	0	0%	282			
A11c	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	6			
B9d	3	75%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	4			
B10e	136	51%	112	42%	16	6%	1	0%	0	0%	265			
B10b	139	58%	91	38%	8	3%	2	1%	0	0%	240			
B10c	102	56%	71	39%	9	5%	1	1%	0	0%	183			
B10d	283	55%	196	38%	35	7%	3	1%	0	0%	516			
B11a	1,134	73%	388	25%	36	2%	6	0%	1,564					
B11b	786	70%	282	25%	49	4%	6	1%	1,123					
B11c	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2			
B11d	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1			
C9b	29	81%	7	19%	0	0%	0	0%	0	0%	36			
C9c	17	65%	9	35%	0	0%	0	0%	0	0%	26			
C10a	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3			
C10b	4	80%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%	5			
C10d	5	63%	3	38%	0	0%	0	0%	0	0%	8			
D10b	11	85%	2	15%	0	0%	0	0%	0	0%	13			
D10b	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	0	0%	10			
D3b	373	69%	136	26%	19	4%	10	2%	541					
D3c	42	61%	19	29%	5	8%	0	0%	66					
D9c	15	94%	1	6%	0	0%	0	0%	16					
D8d	1	14%	6	86%	0	0%	0	0%	7					
D9b	8	73%	3	27%	0	0%	0	0%	11					
D9b	488	86%	62	11%	10	2%	4	1%	564					
D9c	276	58%	37	12%	2	1%	0	0%	315					
D9d	89	89%	10	10%	1	1%	0	0%	100					
E2d	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2					
E3a	4,401	72%	1,503	25%	156	3%	28	0%	6,088					
E3b	318	56%	206	36%	42	7%	3	1%	569					
E3c	164	62%	80	30%	17	6%	2	1%	263					
E3d	232	66%	98	28%	17	5%	3	1%	350					
E4b	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%	3					
E8d	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1					
E9b	1,334	91%	112	8%	18	1%	3	0%	1,467					
E9b	63	89%	8	11%	0	0%	0	0%	71					
E9c	16	73%	6	27%	0	0%	0	0%	22					
E9d	350	88%	37	9%	5	1%	4	1%	396					
E10a	754	83%	141	15%	15	2%	1	0%	911					
E10b	63	72%	20	23%	3	3%	1	1%	87					
E10c	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1					
E10d	356	86%	52	13%	5	1%	3	1%	416					
F6d	62	77%	13	16%	6	7%	0	0%	81					
F7a	20	91%	3	14%	0	0%	0	0%	23					
F9c	0	0%	0	0%	0	0%	1	100%	1					
F9d	0	0%	1	100%	0	0%	0	0%	1					
F10b	0	0%	2	67%	1	33%	0	0%	3					
G7a	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1					
G9d	0	0%	1	33%	2	67%	0	0%	3					
G10a	1	100%	0	0%	0	0%	0	0%	1					
H8a	2	40%	3	60%	0	0%	0	0%	5					
H8b	13	59%	5	23%	4	18%	0	0%	22					
H8c	136	43%	165	53%	8	3%	3	1%	311					
H8d	15	65%	6	30%	1	5%	0	0%	20					
H9a	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	6					
H9b	73	54%	48	36%	14	10%	0	0%	135					
H9c	18	95%	1	5%	0	0%	0	0%	19					
H9d	1	33%	2	67%	0	0%	0	0%	3					
I8d	104	69%	43	28%	4	3%	0	0%	151					
I9a	251	69%	92	25%	18	5%	1	0%	362					
I9b	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	2					
I9c	4	57%	2	29%	1	14%	0	0%	7					
I9d	200	60%	110	33%	24	7%	0	0%	334					

赤化度百分率

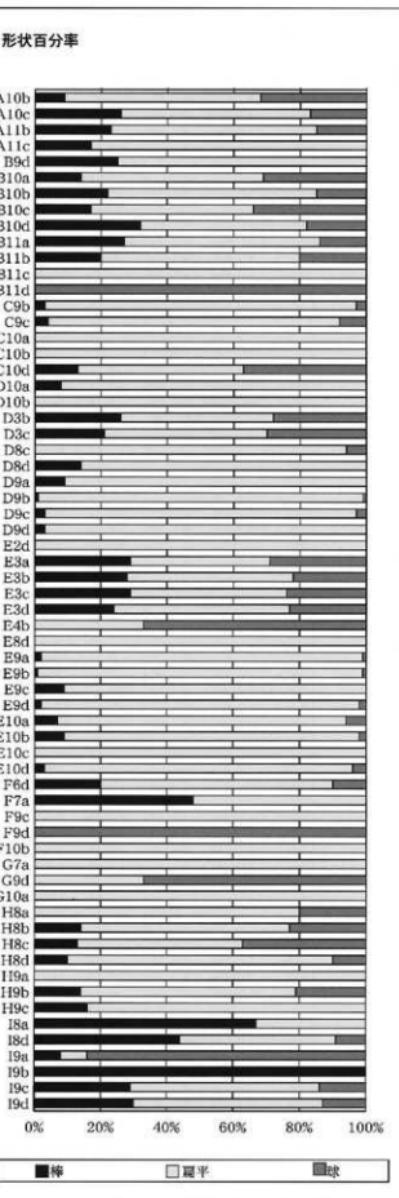


第45図 繩文時代礎要素比較図（11）

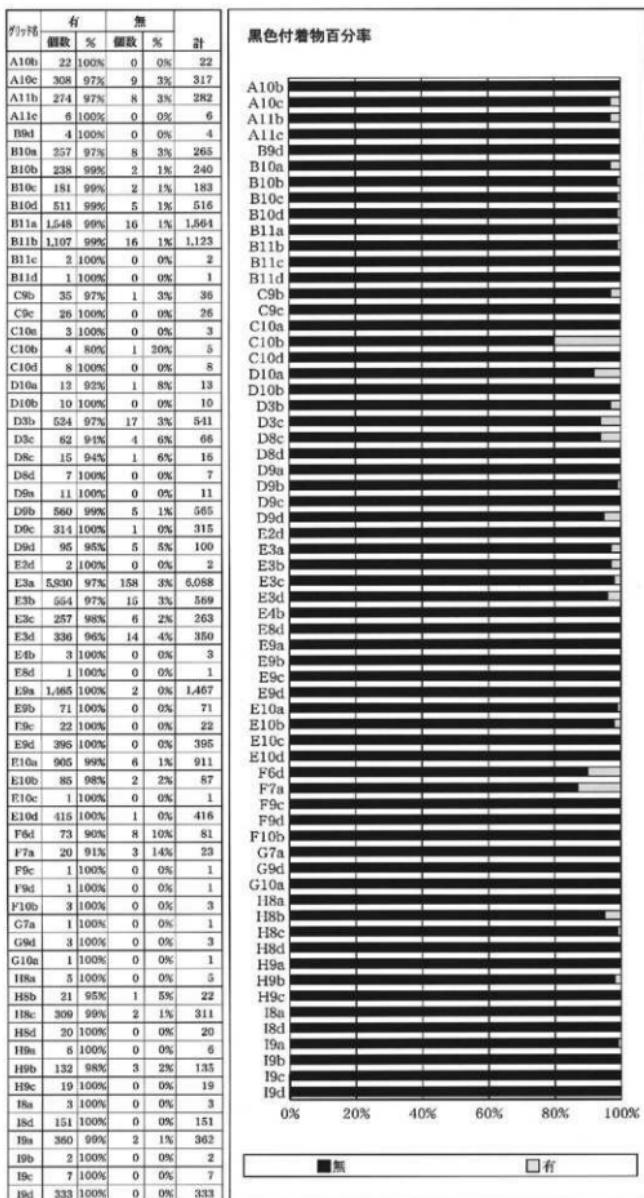


第46図 縄文時代礪要素比較図（12）

列ヶF	棒			扁平			球			計
	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	
A10b	2	9%	13	59%	7	32%	22			
A10c	83	26%	181	57%	53	17%	317			
A11b	64	23%	176	62%	42	15%	282			
A11c	1	17%	5	83%	0	0%	6			
B9d	1	25%	3	75%	0	0%	4			
B10a	38	14%	147	55%	80	30%	265			
B10b	53	22%	150	63%	37	15%	240			
B10c	31	17%	90	49%	62	34%	183			
B10d	166	32%	257	50%	93	18%	516			
B11a	424	27%	922	59%	218	14%	1564			
B11b	229	20%	671	60%	223	20%	1,123			
B11c	0	0%	2	100%	0	0%	2			
B11d	0	0%	0	0%	1	100%	1			
C9b	1	3%	34	94%	1	3%	36			
C9c	1	4%	23	88%	2	8%	26			
C10a	0	0%	3	100%	0	0%	3			
C10b	0	0%	5	100%	0	0%	5			
C10d	1	13%	4	50%	3	38%	8			
D10a	1	8%	12	92%	0	0%	13			
D10b	0	0%	10	100%	0	0%	10			
D3b	143	26%	246	45%	152	28%	541			
D3c	14	21%	31	48%	20	36%	66			
D8c	0	0%	15	94%	1	6%	16			
D8d	1	14%	6	86%	0	0%	7			
D9a	1	9%	10	91%	0	0%	11			
D9b	5	1%	556	98%	4	1%	565			
D9c	8	3%	299	95%	8	3%	315			
D9d	3	3%	97	97%	0	0%	100			
E2d	0	0%	2	100%	0	0%	2			
E3a	1,737	29%	2,587	42%	1,764	29%	6,088			
E3b	158	28%	282	50%	129	23%	569			
E3c	77	29%	124	47%	62	24%	263			
E3d	85	24%	185	53%	80	23%	350			
E4b	0	0%	1	33%	2	67%	3			
E8d	0	0%	1	100%	0	0%	1			
E9a	26	2%	1,424	97%	17	1%	1,467			
E9b	1	1%	69	97%	1	1%	71			
E9c	2	9%	20	91%	0	0%	22			
E9d	8	2%	381	96%	7	2%	396			
E10a	65	7%	787	86%	59	6%	911			
E10b	8	9%	77	89%	2	2%	87			
E10c	0	0%	1	100%	0	0%	1			
E10d	11	3%	399	94%	15	4%	416			
F6d	16	20%	57	70%	8	10%	81			
F7a	11	50%	12	55%	0	0%	23			
F9c	0	0%	1	100%	0	0%	1			
F9d	0	0%	0	0%	1	100%	1			
F10b	0	0%	3	100%	0	0%	3			
G7a	0	0%	1	100%	0	0%	1			
G9d	0	0%	1	33%	2	67%	3			
G10a	0	0%	1	100%	0	0%	1			
H8e	0	0%	4	80%	1	20%	5			
H8h	3	14%	14	64%	5	23%	22			
H8c	41	13%	154	50%	116	37%	311			
H8d	2	10%	16	80%	2	10%	20			
H9a	0	0%	6	100%	0	0%	6			
H9b	19	14%	87	64%	29	21%	135			
H9c	3	16%	16	84%	0	0%	19			
I8a	2	67%	1	33%	0	0%	3			
I8d	67	44%	70	46%	14	9%	151			
I9a	30	8%	30	8%	302	83%	362			
I9b	2	100%	0	0%	0	0%	2			
I9c	2	29%	4	57%	1	14%	7			
I9d	101	30%	189	57%	41	13%	334			



第47図 繩文時代縄要素比較図 (13)



第48図 縄文時代縄文要素比較図(14)

割し、礫の分析を行った。

まず、密集度であるが、1m<sup>2</sup>あたりの重量で判断すると、比較的密集度の高い（1,000g以上）小グリッドがおむね四つの群になり、それぞれの散礫I～IVとする（第22図）。

I群	A10b・C, A11b, B10a・b・C・D, B11a・b
II群	D3b, E3a・b・d
III群	D9b・C, E9a・d, E10a・b・d
IV群	H8c・H9b・I8d・19a・d

散礫内の集石遺構は、

I群	SI13・14
II群	SI10・30・33・34(近くにSI15・25・31)
III群	SI9
IV群	SI15・16・17(近くにSI21・22・23・29)

であり、II群に属する集石遺構は、形態分類bやcの「掘り込み」や「配石」を持つものが多く、IV群に属する集石遺構は、形態分類bの「掘り込み」を持つものが多く、I・III群は形態分類aの「掘り込み」や「配石」を持たないものが多いという特徴がある。

石材構成をみると、I群は、砂岩が40～50%で最も多く、次に尾鈴山酸性岩類が30%前後、ホルンフェルスが20%前後で比較的尾鈴山酸性岩類の割合が高い。II群は砂岩が60%前後で最も多く、次にホルンフェルスが20～30%、尾鈴山酸性岩類は20%前後、III群は砂岩が30～50%、尾鈴山酸性岩類が30～40%、ホルンフェルスが20～40%とそれぞれの値が拮抗する。IV群は、砂岩が20～50%、尾鈴山酸性岩類が20～40%、ホルンフェルスが10～30%で比較的ホルンフェルスの割合が低い。

円磨度はI群は、亜角が70～80%、亜円が10～30%で亜角が多い。II群は、亜角が60～70%、亜円が30～40%亜角が多いが亜円の割合がやや高い。III群は亜角が30～50%、亜円が50～60%で亜円が多い。IV群が亜角が60～80%、亜円が20～40%で亜角が多い。

赤化度は、I群は20～40%であり特にB10aが49%赤化している。II群は20～40%であり特にE3bが44%赤化している。III群は10～30%であり特にE10bが27%赤化しているが他の群に比べ赤化度は低いといえる。IV群は20～50%であり特にH8cが

57%赤化しており他の群に比べ赤化度は高い。

完形度は、I群はC：40%未満が70～90%で大半を占める。II群はC：40%未満が60～80%で、B：40%以上が20～30%で比較的Bの割合が多い。III群はC：40%未満が70～90%で大半を占める。IV群はC：40%未満が70～90%で大半を占める。

形状は、I群は扁平が50～60%、棒・球状がそれぞれ10～30%で拮抗している。II群は扁平が40～50%、棒・球状がそれぞれ30%前後で拮抗している。III群は扁平が80%以上で大半を占める。IV群は扁平が50～60%、棒・球状がそれぞれ10～30%で拮抗している。黒色付着物は全体的に10%未満であるが、特にII群のE3aが158個と多かった。

## 2 二次堆積K-Ah層上面検出の遺構

### 形態分類aの集石遺構（第31図）

SI35はB10グリッドに位置し、検出状況分類はイである。礫の範囲は、長径約1.05m、短径約0.66mの範囲に130個の礫が分布する。1m<sup>2</sup>あたり59,144gの礫が密集する。石材構成をみると、重量ではほぼ同量の砂岩・尾鈴山酸性岩類でほとんどが構成される。円磨度は、亜角約72%、亜円約19%で大半を占める。赤化度は弱が約14%のみで高くない。完形度はB：40%以上が約73%、C：40%未満が約22%と大半を占める。形状は扁平が約96%と大半を占める。黒色付着物は無く、集石遺構範囲内の土中にも炭化物や焼土は検出されなかった。1m<sup>2</sup>あたり59,144gの礫が密集する。石材構成をみると、重量比で砂岩が約59%、次に尾鈴山酸性岩類が約25%、ホルンフェルスが約16%である。円磨度は、亜角約55%、亜円約23%、角が22%である。赤化度は弱が約12%で低い。完形度はB：40%以上が約69%、C：40%未満が約20%と大半を占める。形状は扁平が約98%で大半を占める。黒色付着物は無く、集石遺構範囲内の土中にも炭化物や焼土は検出されなかった。

SI36はB10グリッドに位置し、検出状況分類はイである。礫の範囲は、長径約0.88m、短径約0.50mの範囲に124個の礫が分布する。1m<sup>2</sup>あたり39,788gの礫が密集する。石材構成をみると、重量比で砂岩が約48%、次にホルンフェルスが約32%、尾鈴山酸性岩類が約20%である。円磨度は、亜角約98%で大

半を占める。赤化している礫は約34%である。完形度はB：40%以上で約88%、C：40%未満が約9%と大半を占める。形状は扁平が約94%で大半を占める。黒色付着物は約13%が比較的高い。集石遺構範囲内の土中にも炭化物や焼土は検出されなかった。

SI37はB10グリッドに位置し、検出状況分類はイである。礫の範囲は、長径約0.70m、短径約0.60mの範囲に127個の礫が分布する。1m<sup>2</sup>あたり89,805gの礫が密集する。石材構成をみると、重量比で砂岩が約55%、次に尾鈴山酸性岩類が約23%、ホルンフェルスが約22%である。円磨度は、亜角約76%、亜円約13%、角11%である。赤化している礫は約23%である。完形度はB：40%以上が約78%、C：40%未満が約15%と大半を占める。形状は扁平が約96%で大半を占める。黒色付着物は約6%で、焼土はなかったが、集石遺構範囲内の土中に径1～5mmの炭化物を含んでいた。

#### 土坑（第31図）

SC 1はG 3グリッドに位置し、長径約1.44m、短径約0.77mの梢円形で検出面からの深さ約0.43mを測る。

SC2はG 3グリッドに位置し、長径約0.91m、短径約0.55mの梢円形で検出面からの深さ約0.32mを測る。

#### 巨礫群（第32図）

SI38はC10グリッドに位置し、長径20～40cmの大きめの礫が構成される。長径4.00m、短径3.39mの範囲に礫が分布する。ほとんどが尾鈴山酸性岩類（実測図で点状の模様のないもの）で一部ホルンフェルス（実測図で模様のないもの）から構成される。やや赤化がみとめられるものが1個であった。礫の範囲内に掘り込み、焼土、炭化物は認められなかった。

### 3 遺構出土遺物（第49図）

#### SI32出土遺物（第49図61・62）

61は、円筒形で深鉢形のほぼ直立する口縁部～胸部片、62は、口縁部片である。内面はナデ調整、外面はやや波状の横位貝殻条痕文が施される。63は、平底の底部片で内・外面ともにナデが施される。

#### SI37出土遺物（第49図64・65）

64は、胴部片で内面はナデ、外面は斜位の貝殻条痕文が施される。

65は、胴部片で風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともに貝殻条痕が施される。

#### SI29出土遺物（第49図66・67）

66は、外反する口縁部片で風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともに貝殻条痕が施される。

67は、胴部片で風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデが施される。

#### SC 1出土遺物（第49図68・69）

68は、ほぼ直立する口縁部片で内・外面ともにナデ、外面に刺突文や沈線文が施される。

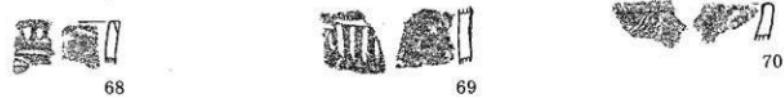
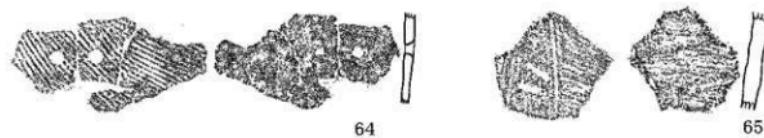
69は、胴部片で内・外面ともにナデ、外面に平行沈線文が施される。

#### SC 2出土遺物（第49図70）

70は、ほぼ直立する口縁部片で内・外面ともにナデ調整、外面に沈線文が施される。

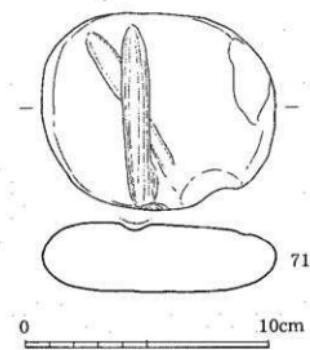
#### SI30出土遺物（第49図71）

71は有溝砥石で、扁平な砂岩製で斜め方向の浅い溝を深い縱方向の溝が切っている。



0 10cm

※61~63・71は二次堆積K-Ah層下  
64~70は二次堆積K-Ah層の遺構内出土遺物



第49図 繩文時代遺構出土遺物実測図 (1/3・1/2)

#### 4 包含層出土土器

主にMB0（基本層序IV層）、ML1（基本層序V層）相当層出土の土器は、縄文時代草創期～早期の土器と考えられ、形態・文様などから1～10類・21類・23類に分類した。また、主に二次堆積K-Ah層（基本層序IIIa層）出土の土器のうち、形態・文様などから縄文時代前期～晩期の土器と考えられるものを11～20類・22類・24類に分類した。

1～10類・21類・23類の出土状況を示した縄文時代遺物分布図（1）～（5）・（13）・（15）は、ほぼ全城に堆積していたML1上面での地形測量図を掲載しており、基本的にはML1からの出土であるが、それ以外の層からの出土については、図中に基本層序のローマ数字（III～IV）を明示した。また、風倒木などによる擾乱土からの出土には「擾」の字を明示した。同様に11類～20類・22類・24類の出土状況を示した縄文時代遺物分布図（6）～（12）・（14）・（16）は、二次堆積K-Ah層上面での地形測量図を掲載しており、基本的には二次堆積K-Ah層からの出土であるが、それ以外の出土については、ローマ数字、「擾」の字を明示した。

##### 1類土器（第51図72・73）

1条以上の隆起線を施し、爪ないし半裁竹苞状の工具で羽状の刻目を有する一群である。調査地南西側の平場から出土している。

72は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、磨耗しており不明瞭だが内面はナデ、口縁部外面を肥厚させ、縦位の刻み、口縁部直下に1条以上の隆起線文を施す。

73は、口縁部に近い胴部片で、風化しており不明瞭だが内・外ともにナデ、口縁部付近に1条以上の隆起線文を施す。

##### 2類土器（第51図74～81）

器形は円筒形に近い深鉢形でナデによる調整、口唇部外側に二枚貝の貝殻蝶番部などによる押圧刻み、口縁外面に貝殻腹縁部などによる刺突文や押引文が施される一群である。調査地北側の平場の南端からその下の斜面一帯で出土している。

77は、器形はほぼ円筒形で口縁部外面がやや高く肥厚している。内・外とも貝殻条痕の後、ナデ

が施される。施は口唇部外側の稜に貝殻番部分によると思われる押圧刻み、口縁部外面に貝殻腹縁部による横位の刺突線文を3条施す。

74・75はやや外傾し、口唇部上面がほぼ平坦と思われる口縁部片である。風化しており不明瞭ではあるが、内・外ともナデ、口唇部外側の稜に貝殻蝶番部分によるとと思われる押圧刻み、口縁部外面に貝殻腹縁部と思われる横位の押引文と刺突線文1条を施す。

76はやや外傾し、口縁部外面がやや高くなっていると思われる口縁部片で、内・外ともナデ、口唇部外側の稜に棒状工具によるとと思われる押圧刻み、口縁部外面に棒状工具によるとと思われる横位の押引文を施す。

78はやや外傾し、口唇部上面がほぼ平坦と思われる口縁部片で、口縁部外側が肥厚する。内・外ともナデ、口唇部外側の稜に貝殻腹縁部によるとと思われる斜位の刻みとその直下に連結するような形で斜位の刺突文を施し、逆「く」の字状を呈している。さらにその下の口縁部外面に貝殻腹縁部によるとと思われる横位の刺突線文を2～3条施す。

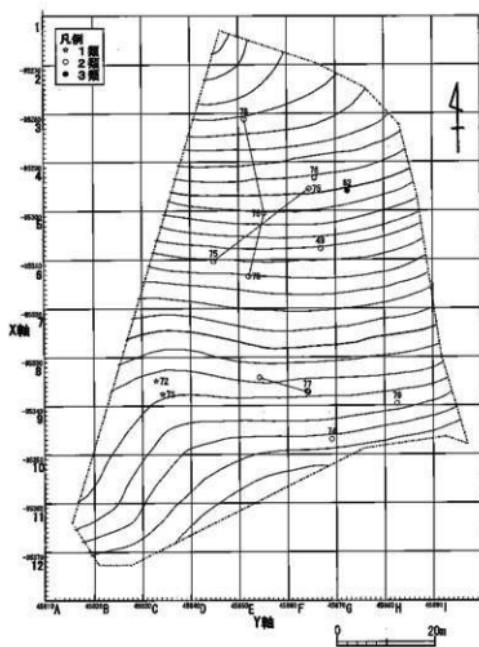
79はほぼ直立し、口唇部上面がほぼ平坦と思われる口縁部片である。内・外ともナデ、口唇部外側の稜に貝殻蝶番部分によるとと思われる押圧刻み、口縁部外面に貝殻腹縁部によるとと思われるやや斜位の刺突文と横位の刺突線文2条を施す。

80はほぼ直立し、口唇部上面がほぼ平坦と思われる口縁部片である。内・外ともナデ。口唇部外側の稜に櫛もしくは籠状工具によるとと思われる縦位の刻み、口縁部外面に櫛もしくは棒状工具によるとと思われる連続刺突文を施す。

81はほぼ直立し、口縁部外面がやや高くなっていると思われる口縁部片で、内面はナデ、外は貝殻条痕の後ナデ、口唇部外側の稜に貝殻腹縁部によるとと思われる斜位の刻み、その下に貝殻腹縁部によるとと思われる斜位の刺突文を施し、逆「く」の字状を呈している。

##### 3類土器（第51図82）

82一点のみで調査地北側の平場直下の斜面（上位）から出土している。ほぼ直立し、口縁部外面が



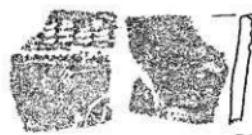
第50図 繩文時代遺物分布図（1）(1/1,000)



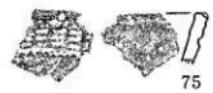
72



73



74



75



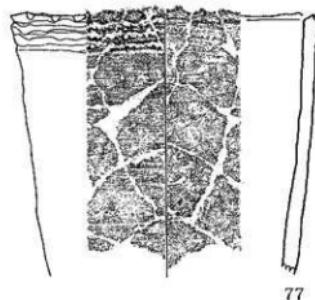
76



78



79



77



80



81



82

0 10cm

第51図 繩文土器実測図（1）1/3

高く内面とは明瞭な段を有し口縁部外面が肥厚する深鉢形の口縁部片である。内・外面とも丁寧なナデ、口唇部は棒状工具によると思われる押圧刻みが施され、いわゆる「小波状口縁」状となっている。口縁部外面に貝殻腹縁部によると思われる横位の刺突線文4条が施される。

#### 4 類土器（第53図83～89、第54図90～96）

器形は、円筒形の深鉢形で、胴部に条痕文を施し、口縁部上端部に貝殻・籠状施文具で1列あるいは2列の連続刺突文をめぐらす一群である。出土分布は、主に調査地斜面部分の東側である。

83は、器形はほぼ円筒形と思われ、内・外面とも貝殻条痕による横～斜位の貝殻条痕を施す。風化により不明瞭ではあるが、口唇部外側の稜から籠状工具もしくは貝殻腹縁部によると思われる斜位の連続刺突文とその直下に連絡するような形で斜位の連続刺突文を施し2列で逆「く」の字状を呈している。

84は、器形はほぼ円筒形と思われ、内面はナデが行われ、外面は斜位の貝殻条痕が施される。風化により不明瞭ではあるが、口唇部外面の稜は籠状工具もしくは貝殻腹縁部によると思われる斜位の連続刺突文が施される。

85～87は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、内面はナデ、外面は横～斜位の貝殻条痕が施される。口唇部外側の稜は、85は貝殻腹縁部、86・87は風化のため不明瞭だが籠状工具もしくは貝殻腹縁部によるとと思われる斜位の連続刺突文が施される。

88・89は、形態・文様・出土地点から同一個体と思われる口縁部・胴部片である。器形はほぼ円筒形と思われ、内面はナデ、外面は太めの横位～斜位の貝殻条痕が施される。口唇部外面は風化により不明瞭だが貝殻腹縁部と思われる斜位の連続刺突文が施される。

90・91は、形態・文様・出土地点から同一個体と思われる口縁部・胴部片である。器形はほぼ円筒形と思われ、内・外面とも横～斜位の貝殻条痕が施される。風化により不明瞭ではあるが、口唇部外面は貝殻腹縁部と思われる斜位の連続刺突文が施される。

92～96は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、

内面はナデ、外面は92・95・96は横位～斜位の貝殻条痕、93は太めの貝殻条痕が横位に施される。口縁部外面は、92・94～96は籠状工具によると思われる縦位の連続刺突文、93は棒状工具によると思われる連続押圧文が施される。

#### 5 類土器（第54図97）

97一点のみで調査地南西側の平場から出土している。口縁部に近いと思われるほぼ直立する深鉢形の胴部片で、内・外面とも丁寧なナデ調整の後、内・外とともに貝殻腹縁部による横位の刺突線文が施される。

#### 6 類土器（第54図98）

98一点のみで調査地南端（斜面最下位）から出土している。やや内湾し口縁部上面が平坦と思われる深鉢形の口縁部片で、内・外面ともにナデ、外面に棒状工具によると思われる刺突文を口縁部に横位に4列、胴部には放射状（下→上）に施す。

#### 7 類土器（第54図99～101）

器形は、やや口縁部がやや外反する胴部円筒形の深鉢形で、内面はミガキで外面は斜位（右下がり）の貝殻条痕による調整が施される一群である。調査地斜面部分の上位と下位から出土している。

99は口縁～胴部片、100は口縁部片、101は胴部片である。

#### 8 類土器（第56図102～111）

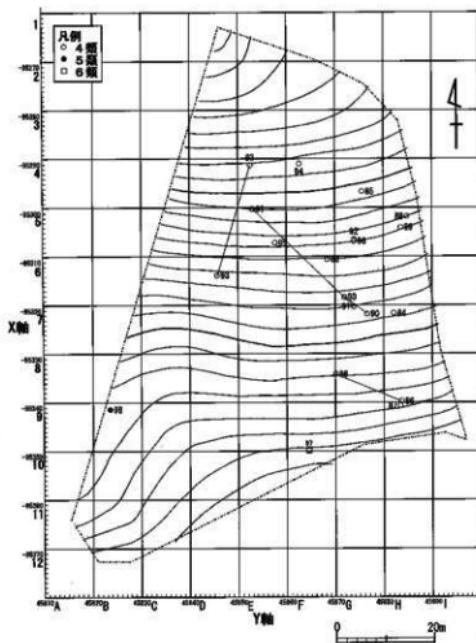
器形は、口縁部がやや外傾する胴部円筒形の深鉢形で、内面はナデ、外面が口縁部から胴部上位にかけて、貝殻腹縁によるやや波状の横位条痕文が施される。主に調査地の東側で出土しているが、北側・中央部を除く西端・南端の平場からも出土している。

102～109は口縁部片で、110が口縁～胴部片、111は胴部～底部片で底部にかけてすばまる器形である。

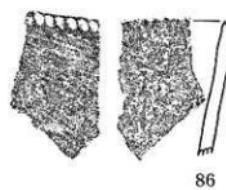
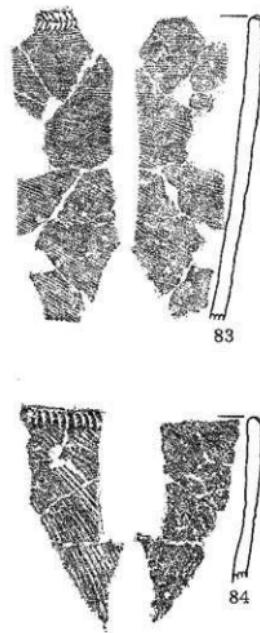
#### 9 類土器（第58図112～124）

器形は、やや外反～大きく外反する口縁部を持ち、胴部は直立～やや膨らむ深鉢形で、押型文を施す一群である。主に、調査地南西側の平場に多く出土するが、疎らに斜面部分からの出土もみられた。

112は、やや膨らんだ胴部片で、内面はナデ、外



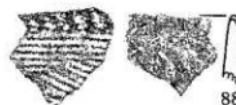
第52図 縄文時代遺物分布図（2）(1/1,000)



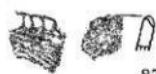
86



85



88



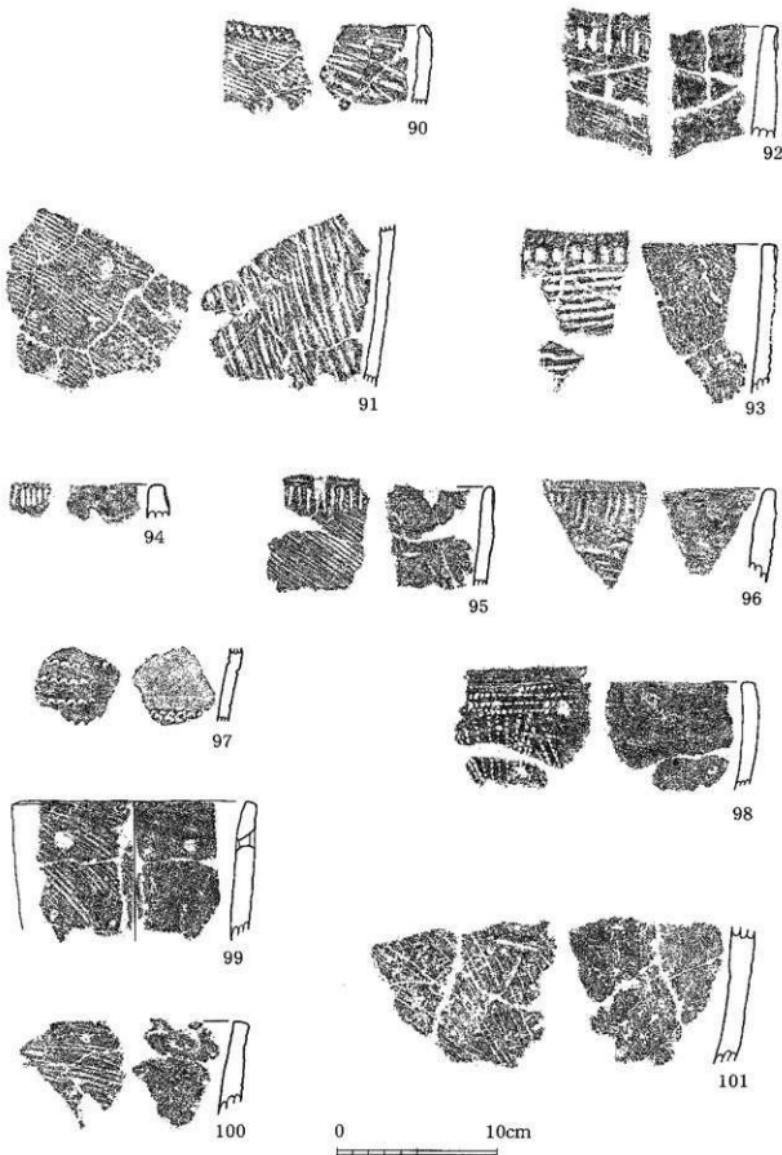
87



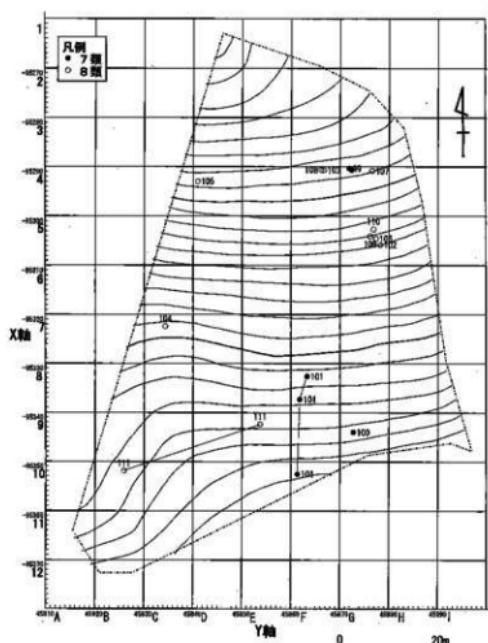
89

0 10cm

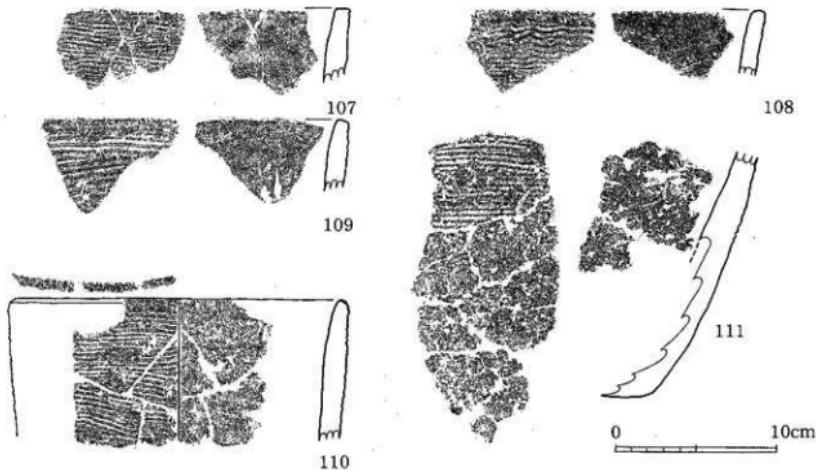
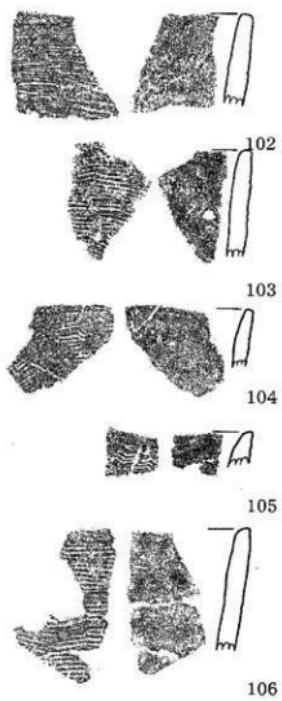
第53図 縄文土器実測図（2）1/3



第54図 繩文土器実測図 (3) 1/3



第55図 繩文時代遺物分布図（3）(1/1,000)



第56図 繩文土器実測図（4）1/3

面は縦方向の精円押型文が施される。

113は、外傾する口縁部片で、内面はナデ、外面は横方向の筋の大きな撚糸文が施される。

114・115は直立、116はやや膨らむ胴部片で内面はナデ、外面は縦方向の撚糸文が施される。

117は、口縁部が大きく外反し胴部がやや膨らむ口縁～胴部片で、内面はナデ、口縁部に横位の撚糸文、外面は全体に縦位の撚糸文を施す。

118は、平底の底部片で、内面はナデ、外面は縦位の撚糸文を施す。

119は、口縁部が外反する口縁部片で内外面に山形押型文が施される。

120・121は胴部片で、内面はナデ、外面は山形押型文が施される。

122は、やや外反する口縁部片で、内面はナデ、口縁部上位に変形撚糸文、外面に変形撚糸文を施す。

123・124は、ほぼ直立する胴部片で、内面はナデ、外面に変形撚糸文を施す。

#### 10類土器（第60図125～133）

器形は、外に広がる口縁部もしくは頸部で外反し口縁部が内よりに屈折し広がり、胴部は、円筒形の深鉢形で、沈線文や網目状の撚糸文を施す一群である。出土分布は調査地南西側の平場に限られている。

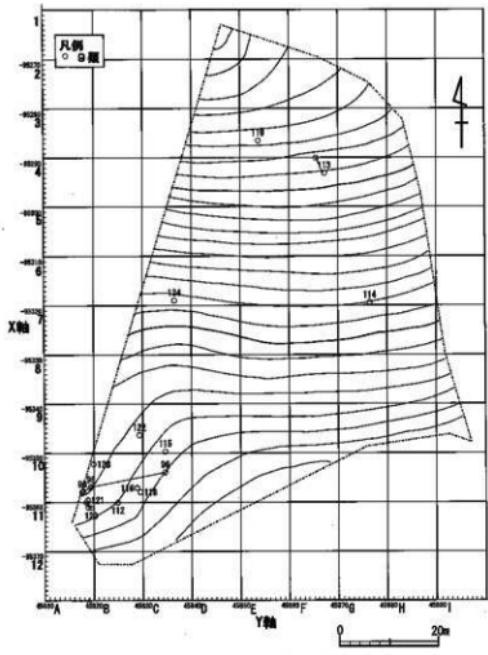
125は、外傾する口縁部片で、内・外面ともにナデ、口唇部に斜位の刻目、口縁部外面に横位の沈線文を施す。

126は、外反する頸部から内により屈折する口縁部下位片で、内・外面ともにナデ、口縁部下位外面に横位の沈線文、屈曲部分に斜位の刻目、頸部下位に撚糸文が施される。

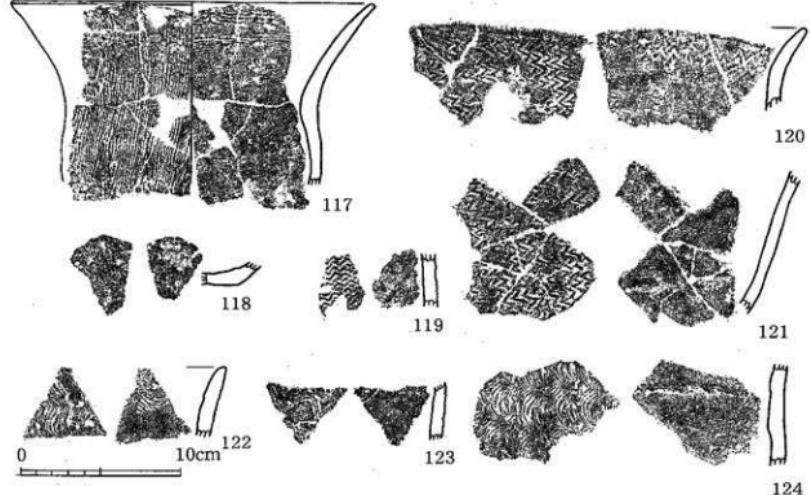
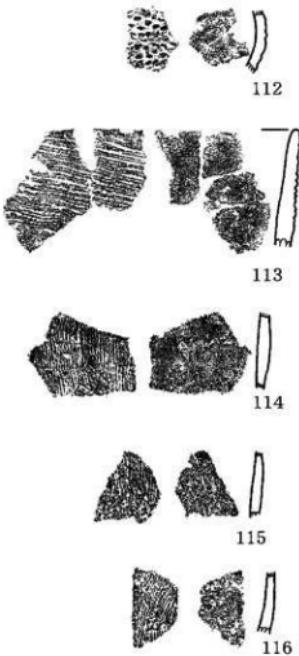
127は、やや膨らんだ胴部片で、磨耗のため不明瞭であるが、内・外面ともにナデ、外面は撚糸文もしくは網目状撚糸文が施される。

128・129は、ほぼ直立する胴部片で、内・外面ともにナデ、外面は区画のない網目状撚糸文と横位の沈線文が施される。

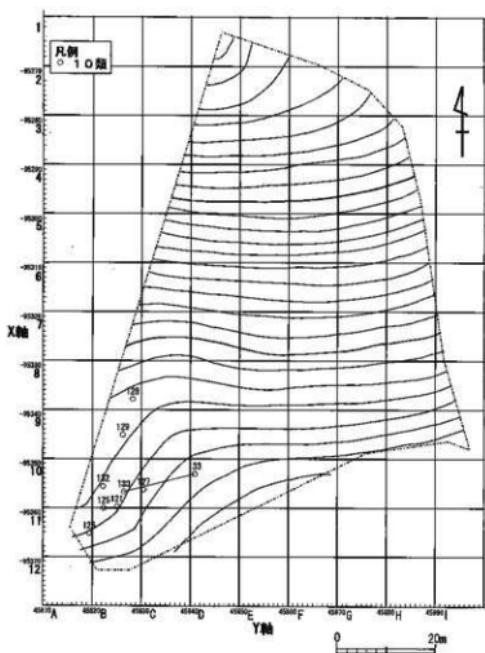
130～133は、外に広がる口縁部片で130・132・133はやや波状気味と思われる。口唇部に刻目、内・外面ともにナデ、外面は沈線文を施す。



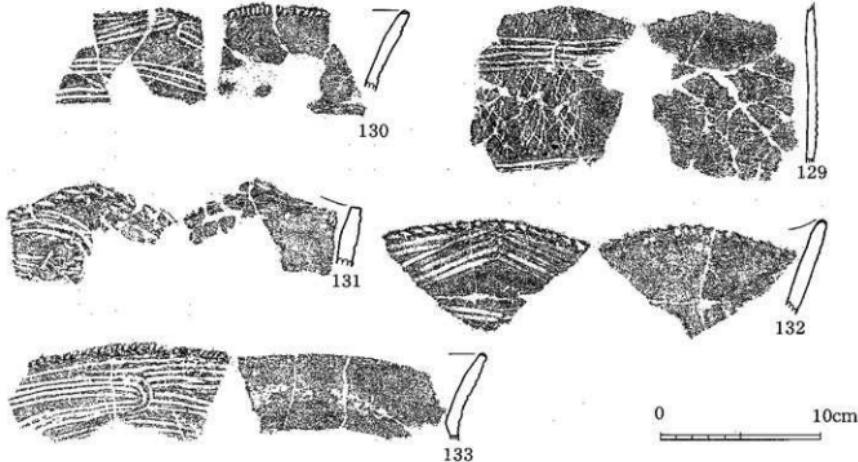
第57図 繩文時代遺物分布図(4) (1/1,000)



第58図 繩文土器実測図(5) 1/3



第59図 繩文時代遺物分布図（5）(1/1,000)



第60図 繩文土器実測図（6）1/3

### 11類土器（第62図134～139）

主に二次堆積K-Ah層出土の土器で貝殻条痕文を施すもの、もしくは二次堆積K-Ah層出土の土器で貝殻条痕文を施し、1～10類に該当しないものを便宜的にこの一群にまとめた。時期的には、幅（縄文時代早期～晩期）があると思われる。

134は、胴部片でIV層からの出土である。内面はナデ、外面は曲線状の貝殻条痕文が施される。

135は、胴部片で、円盤状に加工し穴あけ錐として転用したものの一部の可能性もある。風化により不明瞭ではあるが、外面には横・斜位の貝殻条痕が見受けられる。

136は、外反する口縁部片で、B10グリッド（調査地南西の平場）からの出土である。内面は貝殻条痕後、特に口縁部上位はナデ、外面は縦位・横位・斜位の貝殻条痕文が施される。

137は、口縁部がやや外反する円筒形の器形と考えられる口縁～胴部片である。B10グリッド（調査地南西の平場）からの出土である。内面は胴部下位に貝殻条痕が一部残るが、それ以外は比較的丁寧にナデ消されている。口唇部も丁寧にナデが施され平坦に仕上げられている。外面は、斜位→口縁部横位→斜～曲線状の条痕が施される。

138は、やや外傾すると思われる肥厚した口縁部片で、調査地南西の平場からの出土である。内面は横位貝殻条痕、口唇部は、範状工具によると思われる斜位の刻み、外面は斜位→口縁部上位に横位の貝殻条痕文を施す。

139は、胴部片で、内面はナデ、外面は貝殻条痕が施される。

### 12類土器（第64図140～157）

主に二次堆積K-Ah層出土の土器で貼付突帯文を施すものを便宜的にこの一群にまとめた。時期的には幅（縄文時代前期以降）があると思われる。

140・141は、ほぼ直立する口縁部片で140はG3グリッド（調査地北東の斜面上位）、141はA11グリッド（調査地南西の平場）からの出土である。風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともナデ、外面に縦・横斜位の微隆起線文を施す。

142は、ほぼ直立する口縁部片、143は、直立す

る口縁部に近い胴部片と思われ、調査地南側からの出土である。内面は横位の貝殻条痕、外面は貝殻条痕の後、断面三角形の低い貼付突帯をナデつけている。また、142は棒状工具によると思われる横位の連続刺突文が、143は刺突が突帯におよんで刻目状を呈している。

144は、胴部片で調査地ほぼ中央部の斜面からの出土である。風化により不明瞭ではあるが、内面はナデ調整を行い、外面は貝殻条痕の後、断面三角形の低い貼付突帯をナデつけている。また、棒状工具によると思われる刺突が1点だけ見受けられる。

145～148は、胴部片で調査地北側の斜面上位からの出土で、出土位置が近いため同一個体の可能性もある。内・外面ともにナデ、風化により不明瞭ではあるが、外面に葉脈状に低い貼付突帯を施す。

149・150は、胴部片でA11グリッド（調査地南西側の平場）からの出土で、出土位置が近いため同一個体の可能性もある。内面は横位の貝殻条痕、外面は風化により不明瞭ではあるが、横位の貼付突帯を4条以上ナデつけている。また、突帯間の横位の棒状工具によると思われる連続刺突文が施される。

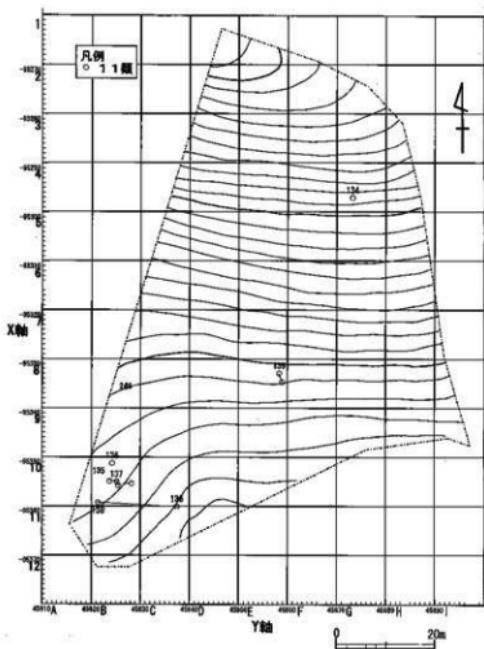
151は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、B10グリッド（調査地南西側の平場）からの出土である。内・外面に貝殻条痕を施し、口縁部外面に断面三角形で横位の低い貼付突帯をナデつけている。

152は、胴部片で、B10グリッド（調査地南西側の平場）からの出土である。内面は貝殻条痕の後ナデ、外面は貝殻条痕の後ナデ（ナデ消しに近い）、横位の貼付突帯1条が施される。また、突帯は棒状工具によると思われる連続刺突を行い刻目突帯状を呈している。

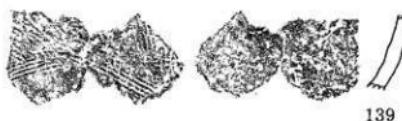
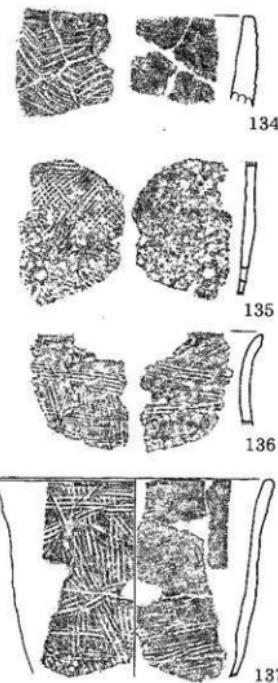
153は、口縁部片でB10グリッド（調査地南西側の平場）からの出土である。風化により不明瞭ではあるが、外面に横位の貼付突帯を2条施している。

154は、胴部片でF10グリッド（調査地南端の斜面下位）からの出土である。内・外面ともに貝殻条痕の後ナデ、外面に断面三角形で横位の貼付突帯が不十分にナデつけられている。

155は、胴部片で、F10グリッド（調査地南端の斜面下位）からの出土である。内・外面ともにナデ、



第61図 縄文時代遺物分布図（6）(1/1,000)



第62図 縄文土器実測図（7）1/3

外面に低い貼付突帯をナデ付けた後、棒状工具によると思われる間隔の狭い連続刺突を行い刻目突帯状を呈している。

156は、胴部片と思われ、F3グリッド（調査地北側の斜面上位）からの出土である。風化により不明瞭ではあるが、外面は貝殻条痕後ナデ、低い貼付突帯が施される。

157は、口縁部片でB11グリッド（調査地南西側の平場）からの出土である。内・外面ともに貝殻条痕の後ナデ、外面に貼付突帯を1条施し、突帯の上方から、籠状工具によると思われる縦位の連続刺突を行い、突帯上位を刻んでいる。

#### 13類土器（第65図158～171）

内・外面ともにナデを行い、沈線文を施す一群で

ある。出土は、調査地北側と南側（斜面の上端と下端）に分布域が分かれる。

158は、口縁部片で風化により不明瞭ではあるが、口唇部に刻み、外面に比較的細い弧状の沈線文を施す。

159は、内・外面ともにナデ、外面に縦・横位の平行沈線と連続刺突文、内面に横位の平行沈線が施される。

160は、内・外面ともにナデ、外面に羽状文が施される。

161は、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデ、外面に縦・横位の平行沈線が施される。

#### 14類土器（第67図162～171）

貝殻条痕が弧状の2本単位平行沈線と連続刺突文が施される一群で、調査地南西側の平場（特に最南端）から出土している。

162～166は口縁部片で、小片で判断のつかないものもあるが、162は波状口縁である。風化により不明瞭なものもあるが、内面はナデ、沈線文や連続刺突文が施される。口唇部に範状工具によると思われる刻みが施され、外面は162・164が縦位貝殻条痕の後、163・165がナデの後、平行沈線文・連続刺突文が施される。

167～171は胴部片で、内面はナデもしくは貝殻条痕後ナデ、168は連続刺突文が施される。外面は縦位の貝殻条痕もしくはその後ナデ、平行沈線文と連続刺突文が施される。

#### 15類土器（第67図172・173）

内面は横位の貝殻条痕調整が行われ、外面は横位の連続押引線文が施される一群で、調査地南端（斜面部分最下位）からの出土である。172は口縁部片、173は胴部片であるが、出土位置が近い事から同一個体の可能性もある。

#### 16類土器（第69図174～182）

器形は口縁部が外反もしくは「く」の字屈曲をする深鉢と思われ、内・外面ともに貝殻条痕後、ナデ調整を行い、外面屈曲部分に貝殻腹縁部による斜位の連続刺突文を施す。出土分布は主に調査地南側の平場であるが、北側の平場からも出土はみられた。

174～179は口縁部片で180～182は頸部片と思

われる。176のみ波状口縁となっており、口縁部内面の一部に貝殻腹縁部による連続刺突文が施される。

#### 17類土器（第71図183～194・72図195～205）

縄文時代後期から晩期にかけての時期に相当すると思われる土器を便宜上この一群にまとめた。

183は、頸部から口縁部にかけて外反し、稜をなした後、口縁部上位が内傾する深鉢形の口縁～胴部片と思われる。内・外面ともにミガキ調整が行われ、口縁部内面の屈曲する箇所に横位沈線1条、口縁部上位外面に範状工具によると思われる斜位連続刺突文～横位沈線1条を施す。

184は、頸部から口縁部にかけて外傾し、ゆるやかな稜をなした後、口縁部上位が直立～やや内傾する深鉢形の口縁部片と思われる。内・外面ともにナデ、風化により不明瞭ではあるが、口縁部内面の屈曲する箇所に横位沈線1条が施される。

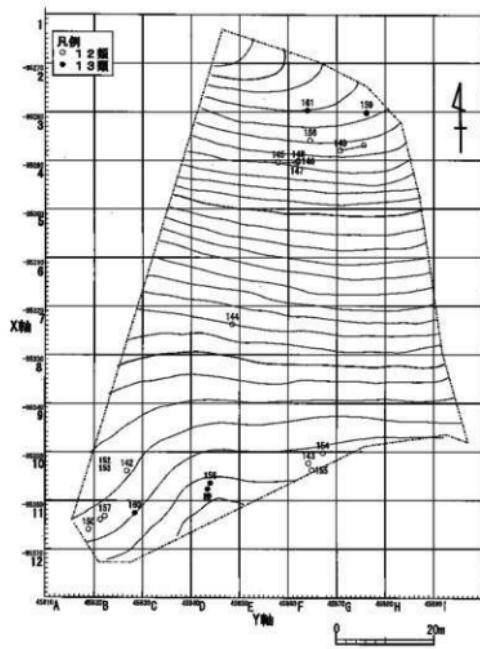
185～187は口縁部片で186は口縁外面上端が突帯気味に肥厚している。185はやや波状気味と思われる。調査地南側からの出土である。内・外面ともに工具を使用したと思われるやや雑なナデが施される。

188・189は、口縁部がゆるやかな「く」の字屈曲をする深鉢形の口縁～胴部片・口縁部片である。調査北側の平場からの出土であり、同一個体の可能性もある。内・外面ともにナデ調整が施される。

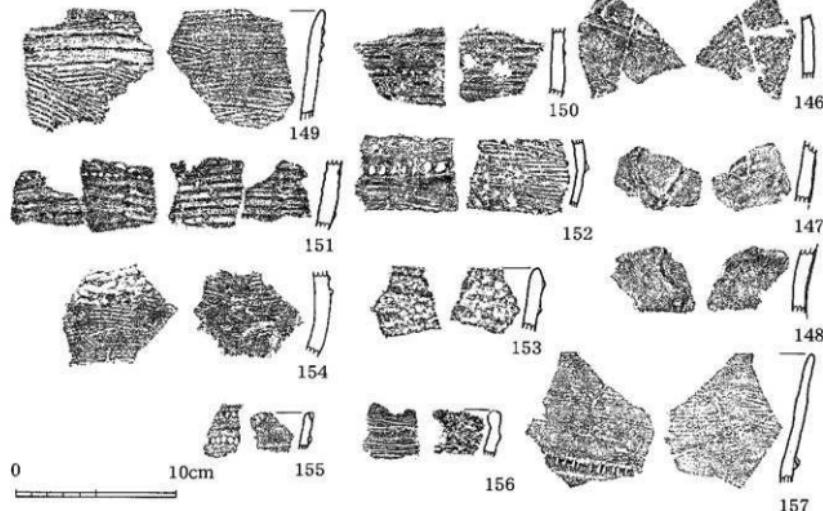
190は、外反する口縁部片でF3グリッド（調査地北側斜面上位）からの出土である。内・外面はナデ調整が行われ、口唇部もナデ調整で平坦に仕上げられている。

191～194は、ほぼ直立する口縁部片で、191以外は口縁外面上端がやや突帯気味に肥厚している。調査地斜面部分の上位と下位から出土している。基本的には内・外面ともに範ケズリで細やかな調整は工具によると思われる縦位連続刺突文が、口縁部下位内面に貝殻条痕と思われるものも見受けられる。

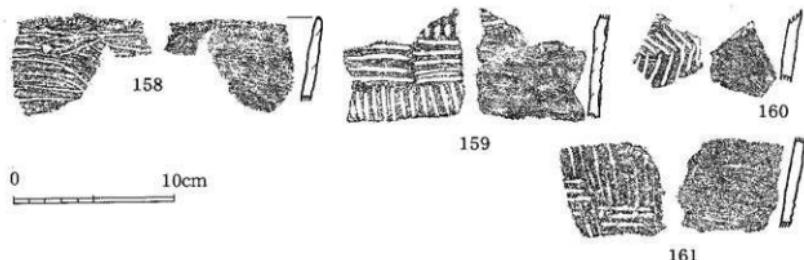
195・196は、ほぼ直立する口縁部～胴部片、やや外傾～直立する口縁部片で円筒形の深鉢形と思われる口縁部内面が外面より低くなっている。調査地南側からの出土である。内・外面ともに貝殻腹縁部や



第63図 縄文時代遺物分布図(7) (1/1,000)



第64図 縄文土器実測図(8) 1/3



第65図 繩文土器実測図 (9) 1/3

範状の工具によると思われるケズリで細やかな調整は施されていない粗製土器である。

197・198は、深鉢形の直立する胴部片と思われる。F3グリッド(斜面部分上位)、B10グリッド(南西側の平場)からの出土である。内・外面ともに貝殻腹縁部や範状の工具によるとと思われるケズリで細やかな調整は施されていない粗製土器である。

199～205は、波状口縁をもつもので、199は口縁部から胴部片、それ以外は口縁部片で円筒形の深鉢形と思われる。出土分布は主に調査地北側である。200は口縁外面上端がやや突起気味に肥厚している。202・205は口唇部に範状工具によるとと思われる刻みが施される。内・外面ともに貝殻腹縁部や範状の工具によるとと思われるケズリで細やかな調整は施されていない粗製土器である。

#### 18類土器 (第74図206～215・第75図216～219)

繩文時代晩期に相当すると思われる内・外面ともにミガキ調整を施した精製磨研土器を一群にまとめた。調査地北側の平場と調査地南側に分かれて出土する。

206～208は浅鉢の口縁部片と思われる。口縁部は玉縁状を呈し、206・208は外面に、207は内面に沈線を施し段を形成している。

209・210は出土位置も近く同一個体と思われる浅鉢の口縁部～胴部片である。口縁部は玉縁状を呈し、内面に沈線を施し段を形成している。211は口縁部が外反、53は胴部片で、張りが210よりも球に近い。

212は、口縁部～胴部片で、風化により不明瞭ではあるが、口縁部は玉縁状を呈し、口縁部内面に段を有していると思われる。胴部で内側に屈曲し、口縁部に向かって外反している。

213は浅鉢の口縁部～胴部片で、口縁部は玉縁状を呈し、外面に沈線を施し段を形成している。胴部で212よりもゆるやかに内側に屈曲し、口縁部はほぼ直立する。口縁部に鱗状突起を有する。

214は、浅鉢のゆるやかに屈曲する胴部片と思われる。

215は、浅鉢の球～偏球状に張った胴部から口縁部あたりの破片と思われる。

216は、口縁部がほぼ直立すると思われる口縁部片で、全体的な器形は不明である。

217～219は胴部が偏球状に張り、口縁部は短く外反する浅鉢で218は口縁部に鱗状突起を有する。

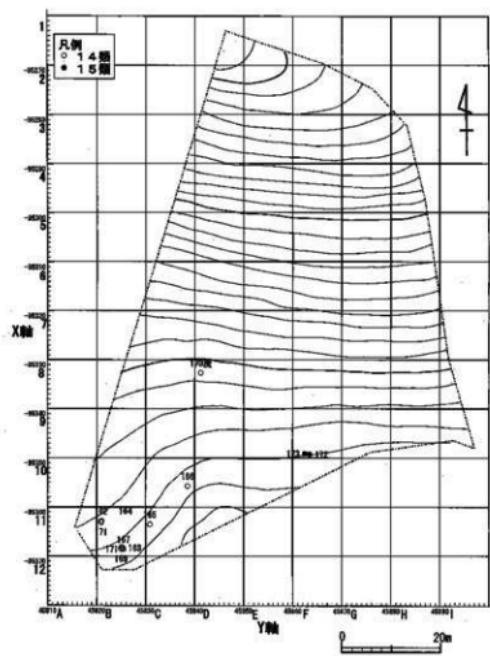
#### 19類土器 (第77図220～227、第78図228～231)

繩文時代晩期に相当すると思われる粗製土器を一群にまとめた。出土分布は主に調査地中央部の斜面部分である。

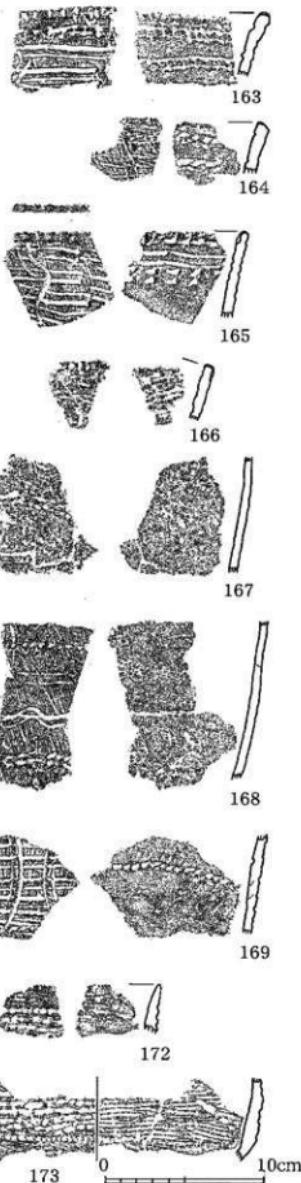
220・221は、やや外反する口縁部片で、内・外面ともにミガキ調整である。

222・223は外傾する口縁部片と思われ、内・外面ともに貝殻腹縁部もしくは範状工具によるとと思われるナデ調整である。

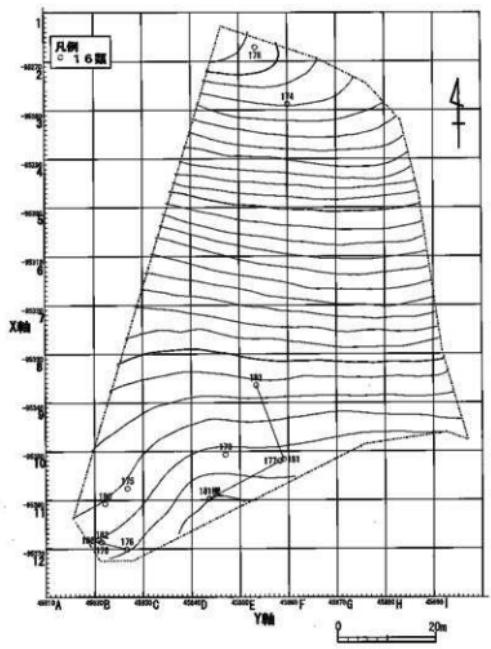
224～227は、やや外傾もしくは外反する口縁部片で、外面に幅広の突帯を貼り付けることで肥厚させ段を形成している。内・外面ともに貝殻腹縁部も



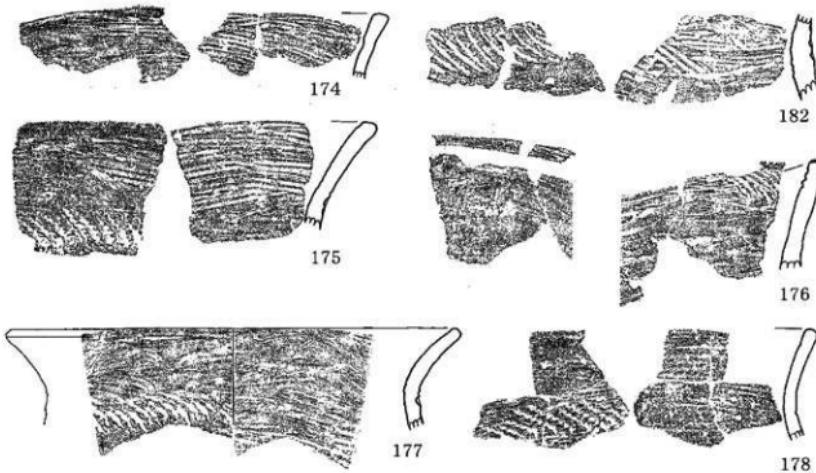
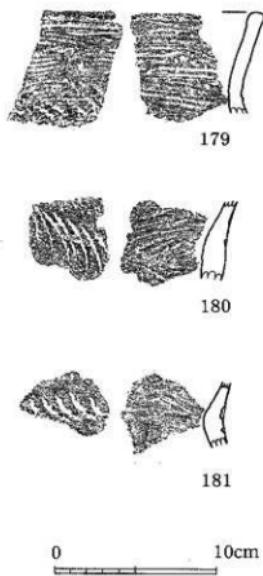
第66図 縄文時代遺物分布図(8)(1/1,000)



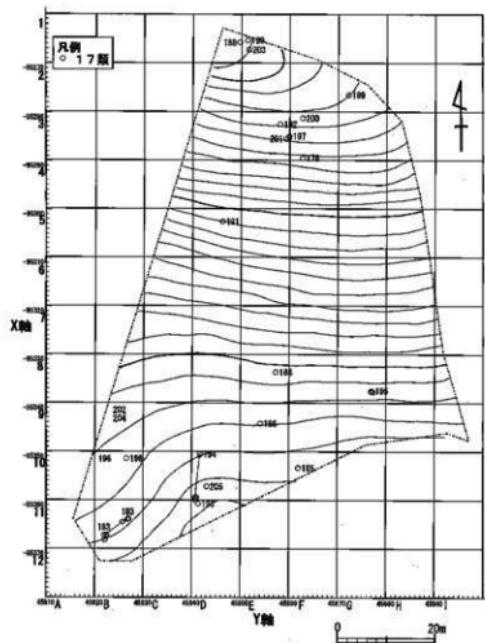
第67図 縄文土器実測図(10) 1/3



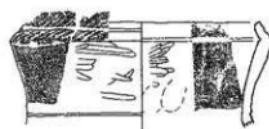
第68図 繩文時代遺物分布図（9）(1/1,000)



第69図 繩文土器実測図（11）1/3



第70図 繩文時代遺物分布図 (10) (1/1,000)



183



184



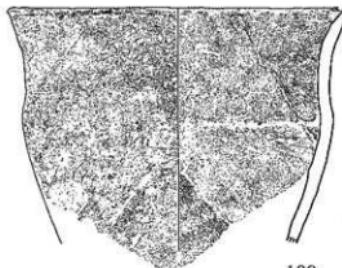
185



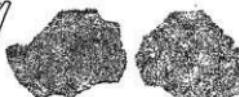
186



187



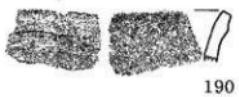
188



189



191



190



192

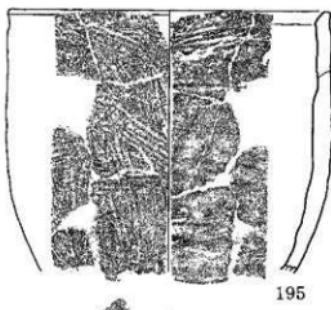


193



194

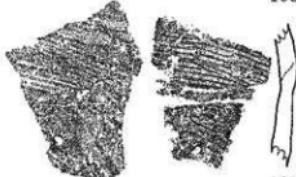
第71図 繩文土器実測図 (12) 1/3



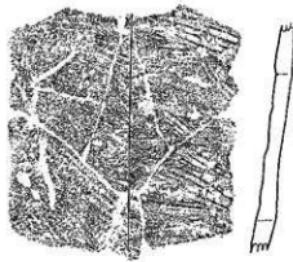
195



196



197



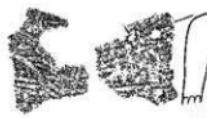
198



199



200



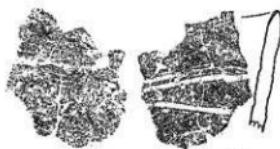
201



202



203

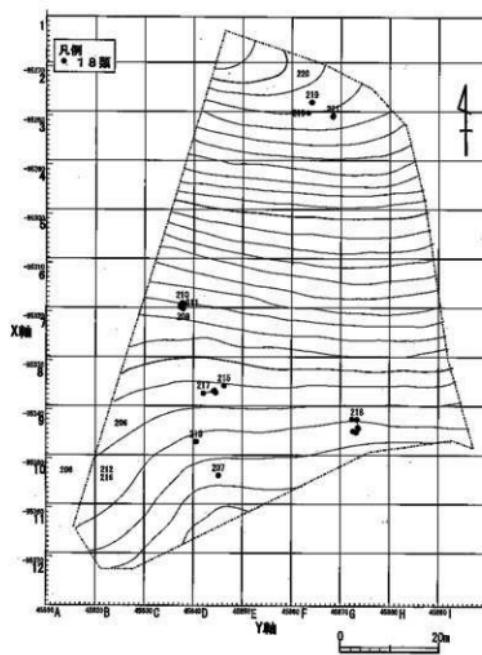


204

0  
10cm

205

第72図 縄文土器実測図 (13) 1/3



第73図 繩文時代遺物分布図 (11) (1/1,000)



206



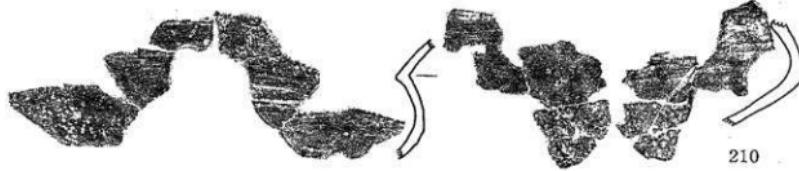
207



208

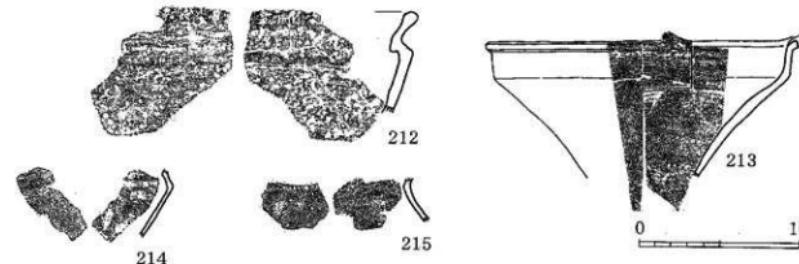


209



211

210



212

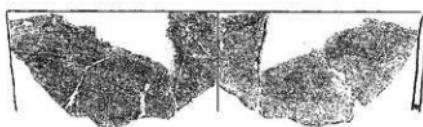
213

214

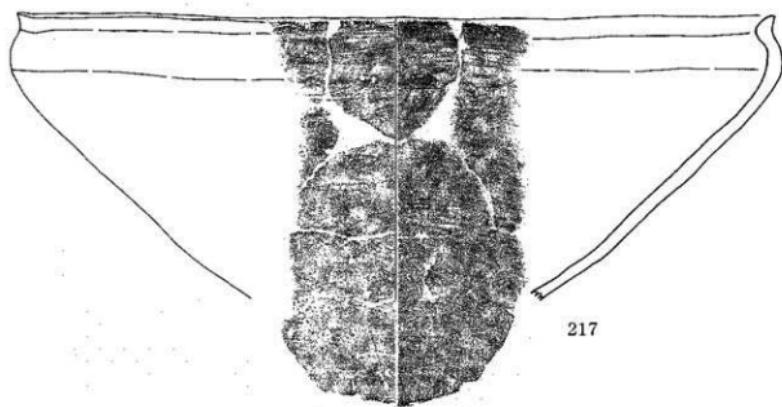
215

0 10cm

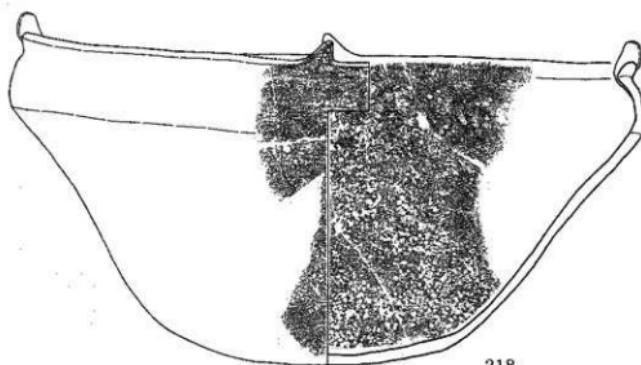
第74図 繩文土器実測図 (14) 1/3



216



217



218

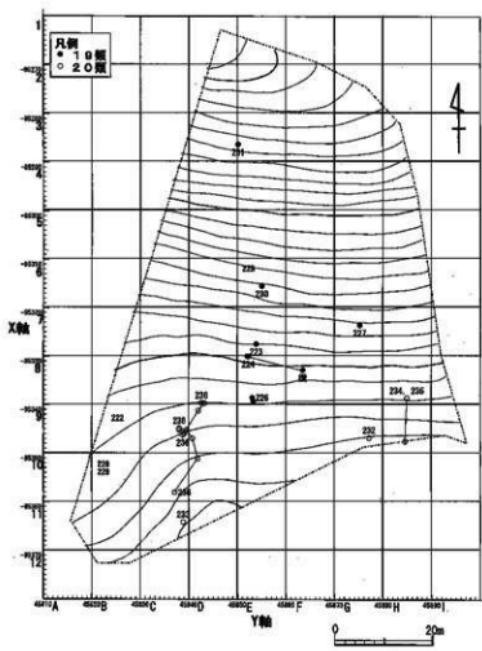


219

0

10cm

第75図 繩文土器実測図 (15) 1/3



第76図 縄文時代遺物分布図(12) (1/1,000)



220



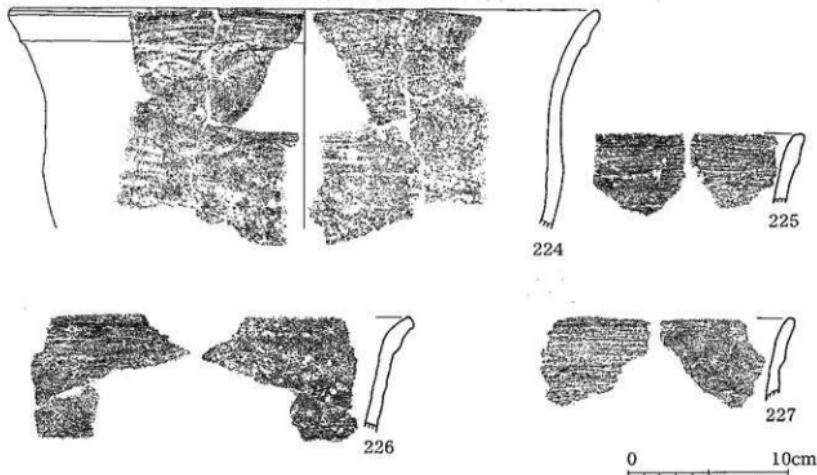
221



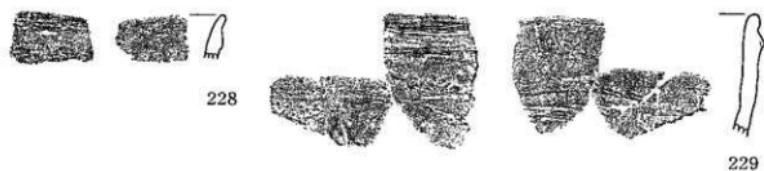
222



223



第77図 縄文土器実測図(16) 1/3

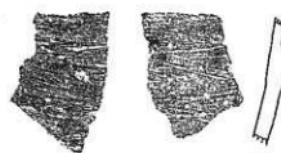


228

229



230



231



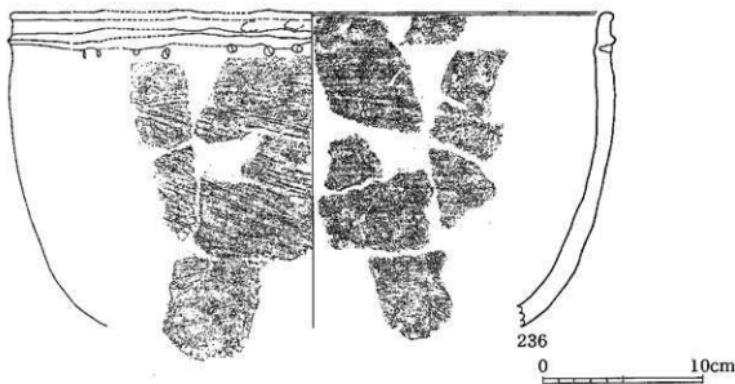
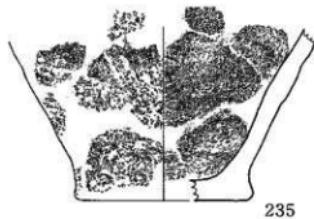
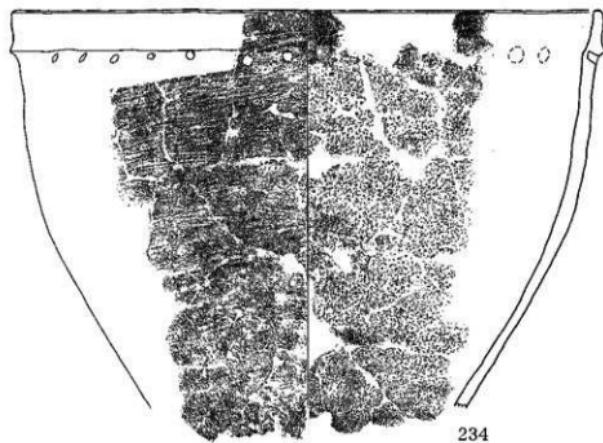
232



233

0 10cm

第78図 繩文土器実測図 (17) 1/3



第79図 縄文土器実測図 (18) 1/3

しくは範状工具によると思われるナデを施す。

228～230は、直立もしくはやや外傾する口縁部片で、外面に幅広の突帯を貼り付け、特に下位を肥厚させ断面三角形の隆起線文状を呈している。

231は、胸部片で、上位の器壁が薄くなる。内・外面ともに貝殻腹縁部もしくは範状工具によると思われるナデ調整である。

#### 20類土器（第78図232・233、第79図234～236）

縄文時代晚期に相当するとと思われる粗製土器のうち口縁外面に未貫通の連続刺突を施すいわゆる「孔列文土器」と呼ばれるものを一群にまとめた。調査地南側で出土している。

232は、口縁部がほぼ直立すると思われる鉢～浅鉢形の口縁部片で、口縁部内面が外面よりやや低く段を有している。

233は口縁部、234・235は、口縁部がやや外傾し、底部にかけてすばまる平底の深鉢形である。口縁外面に幅広の突帯を貼り付け、特に下位を肥厚させ断面三角形の隆起線文状を呈し、その直下に連続刺突を施している。

236は、口縁部がほぼ直立し、胸部以下が球形の浅鉢形と思われる。口縁外面に幅広の突帯を貼り付け特に最上位・最下位を肥厚させ断面三角形の隆起線文（2条）状を呈し、その直下に連続刺突を施している。

#### 21類土器（第81図237～239）

二次堆積K-Ah層より下層（MB0・ML1）で出土した土器のうち、1～10類に当てはまらない縄文土器を便宜上この類にまとめた。時期的には早期と思われる。

237は、直立～外傾すると思われる口縁部片で、E5グリッド（斜面部分上位）からの出土である。口縁部上位外面を肥厚させ、斜位の刺突を3列施す。内・外面ともにナデを施す。

238は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、G5グリッド（斜面部分上位）からの出土である。内・外面ともにナデで、ナデ削られる事で口縁外面の最上位部分がやや段を有している。

239は、胸部片で内面はナデ調整が行われ、外面は縄文が施される。D10グリッド（調査地南側）か

らの出土である。

#### 22類土器（第83図240～246）

二次堆積K-Ah層より出土した土器のうち、11～20類に当てはまらない縄文土器を便宜上この類にまとめた。

240は、外反する口縁部片でナデ調整、外面は貝殻条痕による調整である。F10グリッド（調査地南側）からの出土である。

241は、口縁部片で、243は胸部片もしくは土器片錐と思われる。内・外面ともに丁寧なナデ調整、外面に沈線文が施される。磨消縄文の可能性もある。調査地南西側の平場からの出土である。

242は、胸部片で、内・外面ともにナデ、外面に棒状工具によると思われる連続刺突文が施される。IIIa層からの出土した。

244・245は胸部片で、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデ、外面に梯状工具によると思われる連続刺突文が施される。調査地南側からの出土である。

246は、ほぼ直立すると思われる口縁部片で、内・外面ともに貝殻条痕が施される。B8グリッドからの出土である。

#### 23類土器（第85図247～251）

二次堆積K-Ah層より下層（MB0・ML1）で出土した土器のうち、底部をこの類にまとめた。

247は、内・外面ともにナデである。

248は、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデ、網代底である。

249は、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデ、木の葉底である。

250は内面はナデ、外面は貝殻条痕が施される。

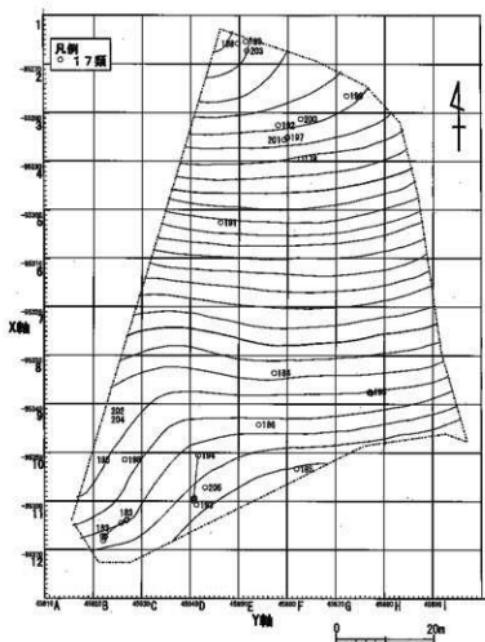
251は、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデである。

#### 24類土器（第85図252～256、第87図257～261）

二次堆積K-Ah層より出土した土器のうち、底部をこの類にまとめた。

252・253は内・外面ともに範状工具によると思われるナデ、網代底である。

254・255は、内面はナデ、外面は貝殻条痕が施される。



237



238



239

第81回 繩文土器実測図 (19) 1/3

第80図 紅文時代遺物分布図 (13) (1/1,000)

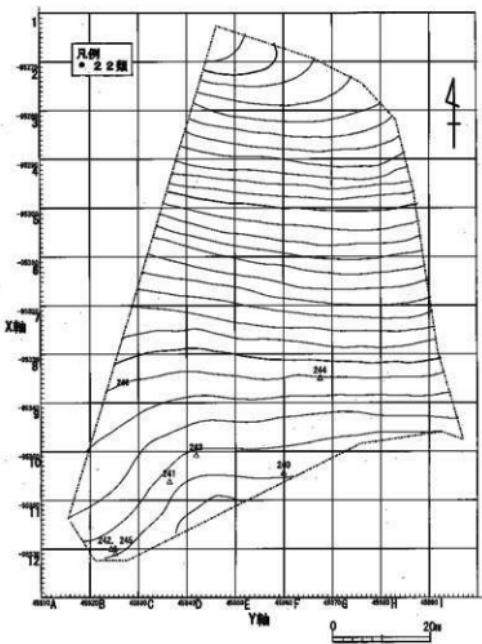
256～258は、風化により不明瞭ではあるが、内・外面ともにナデ、網代底である。

259・260は、風化により不明瞭ではあるが、内面はナデ、外面はミガキ～ナデと思われる。259は上げ底である。

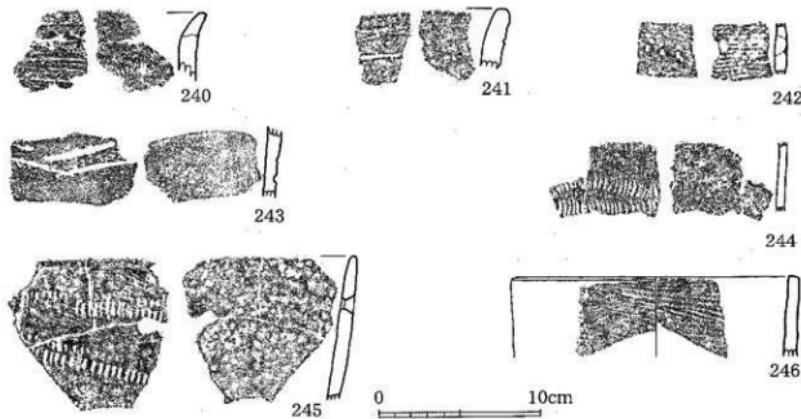
261は、外面は貝殻条痕、内面はナデが施される。

### 土器片錐 (第89図262~272)

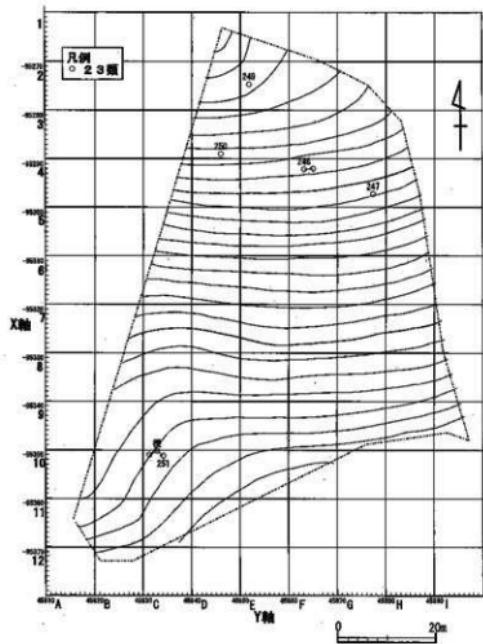
土器片錐は全て二次堆積K-Ah層で出土した。主に調査地南側で出土したが、調査地北側（斜面部分上位）からも2点出土している。完形に近いものは264・267・268で他は破片である。



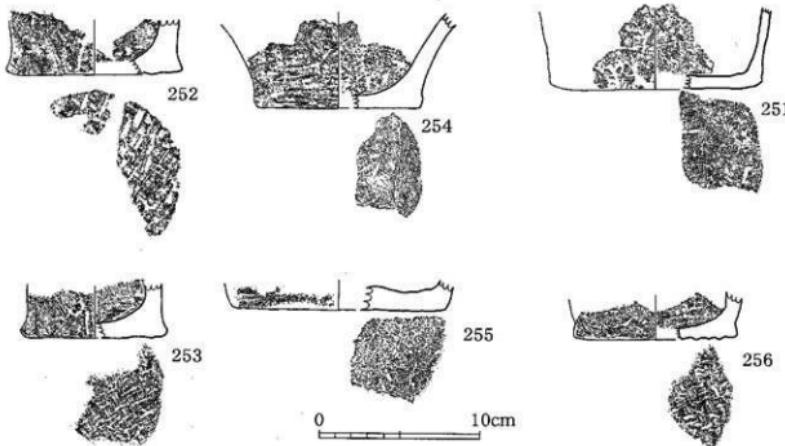
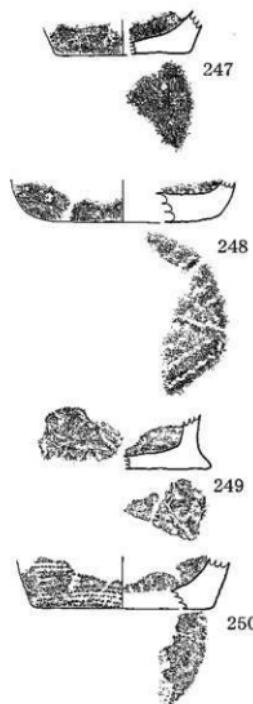
第82図 繩文時代遺物分布図 (14) (1/1,000)



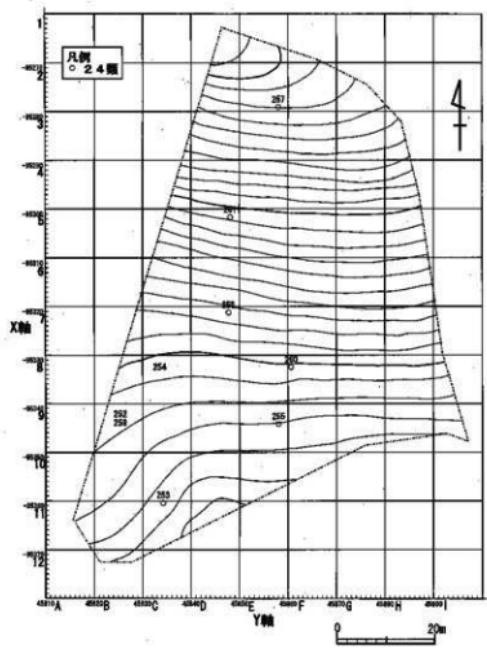
第83図 繩文土器実測図 (20) 1/3



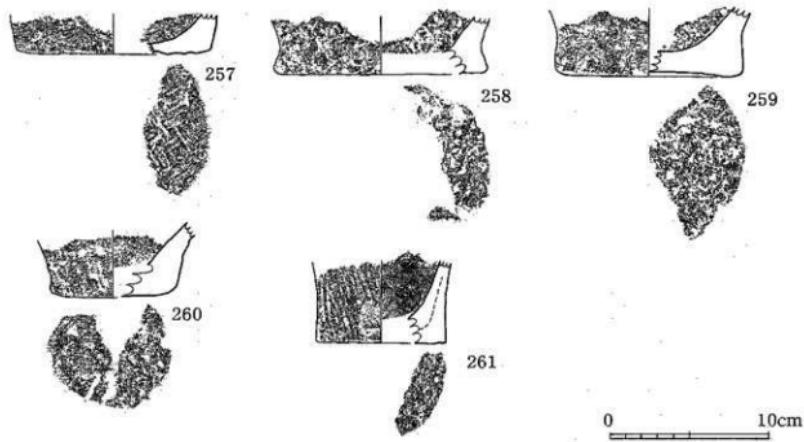
第84図 繩文時代遺物分布図 (15) (1/1,000)



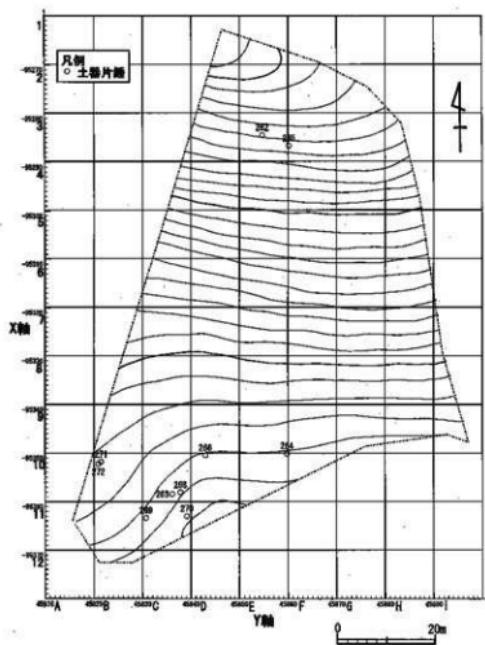
第85図 繩文土器実測図 (21) 1/3



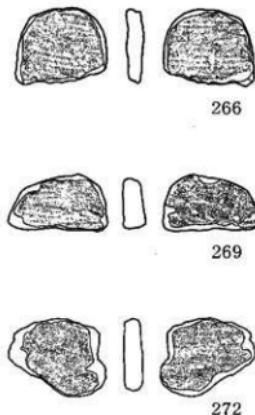
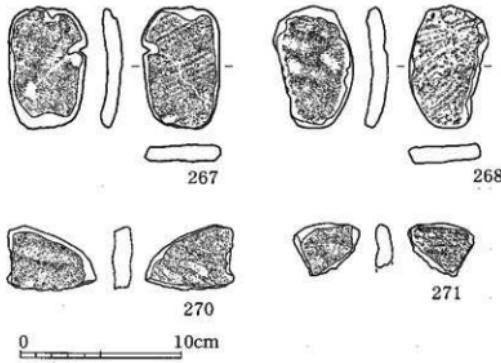
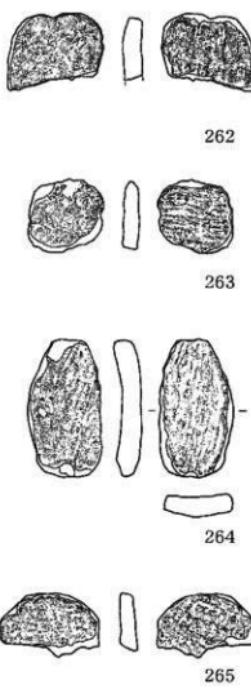
第86図 繩文時代遺物分布図 (16) (1/1,000)



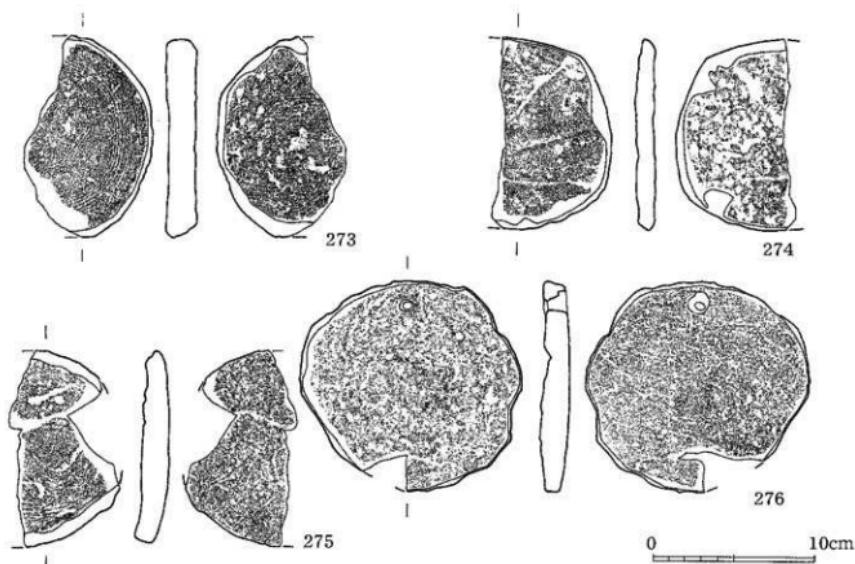
第87図 繩文土器実測図 (22) 1/3



第88図 繩文時代遺物分布図 (17) (1/1,000)



第89図 土器片鉢実測図 1/3



第90図 円盤実測図 1/3

### 円盤（第90図273～276）

円盤は全て二次堆積K-Ah層で4点出土した。ほぼ完形近いものは276で上部に穿孔を一箇所有す。その他は半分以上が欠損している。

### 5 包含層出土石器（二次堆積K-Ah下）

主にMB 0（基本層序IV層）、ML 1（基本層序V層）相当層出土の土器は、縄文時代草創期～早期の石器と考えられ、第91図に出土状況を示した。

#### 接合資料3（第92図277・278）

277・278は灰色のチャート製で、F10グリッドから出土し、0.25m以内の接合資料である。

#### 打製石鎌（第92図279～305）

打製石鎌については、43点出土しておりそのうち27点を図化した。利用石材はチャートが24点、頁岩7点、黒曜石（黒色透明）5点、黒曜石（白色）5点、黒曜石（灰色）1点、ホルンフェルス1点である。平面形態と抉りについて分析するため、ほぼ完形のもので、「最大長／最大幅」、「抉り長／最大長」を算出した（第4表）。

第4表 石鎌分析（1）

	最大長／最大幅	抉り長／最大長
279	1.9	0.22
286	1.2	0.39
291	1.4	0.20
287	1.4	0.08
300	1.1	0.11
298	1.0	0.23
305	1.0	0（平基）
297	1.1	0.41
292	1.2	0.20
293	1.0	0.14
304	1.4	0（平基）
288	1.2	0.08
303	1.1	0（平基）
294	1.8	0.25
295	1.6	0.05
7122	1.3	0.13
5492	1.4	0.17
7657	1.5	0.15

※7122・5492・7657は本報告書末掲載

279は灰色のチャート製で、「最大長／最大幅」1.9と最も綫長のものでU字状の抉りを作り出すもので、欠損をしているが、280～285は同じチャート製で同型と考えられる。286は同じチャート製であるが比較的綫が短いタイプで「抉り長／最大長」が0.39と抉りが深いタイプである。

287はチャート製でやや綫長で抉りは弧状の浅いタイプで、頁岩製の288・289も同型と考えられる。

290・291はチャート製で比較的小型で抉りが弧状のものである。292・293は黒曜石（黒色透明）製で同型のものである。

294は頁岩製で、綫長タイプで弧状の抉りで脚部を尖らせるタイプである。295は頁岩製でより小型でより綫が短めになるもの、296は黒曜石（白色）製で、先端部と脚部が欠損しているが、ほぼ同型と考えられるが、側縁部はより鋸齒状である。

297は、黒曜石（黒色透明）製で「抉り長／最大長」が0.41と最も抉りが深いタイプである。

298は、チャート製で最も綫が短くU字状の抉りをもつ。

299は黒曜石（灰色）製で脚部が一部欠損しているが、比較的綫長で抉りは浅いタイプである。

300は、チャート製で比較的綫が短く、抉りも浅いものである。

301・302は、黒曜石（白色）製で、共に脚部が一部欠損しているが、比較的綫長で301は脚部が丸く、302は角張るタイプである。

303～305は平基のもので、304・305が黒曜石（黒色透明）製、303が頁岩製である。

#### 尖頭器（第92図306～309）

306～309は欠損しているが尖頭器と考えられる。306は褐色のチャート製、308は灰色のチャート製で、打製石鎌に使用されていたものと同質である。307・309は頁岩製である。

#### 異形石器（第93図310・311）

310は黒曜石（黒色）製で、欠損をしており全体は不明であるが、不定形剥片の下縁部に細かい調整が施される。

311は灰色のチャート製で、欠損をしており全体は不明であるが、綫長剥片の一側縁に細かい調整が

施される。

#### 削器（第93図312～315）

312は頁岩製で、縦長剥片の自然面が残る表面から二側縁に調整加工を施し、刃部を形成している。

313は、頁岩製で不定形剥片の下縁に調整加工を施し、刃部を形成している。

314はホルンフェルス製で、自然面の残る礫片を素材に、上縁以外のほぼ全周に表面から調整加工を施し、刃部を形成している。

315は頁岩製で、不定形剥片の表面から一側縁に調整加工を施し、刃部を形成している。

#### 微細剥離のある剥片（第93図316）

316は微細剥離のある剥片で、縦長剥片の二側縁に微細剥離が観察できる。

#### 礫器（第94図317）

317は砂岩製で表面が赤化している。筋理によつて生じた礫片を素材に、自然面の残る表面から下縁に調整加工を施し、刃部を形成している。

打製石斧（第94図318～321、第96図322・323、97図324～327、第98図328）

打製石斧は17点出土し、そのうち12点図化した。利用石材は、ホルンフェルスが16点で、緑色岩が1点である。完形が10点、刃部のみが6点、頭部のみが1点である。

318は緑色岩製、319～321はホルンフェルス製で、いずれも礫片を素材としたもので、318～320は自然面が残る。321は頭部で刃部が欠損していると思われる。

322～327はホルンフェルス製で、1箇所からまとまって出土した（第95図）。322・323・325・326は横長の剥片を素材とし、327は縦長の剥片、324は自然面の残る礫片を素材としている。

328は、ホルンフェルス製で、不定形の剥片を素材とし、頭部を細く加工し刃部が幅広のものである。

#### 磨製石斧（第98図329）

329は細粒な砂岩製で、頭部が欠損している。自然面の残る礫片を素材とし、両側縁の一部に磨痕がみられる。

#### 磨石（第98図330～334、第99図335～337）

磨石は38点出土し、完形が27点でそのうち8点

を図化した。利用石材は、尾鈴山酸性岩類が22点、砂岩が16点である。

330～334は尾鈴山酸性岩類で、335～337は砂岩製である。全て表裏面ともに磨痕がみられる。333・335・336は側縁に敲打痕がみられる。

#### 敲石（第99図338）

338は、頁岩製で、上下両端に敲打痕がみられる。

#### 台石（第99図339）

339は砂岩製で、素材の礫をそのまま加工せずに使用し、表面に磨痕、ほぼ全周縁に敲打痕がみられる。

#### 凹石（第99図340・341、第100図342～344）

340～344は砂岩製で、全て表裏面どちらも凹んでいる。340・344は表裏面とも2箇所、341は裏面が2箇所、342は表面が2箇所と裏面は多数凹んでいる。また、340・341・343は敲打痕がみられる。

#### 石錐（第100図345・346）

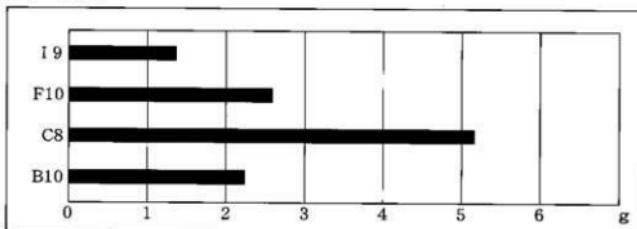
345・346とともに砂岩製で、扁平で丸い礫の短軸を打ち欠いている。

#### 剥片・碎片

チャート・黒曜石の剥片・碎片についてはグリッドごとに質量を計測した（第5表～第9表）。

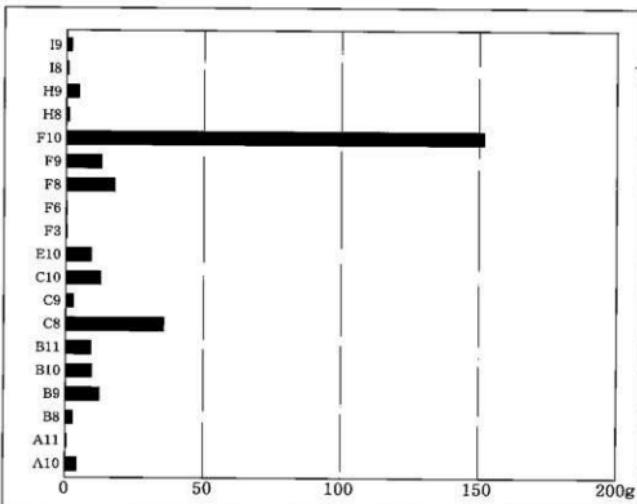
第5表 赤・褐色系チャート重量

グリッド	(g)
I9	1.4
F10	2.7
C8	5.2
B10	2.3



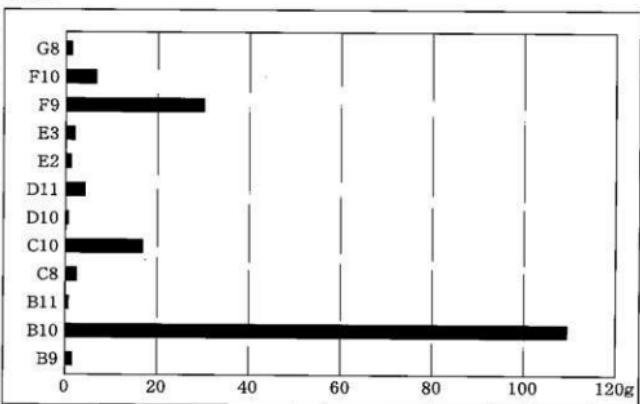
第6表 灰色チャート重量

グリッド	(g)
I9	2
J8	0.3
H9	4.2
H8	0.8
F10	152
F9	14
F8	17
F6	0.1
F3	0.3
E10	12
C10	15
C9	3
C8	35
B11	12
B10	12
B9	15
B8	3.2
A11	0.2
A10	4.5

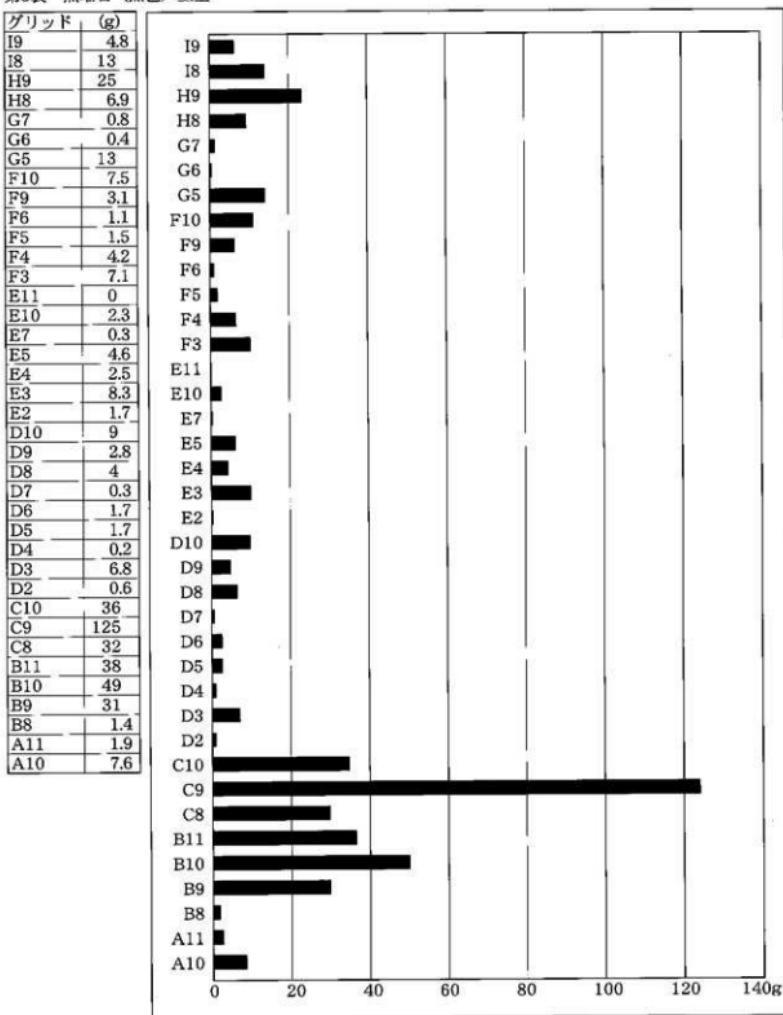


第7表 白色チャート重量

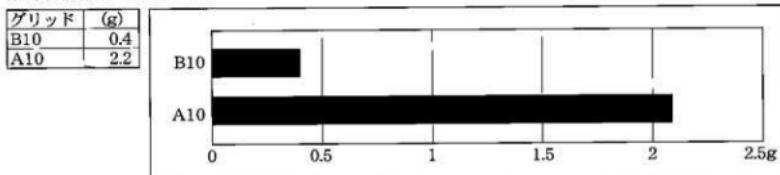
グリッド	(g)
G8	1.3
F10	7.3
F9	32
E3	1.5
E2	0.9
D11	5
D10	0.3
C10	18
C8	2.2
B11	0.3
B10	110
B9	0.9

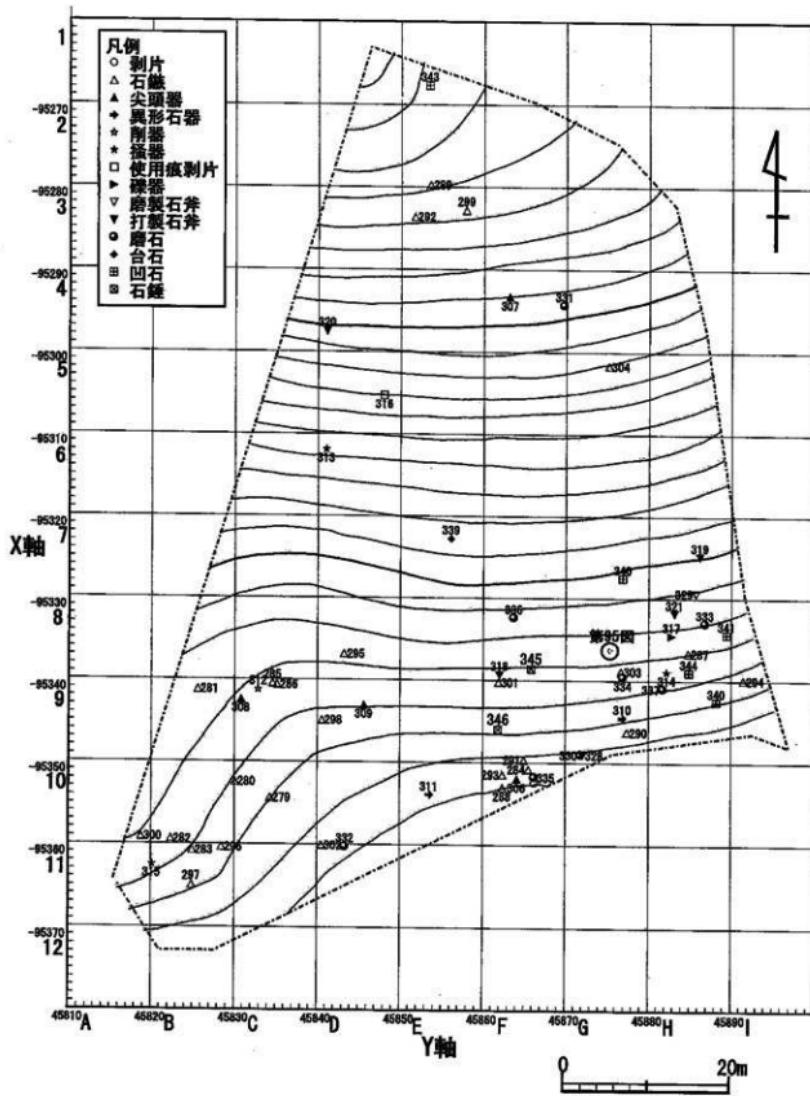


第8表 黒曜石（黒色）重量

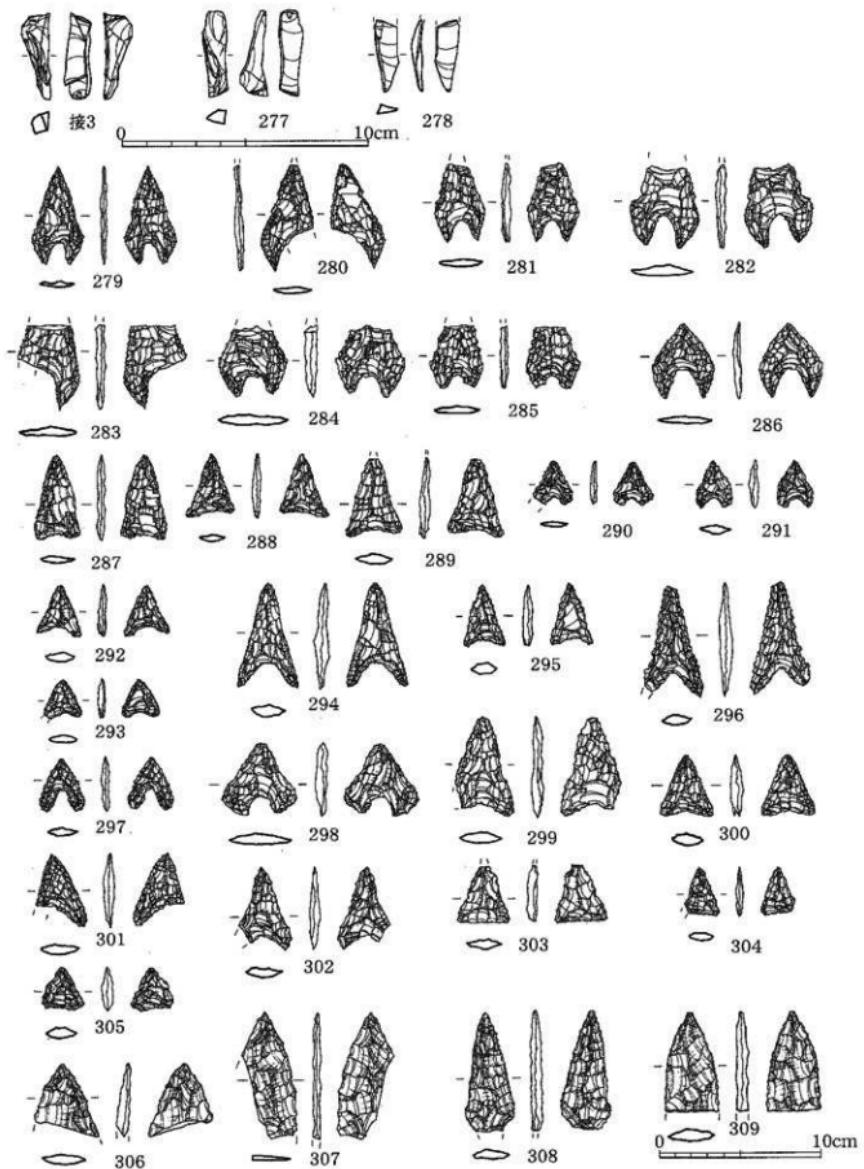


第9表 黒曜石（白色）重量

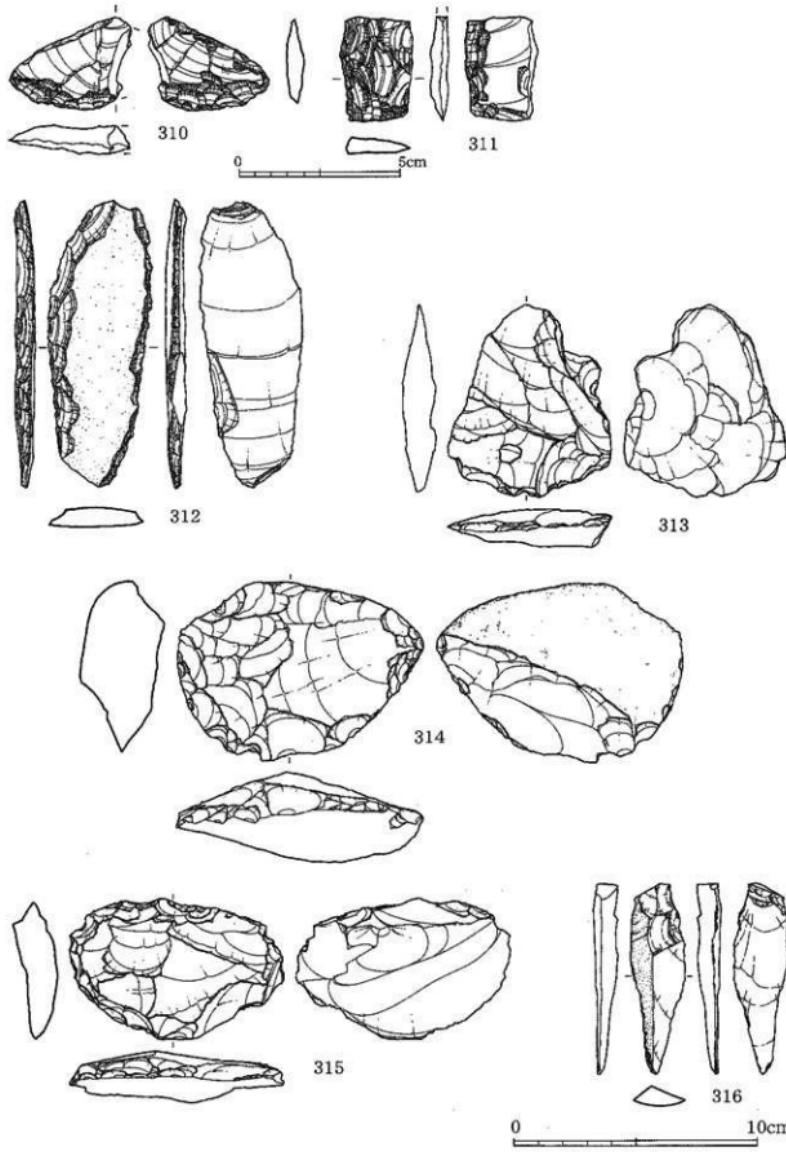




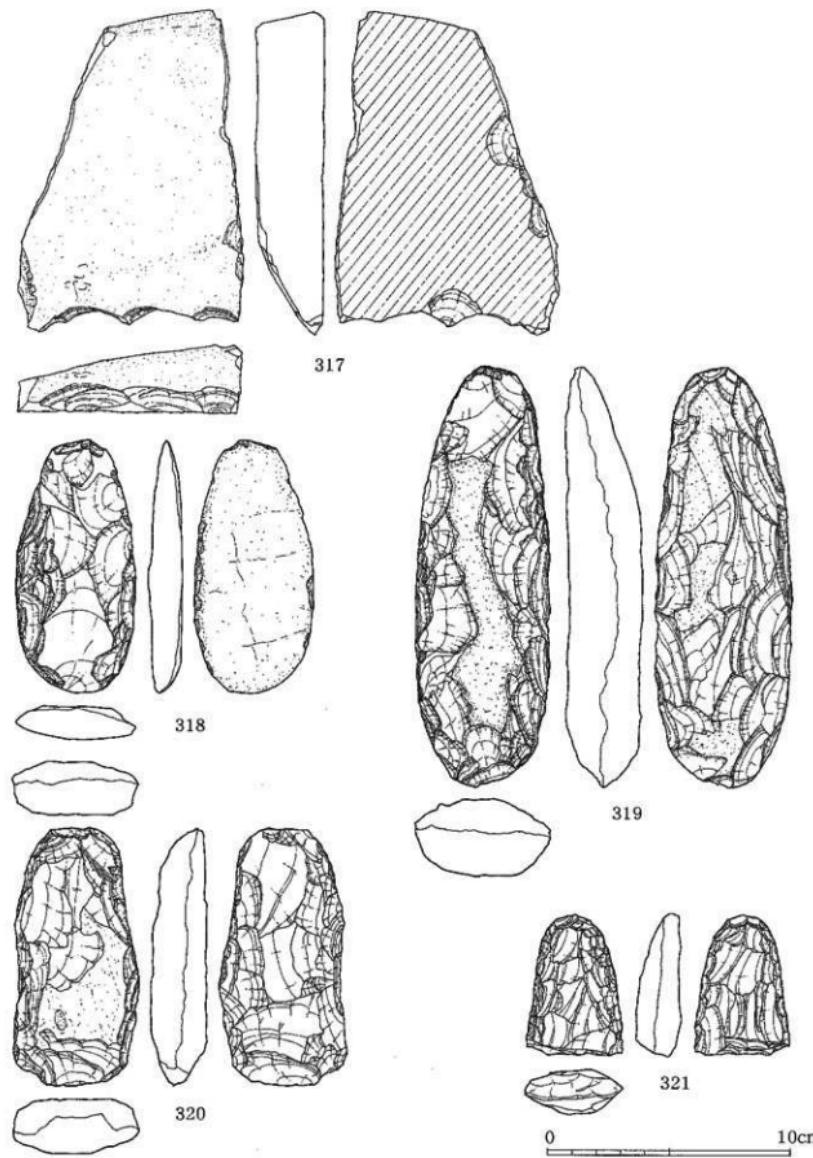
第91図 繩文時代（K-Ah層下）石器分布図（1/600）



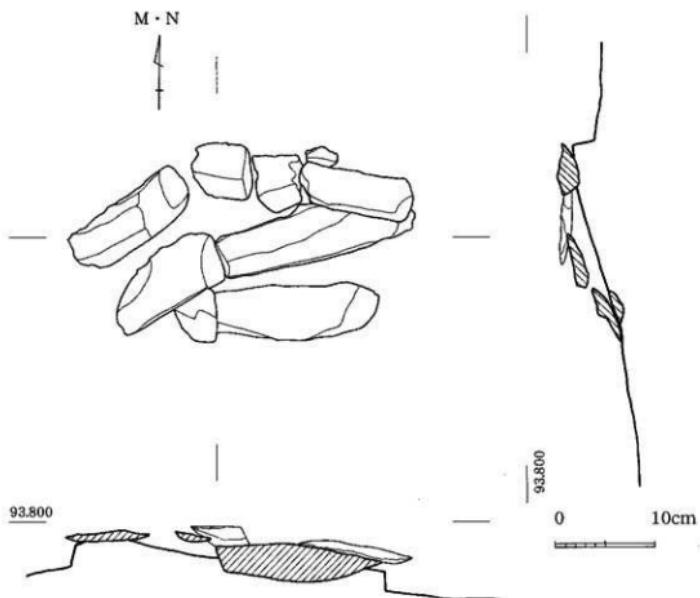
第92図 繩文石器実測図（1） 接3、277、278 (1/2) 279~309 (1/3)



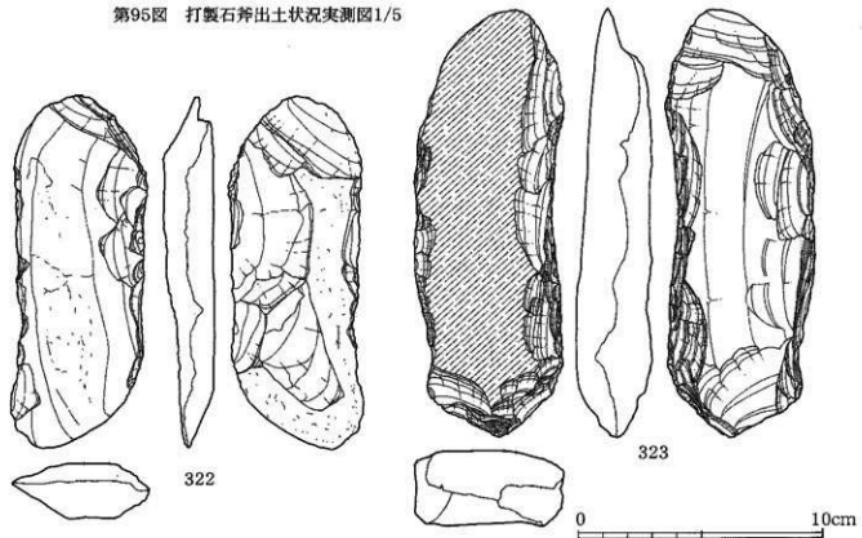
第93図 繩文石器実測図 (2) 310・311 (2/3) 312~316 (1/2)



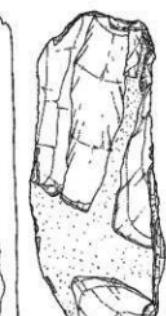
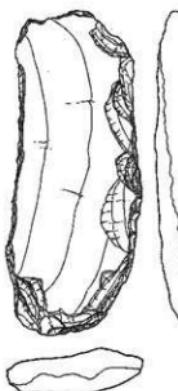
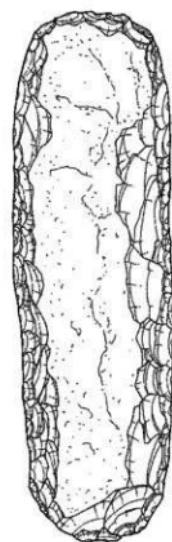
第94図 縄文石器実測図（3）1/2



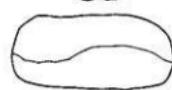
第95図 打製石斧出土状況実測図1/5



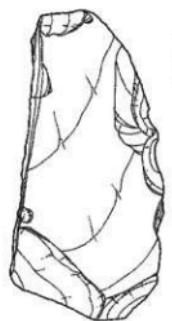
第96図 繩文石器実測図(4) 1/2



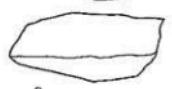
325



324

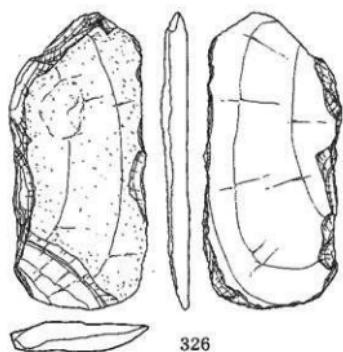


327



0

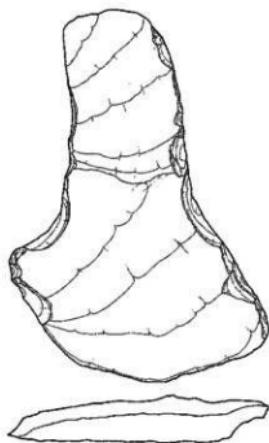
10cm



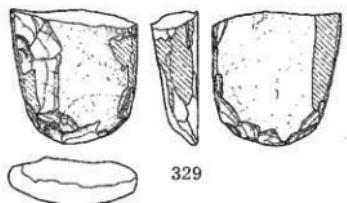
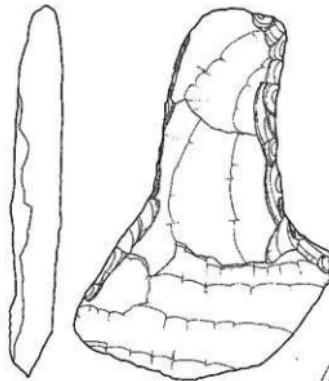
326



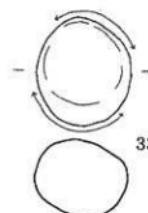
第97図 繩文石器実測図（5）1/2



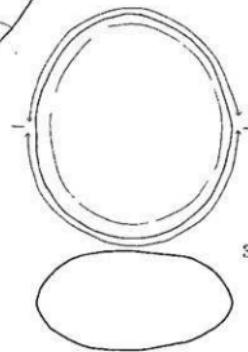
328



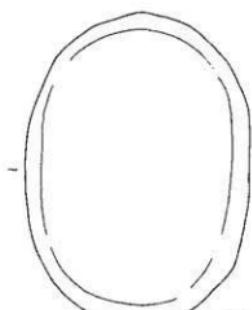
329



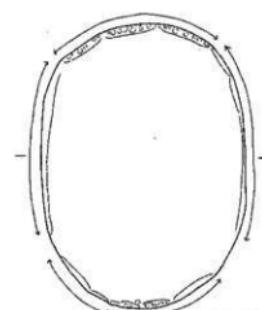
330



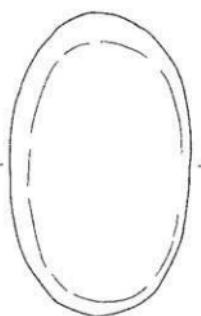
331



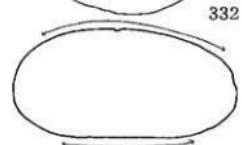
332



333

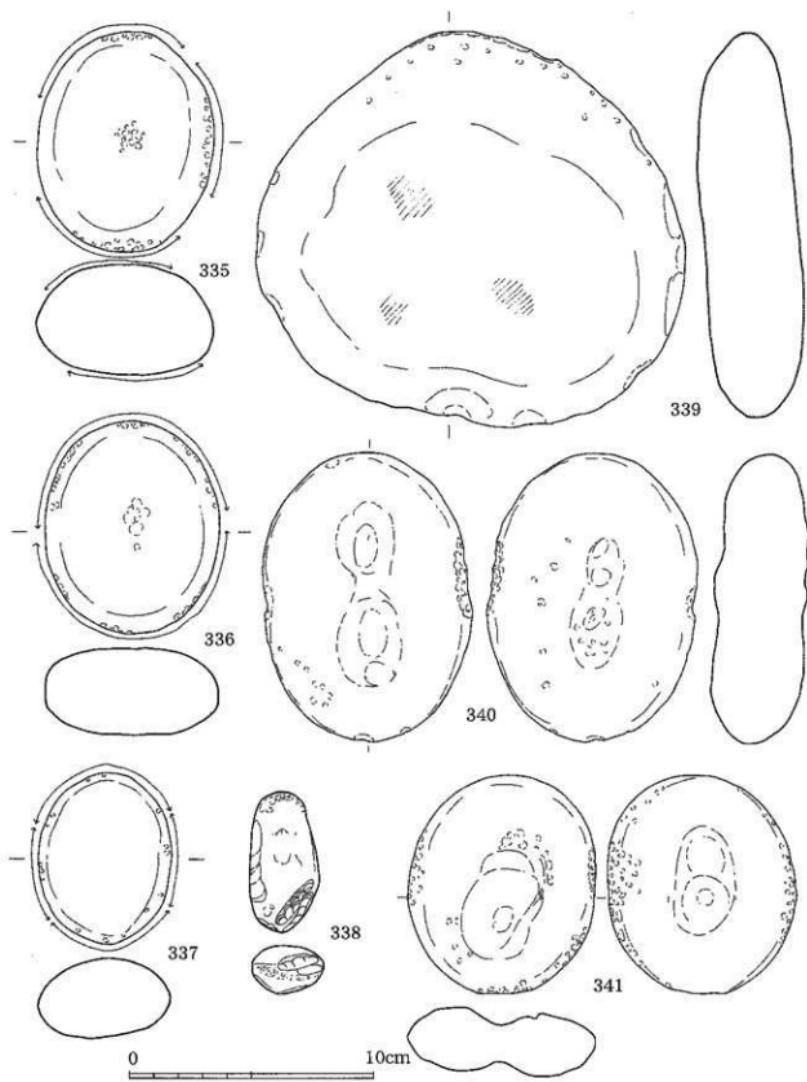


334

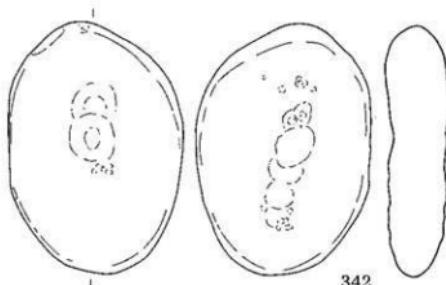


0 10cm

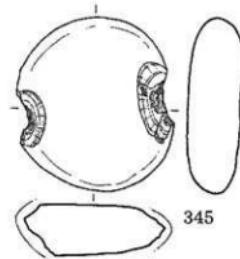
第98図 繩文石器実測図 (6) 1/2



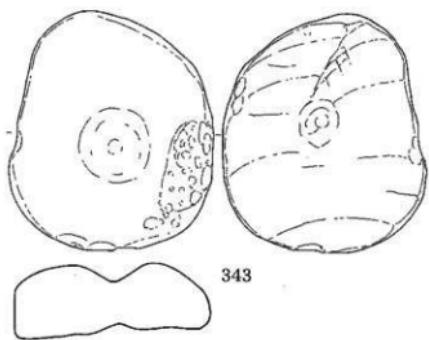
第99図 繩文石器実測図（7）1/2



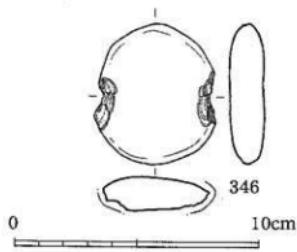
342



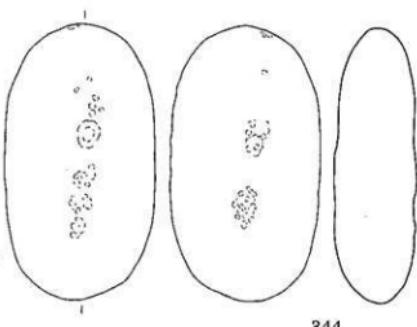
345



343



10cm



344

第100図 繩文石器実測図 (8) 1/2

## 6 包含層出土石器（二次堆積K-Ah層）

二次堆積K-Ah層（基本層序Ⅲa層）出土の石器のうち、縄文時代のものと思われるものを第101図 縄文時代（二次堆積K-Ah）石器分布図に出土状況を示した。

### 打製石鎌（第102図347～363）

打製石鎌は、20点出土し、そのうち17点を図化した。利用石材は、チャート12点、黒曜石（白色透明）5点、黒曜石（黒色透明）1点、頁岩2点である。ほぼ完形のもので、「最大長／最大幅」、「抉り長／最大長」を算出した（第10表）。

第10表 石鎌分析（2）

	最大長／最大幅	抉り幅／最大長
347	1.71	0.21
348	1.43	0.31
349	1.43	0.35
350	1.41	0.29
363	1.72	0.10

347は黒曜石（白色透明）製で、縦長タイプでV字状の抉りをもつ、両側縁に抉りがある。

348～350は、深い抉りをもち、平面形態が逆V字状を呈するもので、348・349が白色のチャート製、350がやや褐色のチャート製、351は黒曜石（灰白色）製で先端部が欠損し側縁が鋸歯状であるが同型か近いタイプだと考えられる。

352は黒曜石（白色透明）製で、先端部と脚部が欠損しているが、比較的縦長で浅い弧状の抉りを作り、脚部がやや尖る。

353は黒曜石（白色透明）製で、先端部と脚部が欠損しているが、比較的縦長でやや浅い弧状の抉りを作り出している。

354は黒曜石（白色透明）製で、脚部が欠損しているが、比較的小型で、縦が短いタイプであり、ごく浅い抉りを作り出している。

355は灰色のチャート製で、脚部と側縁の一部が欠損しているが、比較的縦長でごく浅い抉りを作り出している。

356は褐色のチャート製で、先端部が欠損しているが、比較的縦が短いタイプで弧状の浅い抉りを作り出している。

357は黒色のチャート製で、比較的縦長で弧状の抉りを作りだし、脚部はやや尖る。

358は黒色のチャート製で、先端部が欠損しているが、縦が短く、深い抉りをもち脚部が丸い。

359は、オリーブ褐色のチャート製で比較的縦長で浅い弧状の抉りを作り出している。

360は、灰褐色のチャート製で脚部が大きく欠損しているが、比較的縦長でごく浅い抉りを作り出していると思われる。

361はオリーブ褐色のチャート製で先端部が欠損しているが、比較的縦長で弧状の抉りを作りだし、脚部はやや丸い。

362は風化した灰色のチャート製で先端部が欠損しているが、やや縦が短くU字状の抉りを作り出し脚部は丸く膨らんでいるが先端は尖る。

363は頁岩製で縦長で、弧状の浅い抉りを作り出している。側縁は鋸歯状である。

### 局部磨製石鎌（第102図364）

364は緑色岩製で、縦長で平基である。表裏面ともに一部磨痕がみられる。

### 石匙（第102図365～368）

365は黒曜石（白色）製で縦長の剥片を使用し、両側縁に裏面から調整加工を施している。

366は黒曜石（白色）製で、欠損しているが、つまりは、ほぼ中央で表裏面から調整加工を施している。

367は白色のチャート製で、欠損しているが、つまりは、ほぼ中央で表裏面から調整加工を施している。

368は、頁岩製で、縦長の剥片を使用し、裏面から両側縁に調整加工を施している。

### 搔器（第103図369・370、第104図371・372）

369は頁岩製、370は尾鈴山酸性岩類で、自然面の残る剥片を使用し、表面からほぼ全周縁に調整加工を施している。

371・372はホルンフェルス製で、371は自然面の残る、372は不定形の剥片を素材とし、一侧縁から下縁にかけて表面から調整加工を施している。

**打製石斧**（第104図373・374、第105図375～380、第106図381～383）

打製石斧は17点出土し、そのうち11点を圓化した。全てホルンフェルス製である。完形が6点、刃部のみが3点、頭部が8点である。

373は、剥片を素材とし、表裏両面から調整加工を施している。

374～377は、自然面の残る礫片を使用し、374・377は表裏両面から、375・376は表面から調整加工を施している。

378は、頭部が欠損し、刃部のみである。自然面の残る礫片を使用し表裏両面から調整加工を施している。

379～381はいずれも頭部のみで刃部が欠損している。379・381は自然面の残る礫片、380は剥片を素材とし、表裏両面から調整加工を施している。

382は、自然面の残る礫片を使用し、表裏両面から調整加工を施し、頭部を細く作り出している。

383は、自然面の残る礫片を使用し、表裏両面から調整加工を施し、中央部に抉りを作り出している。

**磨製石斧**（第106図384・385、第107～110図386～404）

磨製石斧は、40点出土し、そのうち21点を圓化した。利用石材はホルンフェルスが32点、砂岩が4点、頁岩が4点である。完形5点、刃部のみ19点、頸部のみ16点である。

384～387は砂岩製で、384・386は刃部のみで、386は刃部がやや広がる。385は比較的扁平で側縁に稜を有する。387は頭部のみで、刃部付近が最大幅となる台形状と思われる。

388は頁岩製で、刃部のみである。

389・390は緑色岩製で、389は刃部付近が最大幅となる橢円形である。390は刃部のみで、先端はほぼ直線的である。

391～404はホルンフェルス製で、391・392は全体の形が隅丸の方形のもの、393は刃部付近が最大幅となる橢円形である。394～397は刃部のみで394は側縁に明瞭な稜を有するもの。395～397は側縁を研磨などで幅広の面を作り出している。398～404は頭部のみで、400～403は全体の形が隅丸

方形状と考えられる。399・404は全体の形が刃部付近が最大幅となる橰円形と考えられる。

**磨石**（第111図、第112図414・415）

磨石は45点出土し、完形が21点そのうち11点を圓化した。利用石材は、尾鈴山酸性岩類が37点、砂岩が8点である。

405～410は尾鈴山酸性岩類、411～415は砂岩製で全て表裏面とともに磨痕がみられる。405・406・410～412・414は側縁に敲打痕がみられる。

**敲石**（第112図416～420、第113図421・422）

敲石は8点出土しそのうち7点を圓化した。利用石材は砂岩が6点、頁岩が1点、ホルンフェルスが1点である。

416は頁岩製で、上下両端に敲打痕がみられる。

417～422は砂岩製で、417・418は下端に、419・421は上下両端に、420・422は上下両端と一側縁に敲打痕がみられる。

**凹石**（第113図423）

423は砂岩製で、表裏両面に凹が付けられている。

**砥石**（第113図424・425）

424・425は共に細粒の砂岩製で、表面に磨痕がある。

**石錘**（第113図426～429、第114図）

石錘は47点出土し、完形は44点でそのうち19点を圓化した。利用石材はホルンフェルスが21点、砂岩が15点、頁岩が10点、尾鈴山酸性岩類が1点である。

426・427は頁岩製、428～435は砂岩製、436～444はホルンフェルス製である。426は長軸の両端に擦り切りによる切り込みをいたるもの、427～444は長軸の両端を打欠いたものである。

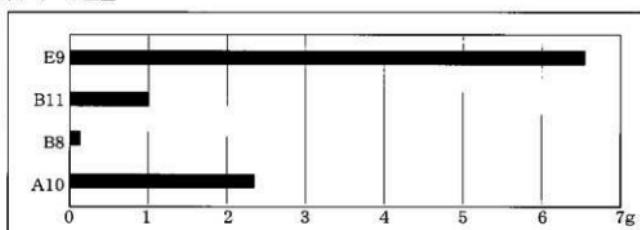
**剥片・碎片**

チャート・黒曜石の剥片・碎片についてはグリッドごとに質量を計測した。（第10～第13表）

この他、尾鈴山酸性岩類、ホルンフェルス製等の剥片・石核類も多数出土している。

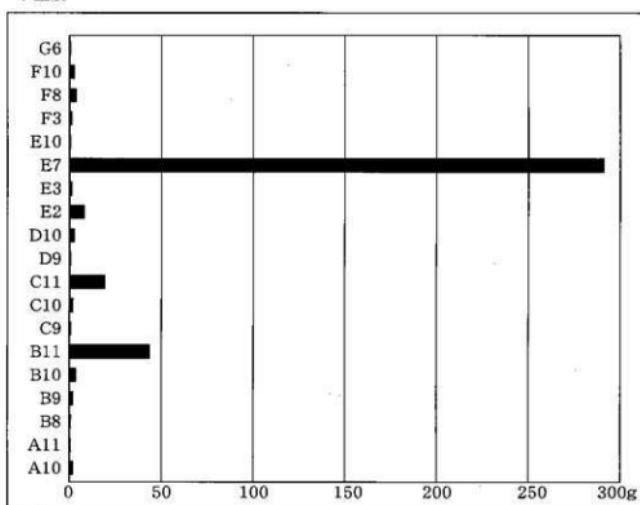
第11表 赤・褐色系チャート重量

グリッド	(g)
H9	1.9
F4	1.5
E9	6.6
B11	1.1
B8	0.1
A10	2.5



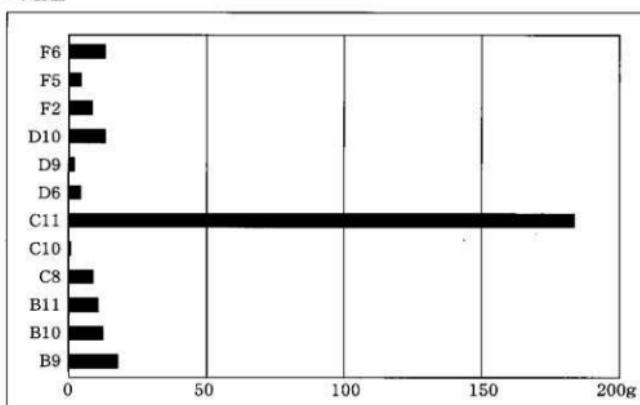
第12表 灰色チャート重量

グリッド	(g)
G7	1
G6	0.2
F10	1.9
F8	3
F3	1.4
E10	0.4
E7	287
E3	0.3
E2	6.5
D10	2.8
D9	0.1
C11	15
C10	1.9
C9	0.3
B11	40
B10	3.4
B9	1.9
B8	0.2
A11	0.2
A10	1.8

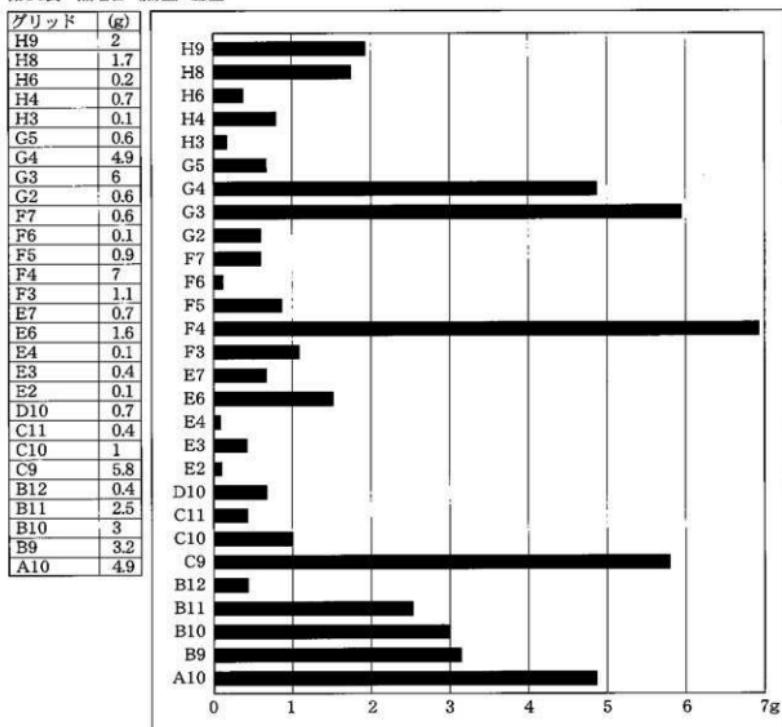


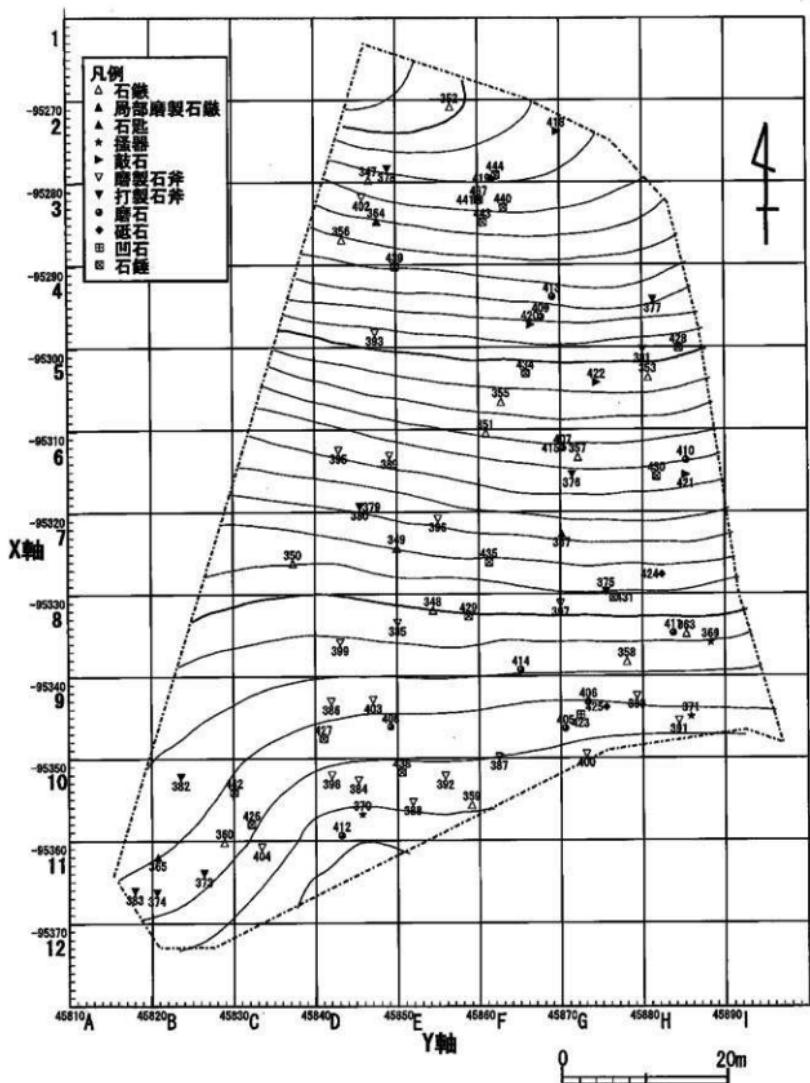
第13表 白色チャート重量

グリッド	(g)
H3	2.6
G3	0.5
F10	0.3
F8	2
F6	13
F5	4.5
F2	6.2
D10	13
D9	2.7
D6	4.6
C11	184
C10	0.4
C8	8.5
B11	11
B10	12
B9	18

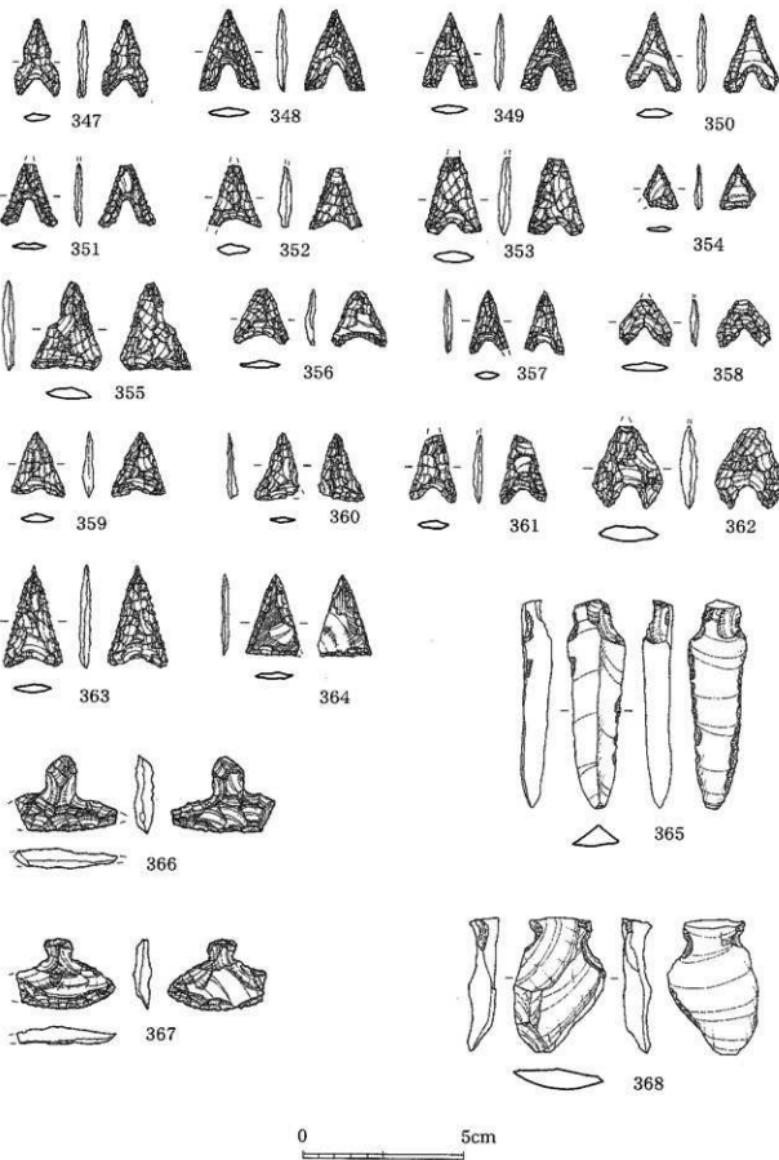


第14表 黒曜石(黒色)重量

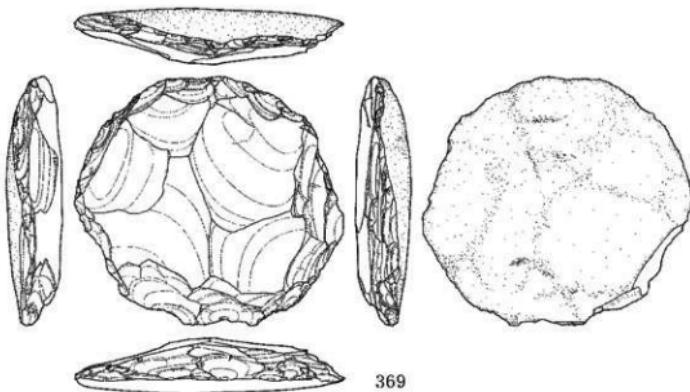




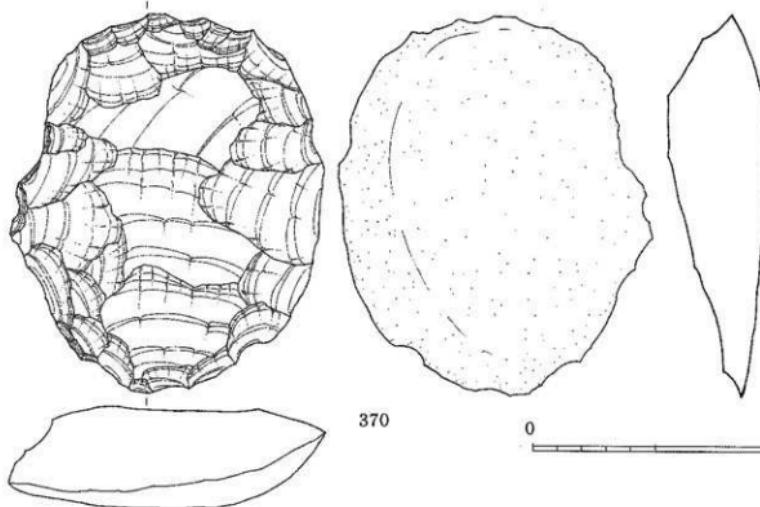
第101図 繩文時代（K-Ah層上）石器分布図（1/600）



第102図 繩文石器実測図（9）2/3



369

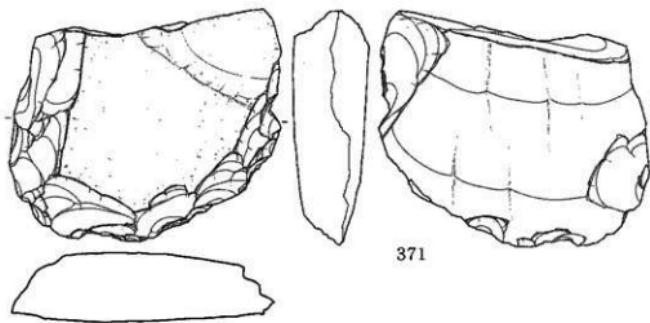


370

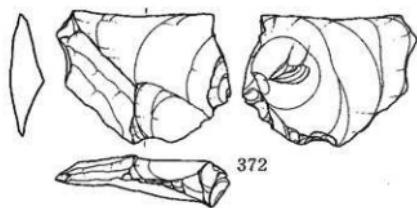
0

10cm

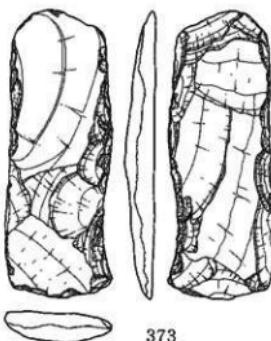
第103図 縄文石器実測図 (10) 1/2



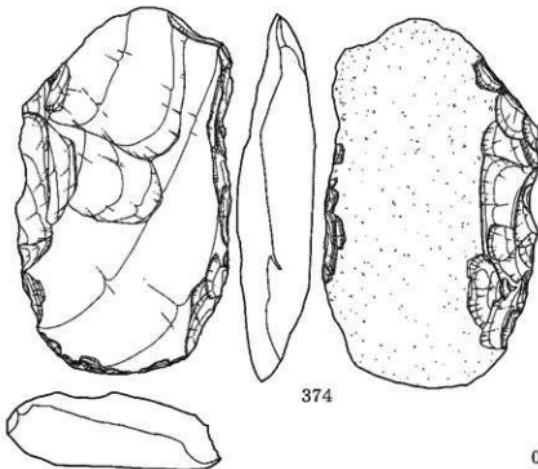
371



372



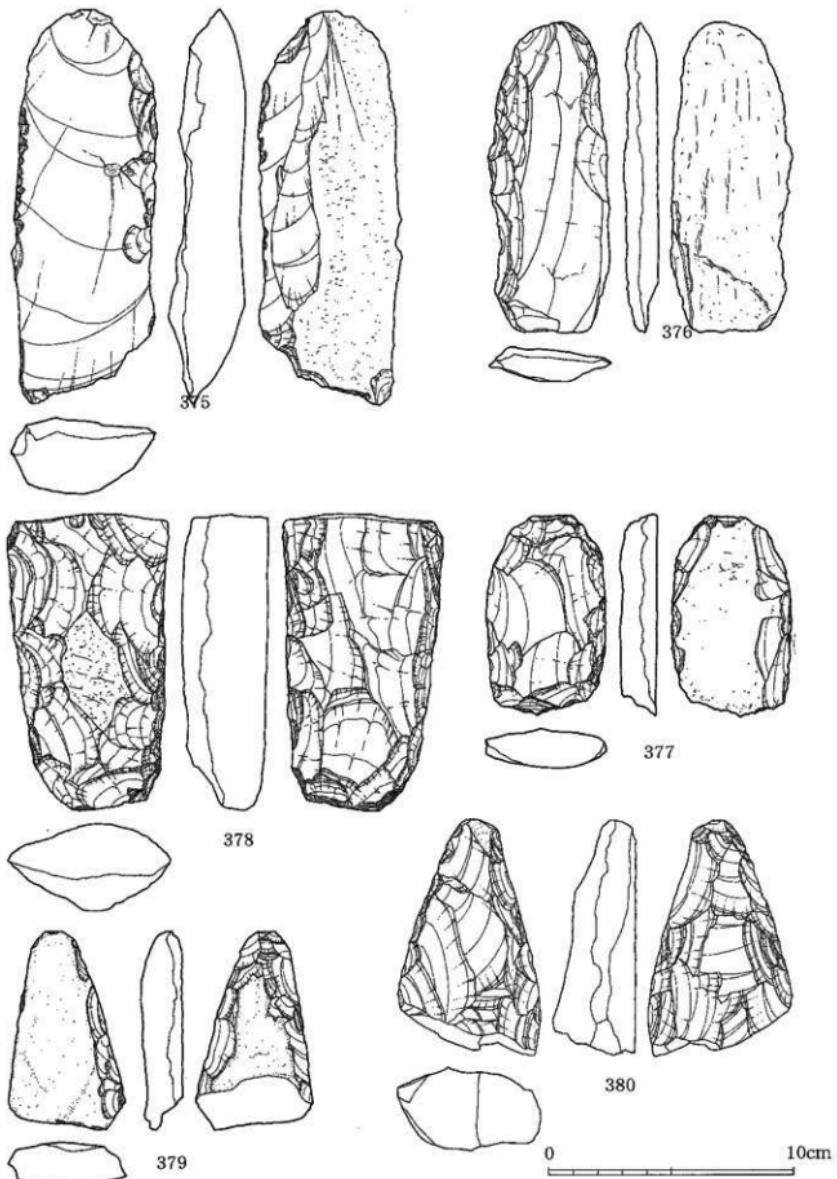
373



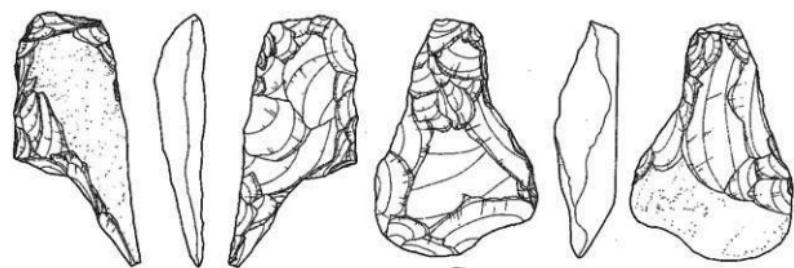
374

0 10cm

第104図 繩文石器実測図 (11) 1/2

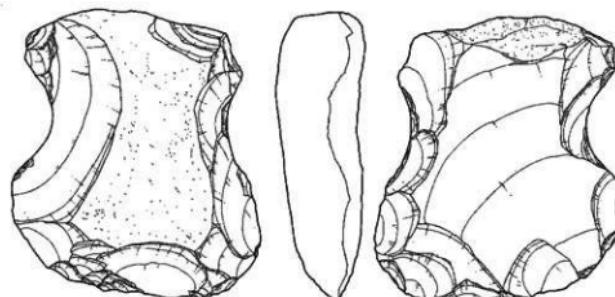


第105図 縄文石器実測図 (12) 1/2

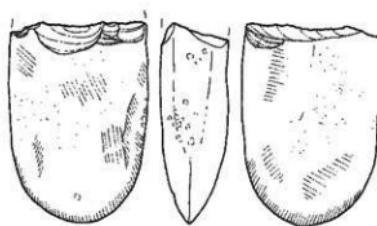


381

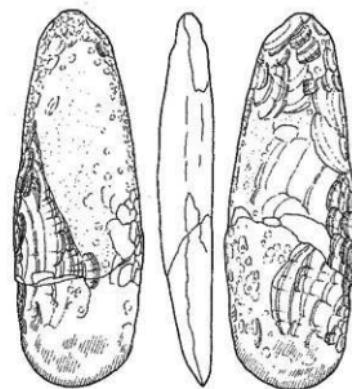
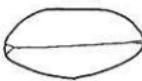
382



383



384

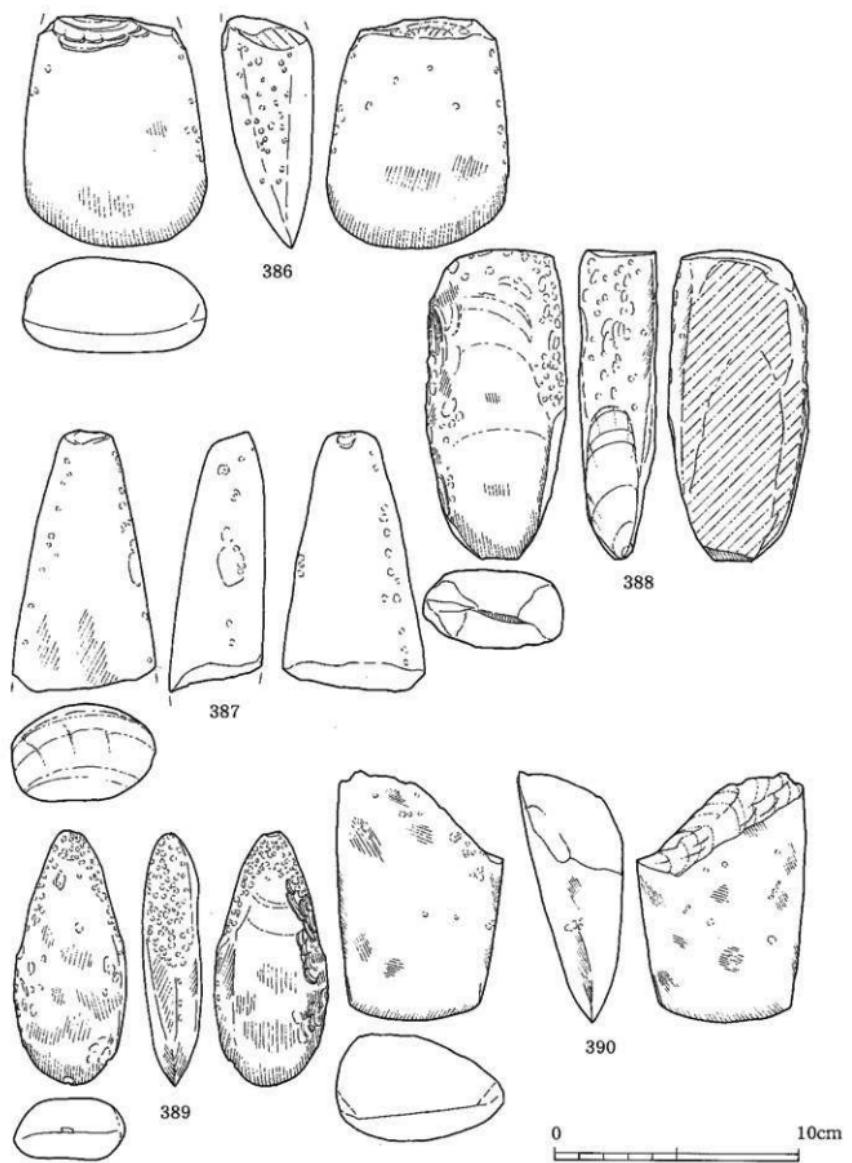


385

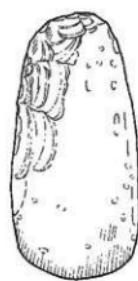
0

10cm

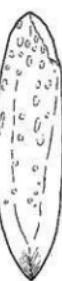
第106図 縄文石器実測図 (13) 1/2



第107図 繩文石器実測図 (14) 1/2



391



392



393



394



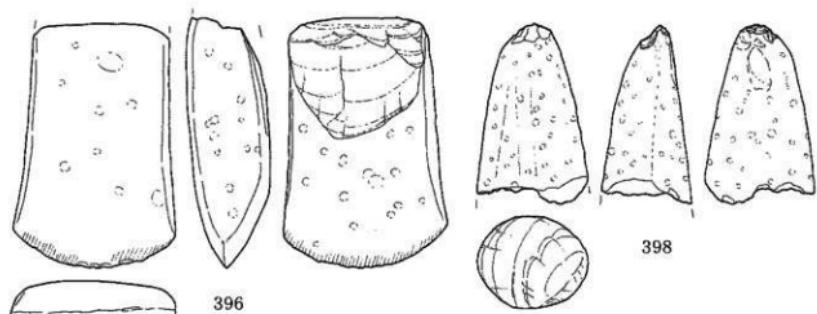
395



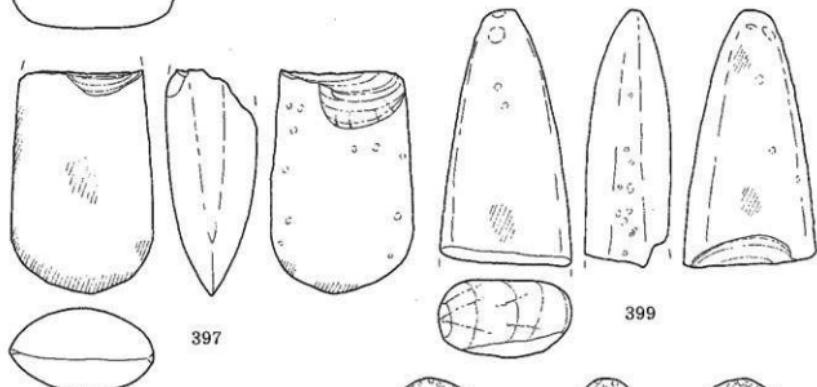
0

10cm

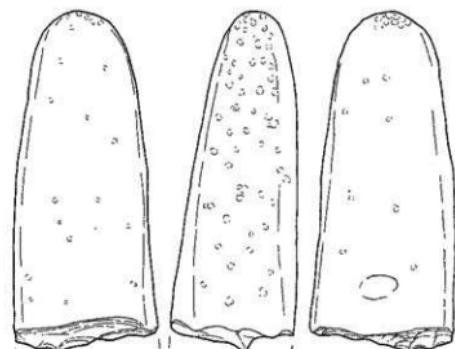
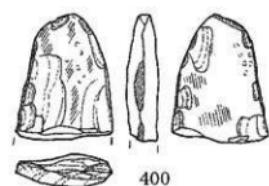
第108図 縄文石器実測図 (15) 1/2



396

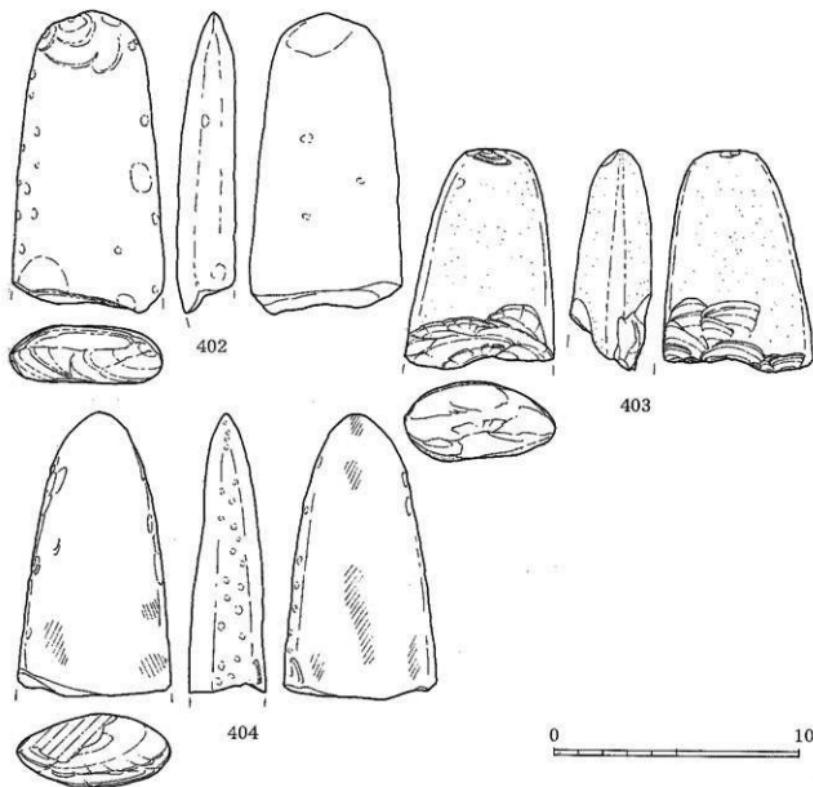


397

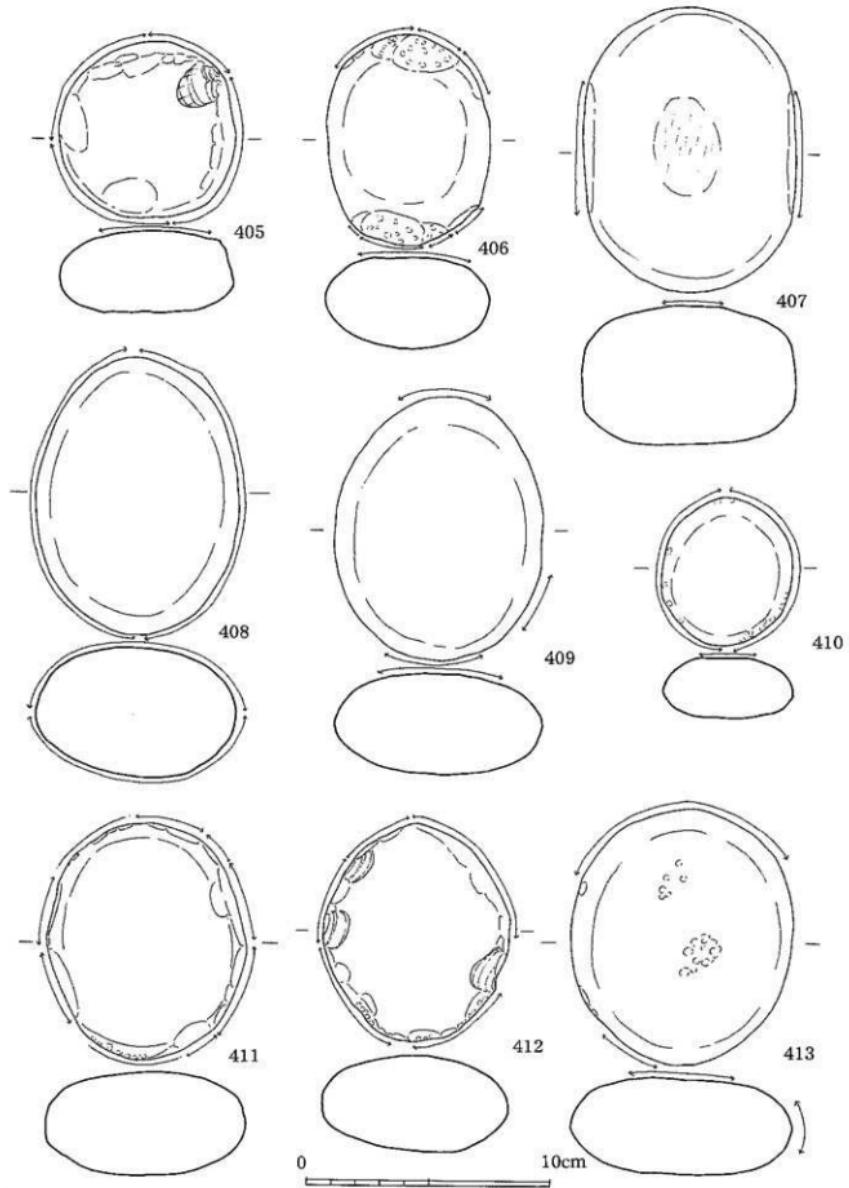


0 10cm

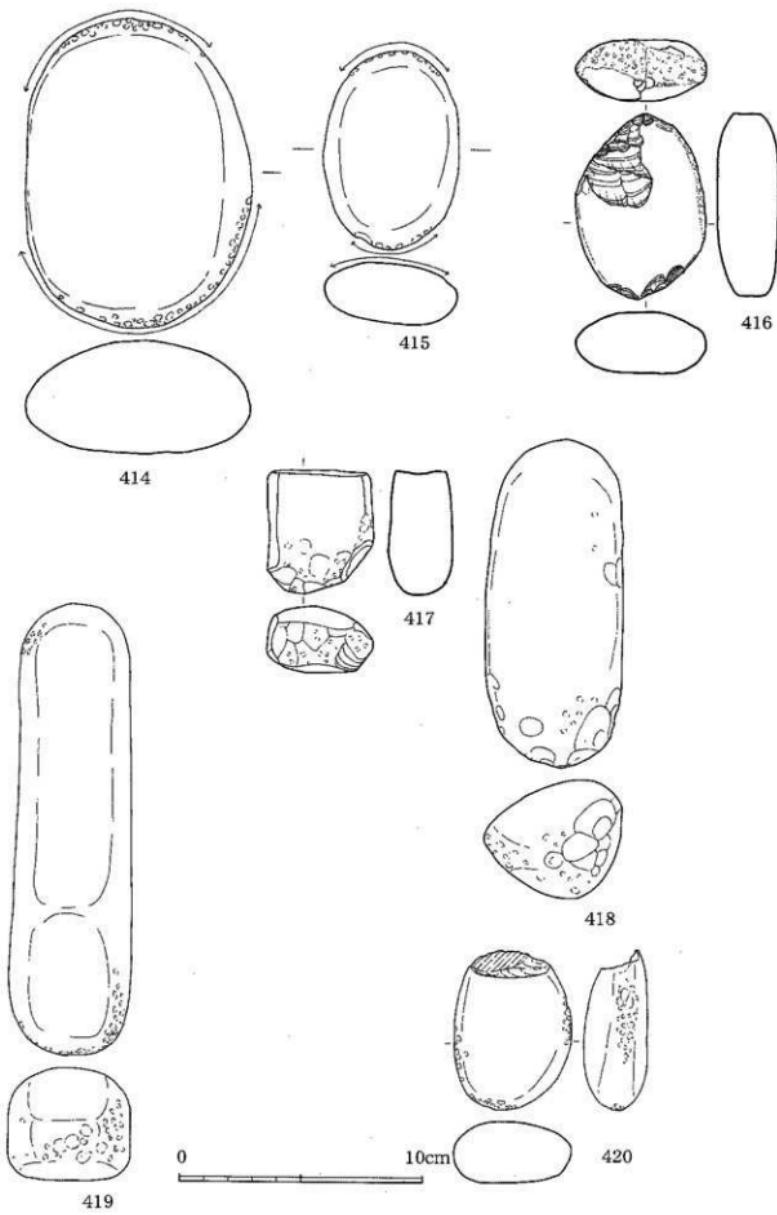
第109図 縄文石器実測図 (16) 1/2



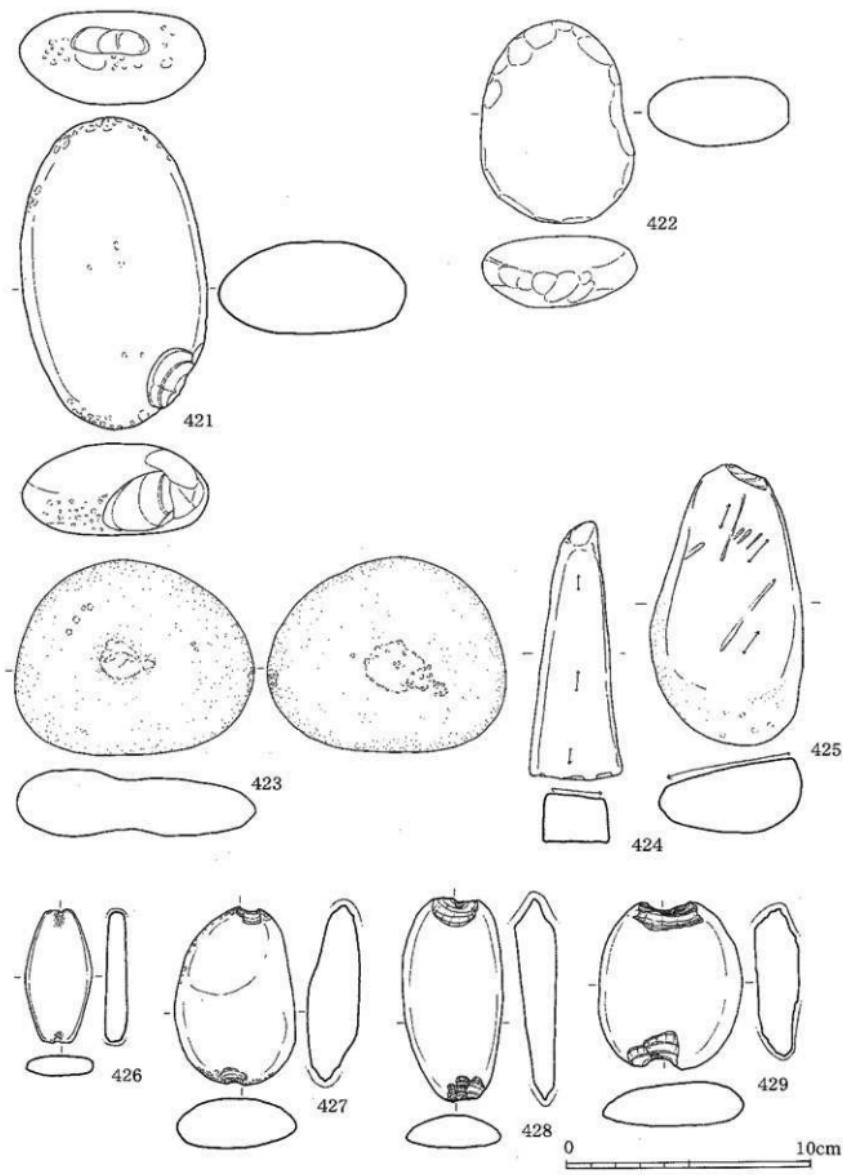
第110図 繩文石器実測図 (17) 1/2



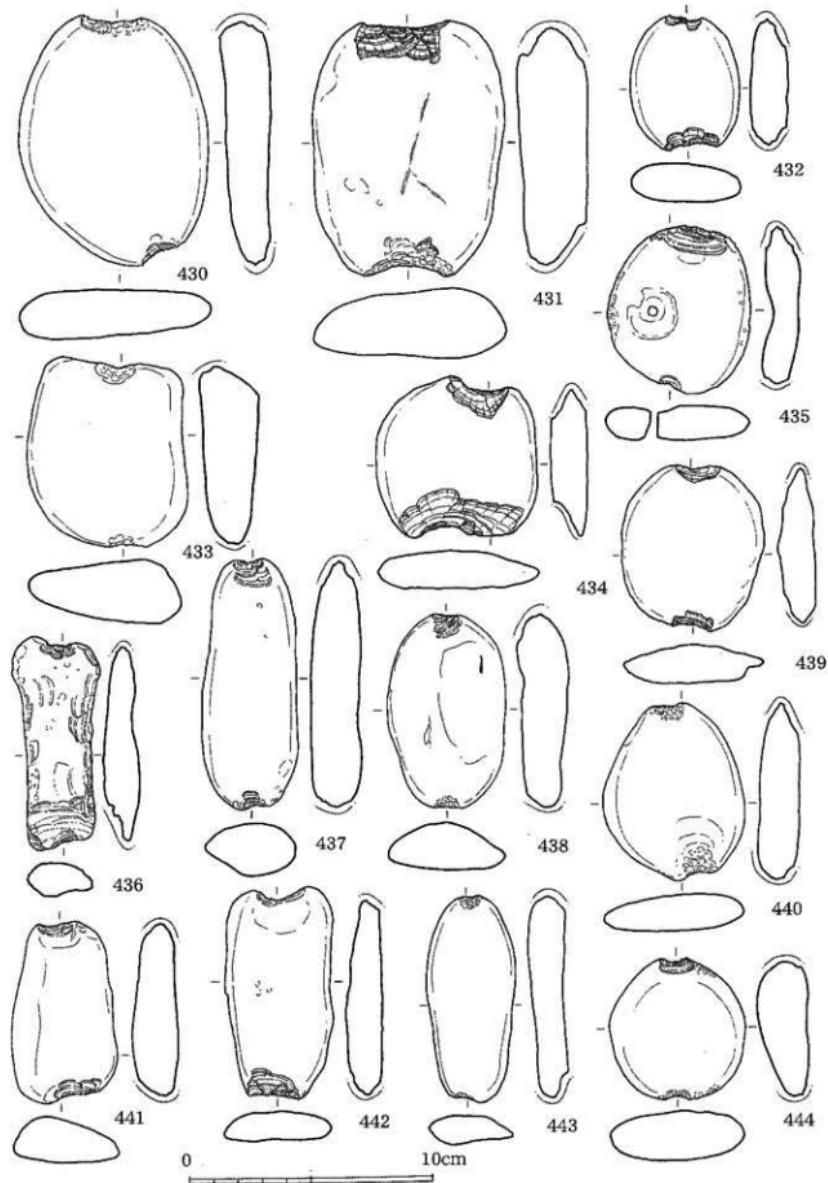
第111図 縄文石器実測図 (18) 1/2



第112図 繩文石器実測図 (19) 1/2



第113図 繩文石器実測図 (20) 1/2



第114図 繩文石器実測図 (21) 1/2

## 第4節 弥生時代の遺物

二次堆積K-Ah層では明確に弥生時代とされる遺構の検出はできなかったが、弥生土器、磨製石鎌3点、石錐1点が出土した（第116図）。

### 包含層出土遺物（第117・118図445～453）

445は柱状脚台付の甕で、口縁外面にやや下方に垂れた台形状の貼付突帯をもち、突帯の先端は沈線様を呈する。口縁下に3条の突帯をもつ。外面調整は、ハケ目を主体とする。445は重機による表土剥ぎの際、二次堆積K-Ah上面で土器片が集中した状態で検出された（第115図）。検出面付近では、掘り込みや炭化物・焼土などは確認されなかった。

446は、2条以上の突帯をもつ甕の頸部付近と考えられ、調整は内・外面ともナデである。

447・448は、器形・胎土・出土位置などから同一個体と考えられ、緩い「く」の字屈曲口縁をもつ甕で、調整はハケ目である。

449は複合口縁甕の口縁部で、拡張部が短く直口し、外面に櫛描波状文を施す。調整は内・外面ともナデである。

450は無頬甕の内湾する口縁部で、調整は内・外面ともナデである。

451は外面に、452は内面にハケ目がみられる。

453は、甕の底部と考えられ、平底である。調整は内・外面ともナデである。

### 磨製石鎌（第118図454・455）

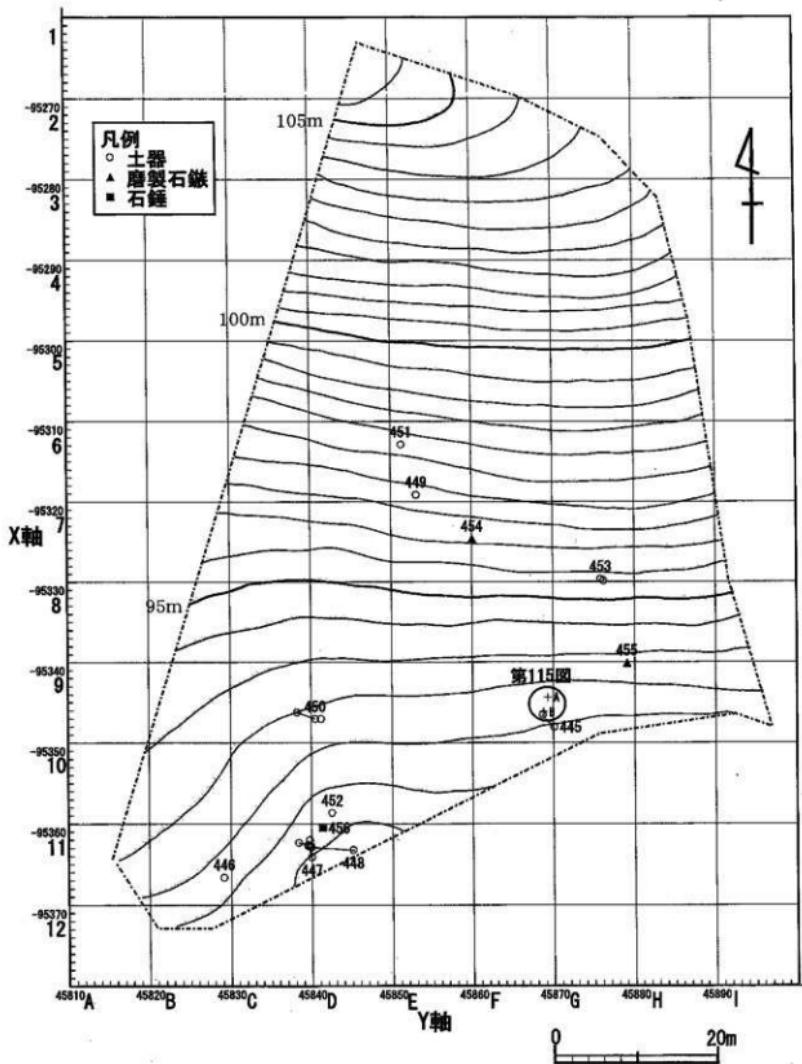
磨製石鎌は3点出土しそのうち2点を図化した。全て緑色凝灰岩製である。454・455は縦長で455はやや小型で、どちらとも弧状のやや浅い抉りを作り出している。

### 石錐（第118図456）

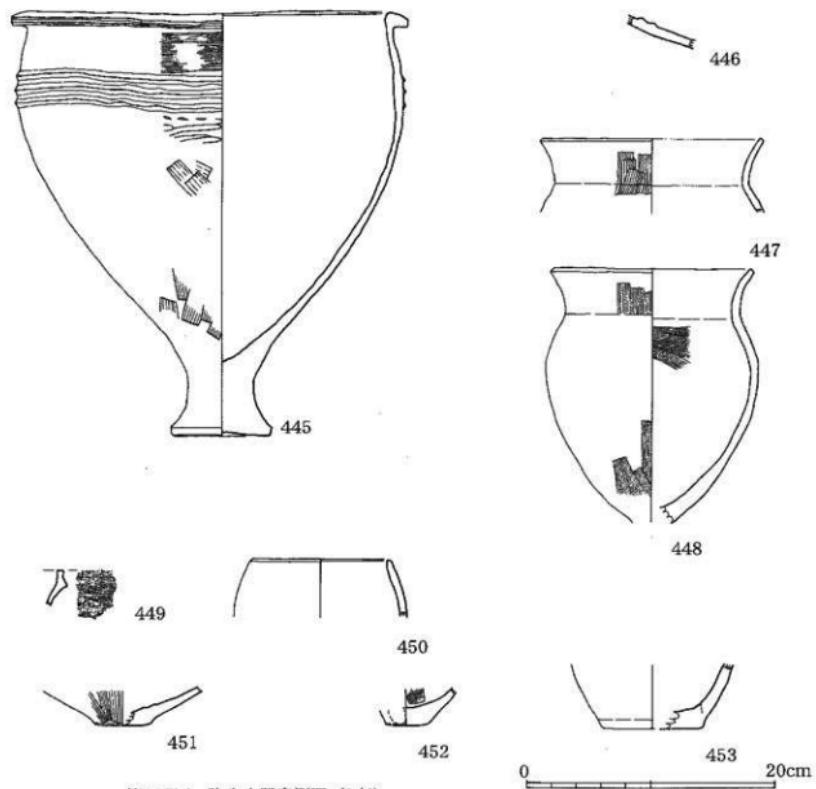
456は砂岩製で上部に穿孔があり、表面の一部に磨痕がみられる。



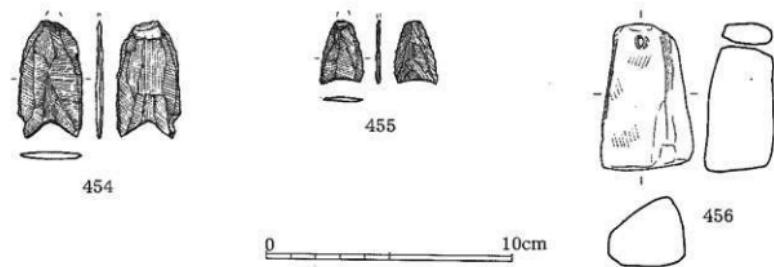
第115図 弥生土器出土状況実測図 1/20



第116図 弥生時代遺物分布図 (1/600)



第117図 弥生土器実測図 (1/4)



第118図 弥生石器実測図 (1/2)

## 第5節 古墳時代の遺物

二次堆積K-Ah層では明確に古墳時代とされる遺構の検出はできなかったが、古墳時代と考えられる土器が出土した。

### 包含層出土遺物（第120図457～461）

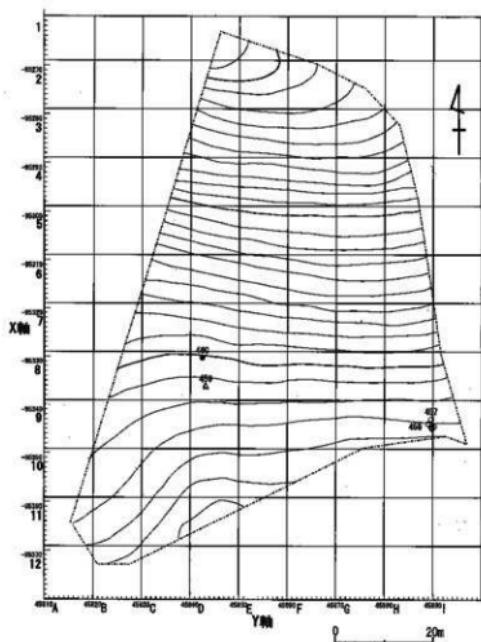
457・458は、器形・胎土・出土位置などから同

一個体と考えられる。壺の頸部～胴部で外面調整は横位のヘラミガキである。

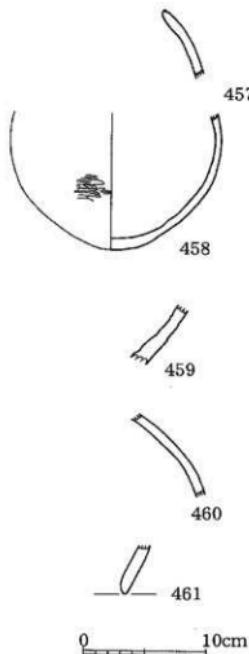
459は壺の底部で、調整は風化が著しいため不明である。

460は壺の肩部で、調整は風化のため不明瞭であるが、ハケ目と思われる。

461は、壺の底部で内・外ともナデである。



第119図 古墳時代遺物分布図 (1/1,000)



第120図 土師器実測図 1/4

## 第6節 古代の遺構と遺物

### 1 遺構

二次堆積K-Ah層で古代と考えられる土坑2基と集石遺構（縄文時代のものとは異なり、巨礫で構成される）1基を検出した。

#### SC39（第122図）

約2.1m×約1.0mの範囲に長径約20cm～約30cmの礫が分布する。ほとんどが尾鈴山酸性岩類で、他が砂岩・ホルンフェルスである。掘り込みは無く、周辺の土中には径1～2mm以下の炭化物が疎らにみられる。礫の赤化も一部の礫にみられるが、それぞれは散らばっている。範囲内で須恵器2点、周辺で須恵器2点（484・486）が出土している。

462は、須恵器甕の胸部で外面が格子目タタキの後カキ目調整、内面は同心円當て具痕が認められる。遺構外出土で、同一グリッドから出土した484とは調整が同じである点から同一個体の可能性がある。

463は、須恵器高台坏境の坏身底部で、復元推定底径8.8cmを測る。外面は回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。

#### SC3（第122図）

長径約2.8m、短径約2.7mの隅丸方形で、検出面からの深さ0.30mを測る。床面から布痕土器（464）、西側ほぼ中央の壁から床面にかけての位置に須恵器坏蓋の転用硯（465）が出土した。床面は柱穴・焼土・炭化物などは検出されなかった。

464は、布痕土器の胴部で、外面はナデ、内面には布目圧痕が認められる。

465は、須恵器高台坏境の坏蓋で、完形で内面を上にした状態で出土した。口径15.5cmを測る。外面は回転ヘラ削り、内面は回転ナデであるが、内面は擦痕がみとめられ転用硯として使用されていたと思われる。筋状の赤色付着物が認められる。

#### SC4（第123図）

長径約0.86m、短径約0.76mの梢円形で、検出面からの深さ0.22mを測る。中心から須恵器の短頸壺、須恵器坏蓋を蓋に転用し火葬骨を納めた藏骨器が出土した。二次堆積K-Ah層上面での精査では検出できず、重機による掘削中に出土した（第123図）。

重機のバケットが藏骨器を引っ掛けたため、一度藏骨器が東にずれた後、第123図の位置に戻ったため藏骨器周辺には（特に東側に）空間ができた。また、1層・2a層はもともとの埋土に二次堆積K-Ahなど他の土が混ざっていると考えられ、検出時に擾乱を受けたと考えられる。擾乱を受けていない埋土は、基本的には黒色土・褐色土・炭化物が混ざった土であり、藏骨器の直下3a層と藏骨器周辺の2c層には炭化物が多数検出された。藏骨器からやや遠い（土坑周辺の）2b層には炭化物はわずかであるため、意図的に藏骨器の周囲を炭化物の多い土で埋めた可能性がある。

466は須恵器高台坏境の坏蓋で、外面が回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。復元推定口径13.8cmを測る。

467は須恵器短頸壺で、外面が回転ヘラ削り、上部に自然釉が観察されるが、口縁に沿って自然釉が明瞭にかかっていない部分があり、焼成の段階で466とは別の蓋がかぶせられていた可能性がある。肩部外面に線刻が見られる。内面は回転ナデである。貼付高台の約1/2が欠損しており意図的に打ち割られた可能性がある。口径11.3cm、底径13.5cm、器高21.3cmを測る。

### 2 包含層出土遺物（第124図）

468は、土師器付の体部で、外面が回転ヘラ削りの後ナデ、内面が回転ナデである。

469は、布痕土器の胴部で、外面がナデ、内面に布目圧痕が認められる。

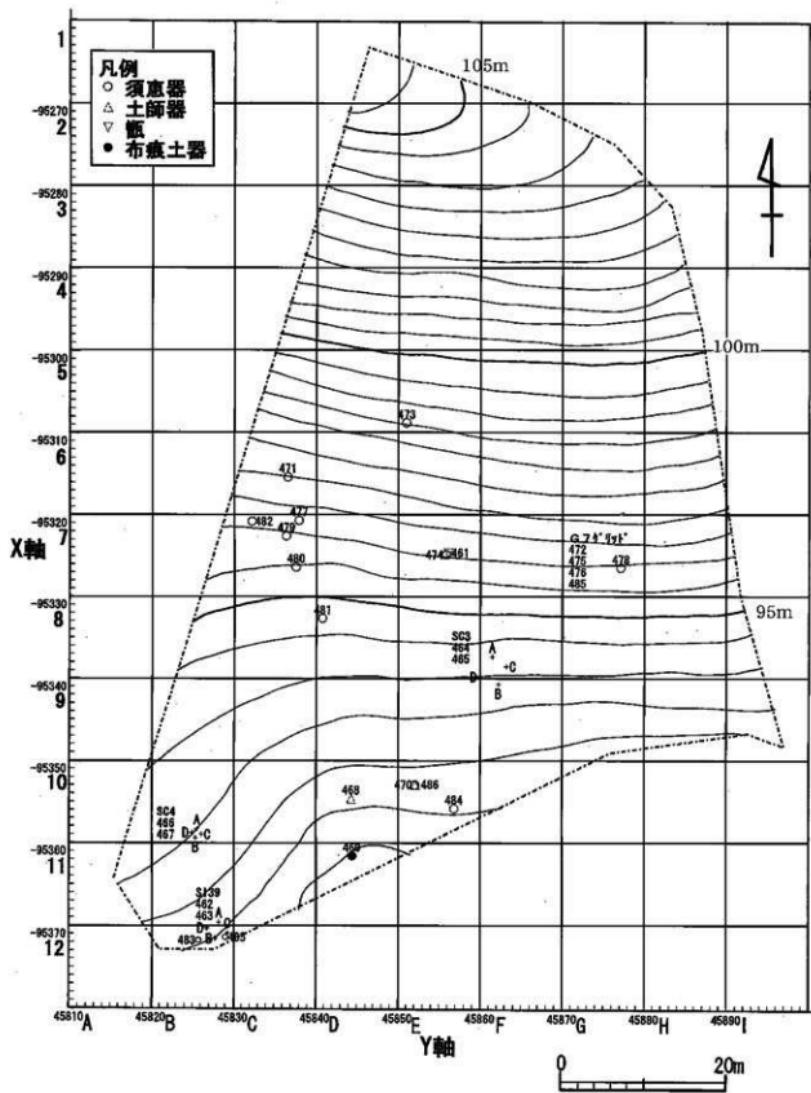
470は、土師器付の底部で、復元底径10.0cmを測る。外面が回転ヘラ削りの後ナデ、内面がナデである。

471は、回転台土師器高台付壺の底部で、復元底径13.0cmを測る。外面が回転ナデ、底部が回転ヘラ削り、内面が回転ナデである。

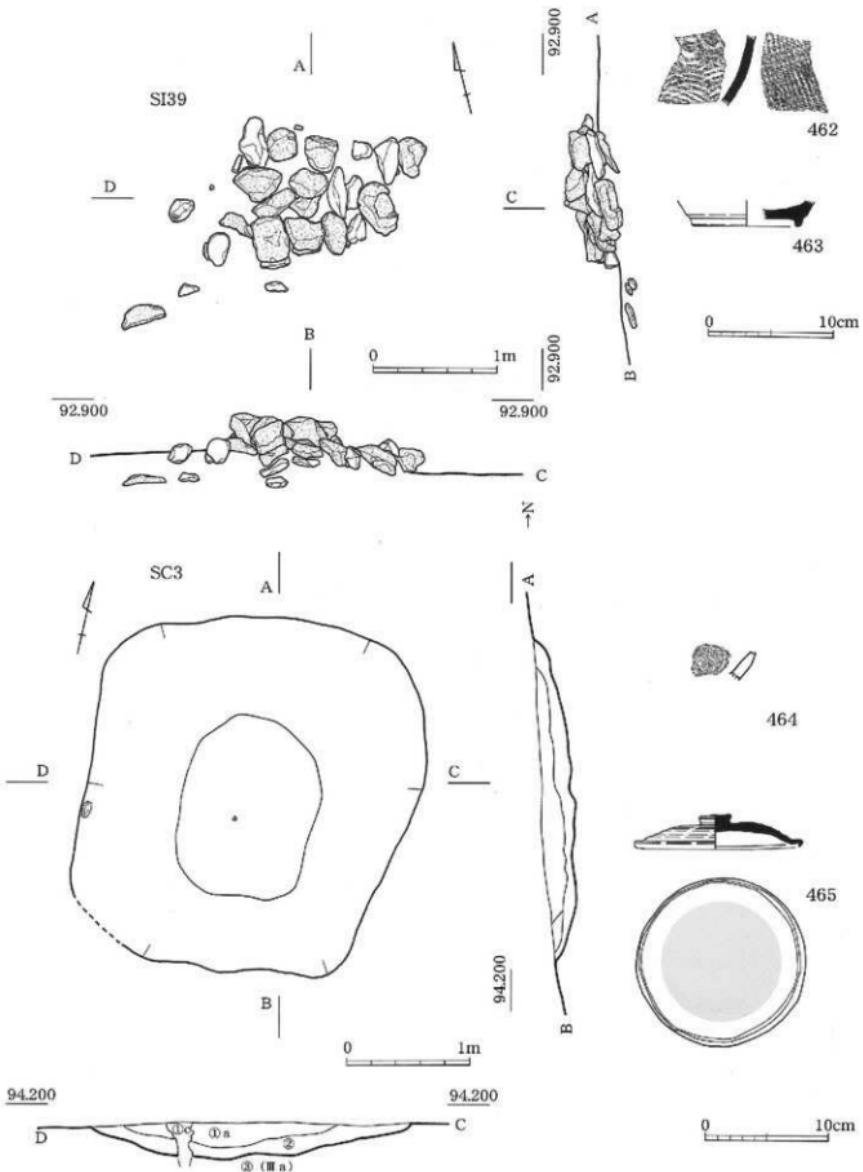
472は、須恵器高台付壺の坏蓋撮で、内・外面共に回転ナデである。

473～475は、須恵器高台付壺の坏蓋口縁で、外面が回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。

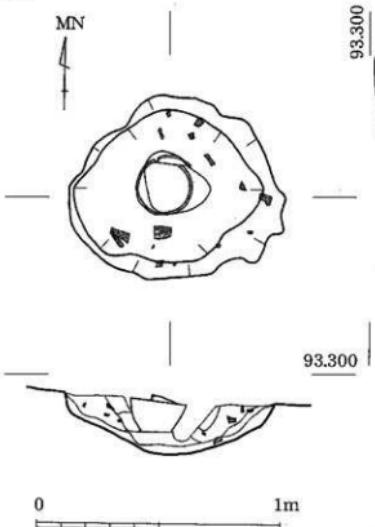
475の外面には一部に自然釉が、内面には擦痕が認められ、転用硯として使用されていたと思われる。



第121図 古代遺構・遺物分布図 (1/600)



第122図 古代遺構・出土遺物実測図（1） 1/4



**土層断面記**

① 黒…灰…(Hue10YR4/3) 色土、しまり、粘性共にない、径2mm~1mmの炭化物を5%含む。

② 黒…灰…(Hue10YR2/1) 色土約10%、黒(Hue10YR4/6) 色土約90%の混ざった土で、ややしまりがある。粘性はない。褐色土中に炭化物をわずかに含む。

③ 黒…灰…(Hue10YR2/1) 色土約20%、黒(Hue10YR4/6) 色土約70%の混ざった土で、ややしまりがある。粘性はない。褐色土中に炭化物をわずかに含む。

④ 黒…灰…(Hue10YR2/1) 色土約90%、黒(Hue10YR4/6) 色土約10%の混ざった土で、ややしまりがある。粘性はない。炭化物を多く含む。

⑤ 黒…灰…(Hue10YR2/1) 色土約50%、黒(Hue10YR4/6) 色土約50%の混ざった土で、しまりがなく、やや粘性がある。炭化物を多く含む。

⑥ 黒…灰…(Hue10YR2/1) 色土約2%、黒(Hue10YR4/6) 色土約98%の混ざった土で、しまりがなく、やや粘性がある。炭化物を4cm~3cmの繊をわずかに含む。

476~480は、須恵器高台付塊の坏蓋で、復元径14cm~10cmのものである。外面が回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。476は、内面に黒色付着物が認められるが、擦痕は無いようである。478は不鮮明ではあるが、外面の一部に自然釉が認められる。479は、内面に擦痕が認められ、転用窯として使用されていたと思われる。

480は、須恵器高台付塊の坏身口縁で、外面が回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。

481は、須恵器長頸壺の頸部で、内・外面共に回転ナデである。

482は、須恵器長頸壺の胴部で、内・外面共に回転ナデである。不鮮明であるが、外面の一部に自然釉が認められる。

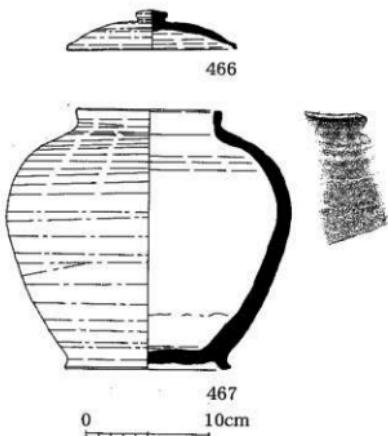
483は、須恵器甕の胴部で、外面が格子目タタキの後力キ目、内面は同心円當て具痕が認められる。同一グリッド内の遺構(SI39)出土の462とは調整が同じである点から同一個体の可能性がある。

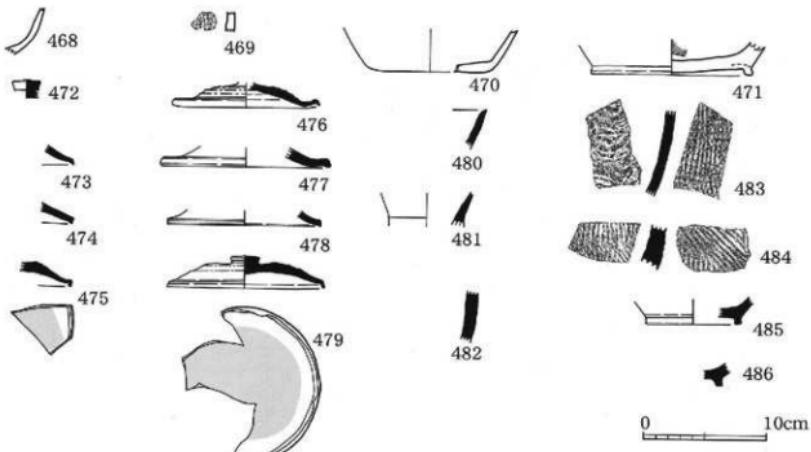
484は、須恵器甕の胴部で、外面が平行タタキ、内面が平行當て具痕が認められる。

485・486は、須恵器高台付塊の坏身底部で、外面が回転ヘラ削り、内面は回転ナデである。

485は復元底径7.6cmを測る。

第123図 古代遺構・出土遺物実測図(2) 1/4





第124図 古代出土遺物実測図（3）（1/4）

## 第7節 その他の遺構

二次堆積K-Ah層で検出され、少なくとも縄文時代前期以降ではあるが、明確な時代の特定には至らなかった遺構をまとめて掲載する。

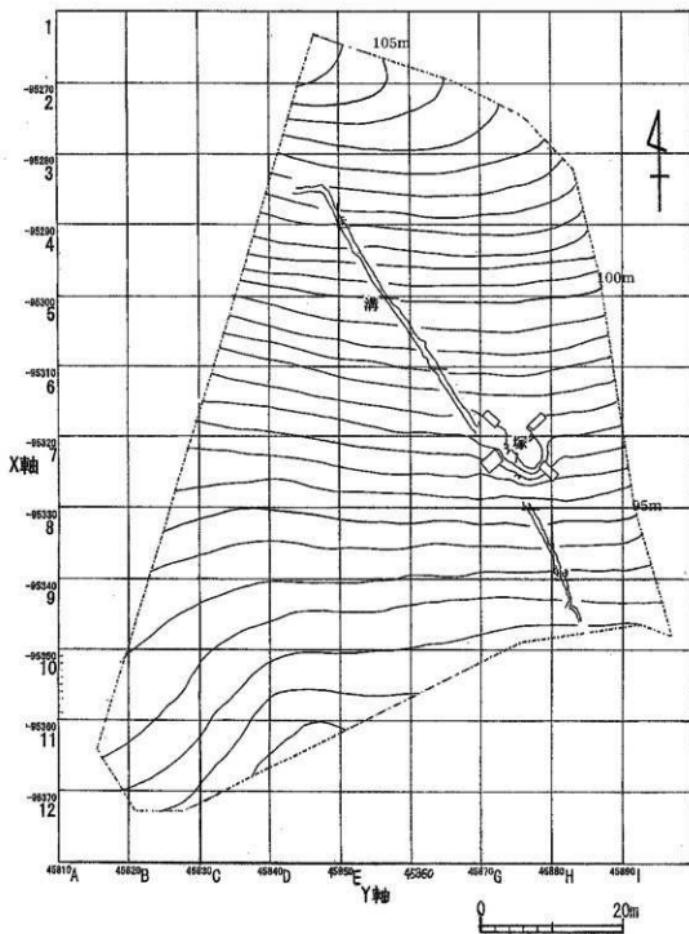
### 塚（第126図）

塚を構成するのは、径20cm以下の砂礫であり、基本土層のⅡ層の上に大きくは4層に積み重なっていた。大きさは長径約8.5m、短径約7.0mで、高さは1.6mを測る。塚内部からの遺物の出土はなく、塚下のⅢa（二次堆積K-Ah）層から、他の場所と同様、須恵器・縄文土器が出土した。また、塚の中心付近には塚の形成以前に育成していたと思われる木の切り株があった。不鮮明であったが、年輪から

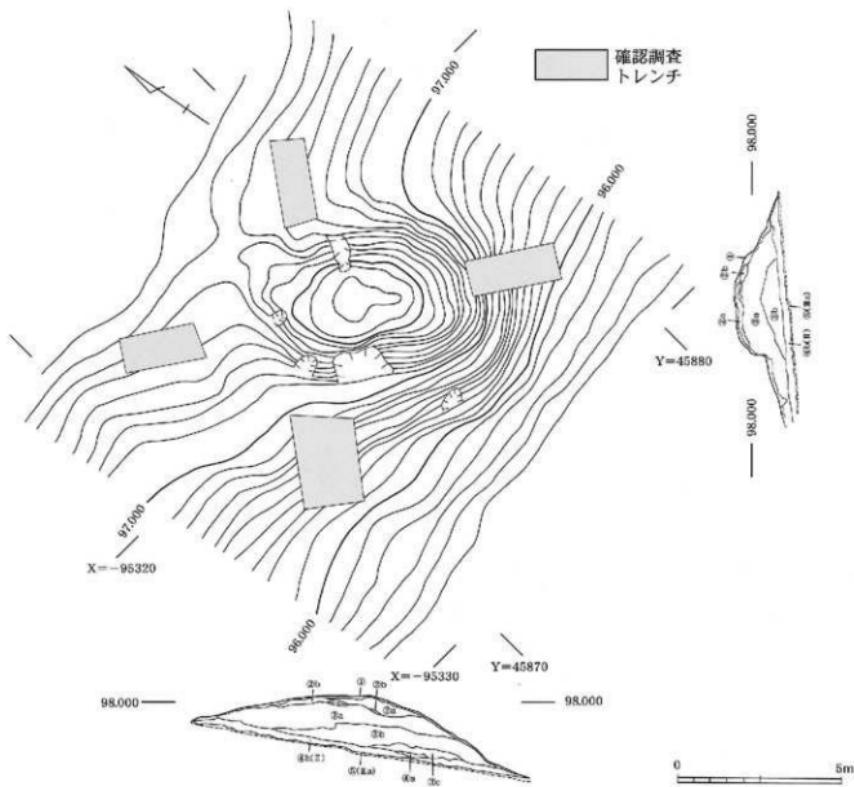
40～20年程度の木であったと推定される。砂礫の積まれ方はちょうど一輪車で、排土を一箇所にためていく形に似ており、はじめ縦断面の④a層付近に砂礫が積まれ、当時の表土と混ざるなどして④a層、③c層が形成され、そのほぼ真上に砂礫が積まれ、③b層ができ、その後やや礫の構成の違う砂礫が積まれていった事とその後、風化や土砂の流入により③a層、②b層、②a層、①層が形成されたと考える。

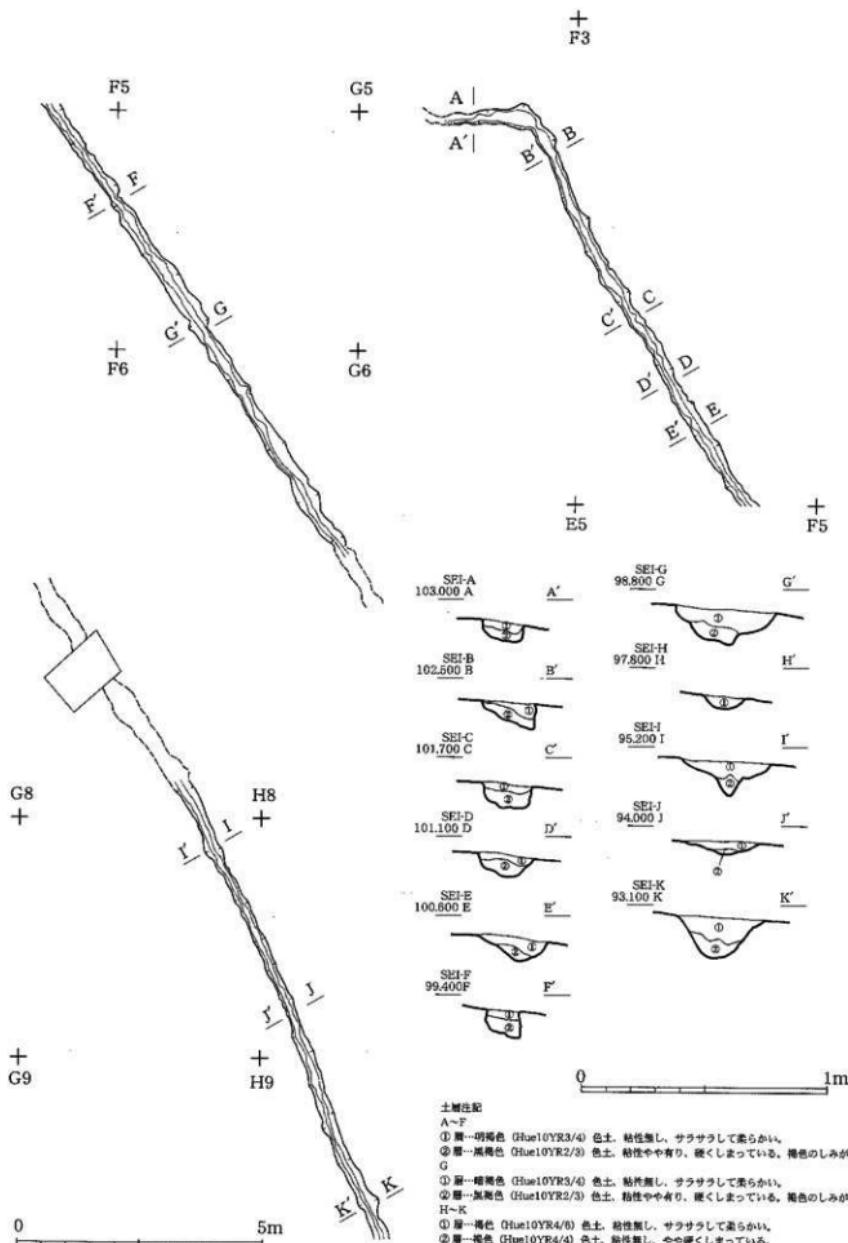
### 溝状遺構（第127図）

塚をはさみ北西から南東へほぼ直線上に伸びるもので、北西の端ではほぼ西へ屈曲し調査区外へ伸びる。検出面は二次堆積K-Ah上面である。



第125図 遺構分布図 (1/600)





第127図 溝状構実測図 (1/100)・断面図 (1/20)

# 第V章 自然科学分析の結果

## 第1節 老瀬坂上第3遺跡における放射性炭素年代測定

### (1) 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SC 4、土坑埋土上部	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.2	SC 4、土坑埋土中部	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.3	SC 4、土坑埋土下部	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.4	SI34、No.2	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No.5	SI34、No.3	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

### (2) 測定結果

試料名	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (%)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	曆年代(西暦)	測定No. (Beta-)
No.1	$1220 \pm 40$	-27.5	$1180 \pm 40$	交点: call AD880 $1\sigma$ : call AD790~900 $2\sigma$ : call AD770~980	175833
No.2	$1240 \pm 40$	-28.6	$1180 \pm 40$	交点: call AD880 $1\sigma$ : call AD790~900 $2\sigma$ : call AD770~970	175834
No.3	$1210 \pm 40$	-24.7	$1210 \pm 40$	交点: call AD790 $1\sigma$ : call AD770~880 $2\sigma$ : call AD700~900	175835
No.4	$8470 \pm 60$	-25.7	$8460 \pm 60$	交点: call BC7540 $1\sigma$ : call BC7570~7500 $2\sigma$ : call BC7590~7460	175836
No.5	$5870 \pm 50$	-27.6	$8530 \pm 50$	交点: call BC7580 $1\sigma$ : call BC7590~7550 $2\sigma$ : call BC7600~7530	175837

#### 【 $^{14}\text{C}$ 年代測定値】

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

#### 【 $\delta^{13}\text{C}$ 測定値】

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

#### 【補正<sup>14</sup>C年代値】

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、<sup>14</sup>C/<sup>13</sup>Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

#### 【曆年代】

過去の宇宙線強度の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動を校正することにより算出した時代（西暦）。校正には、年代既知の樹木年輪の<sup>14</sup>Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

曆年代の交点とは、補正<sup>14</sup>C年代値と曆年代校正曲線との交点の曆年代値を意味する。 $1\sigma$  (68%確率) と  $2\sigma$  (95%確率) は、補正<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した曆年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。

#### (3) 考察

加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定の結果、SC 4(蔵骨器を伴う土坑)の埋土上部の炭化物では $1180 \pm 40$ 年BP ( $1\sigma$ の曆年代でAD790~900年)、埋土中部の炭化物では $1180 \pm 40$ 年BP ( $1\sigma$ の曆年代でAD790~900年)、埋土下部の炭化物では $1210 \pm 40$ 年BP ( $1\sigma$ の曆年代でAD770~880年)の年代値が得られた。また、SI34(34号集石遺構)の炭化物No.2では $8460 \pm 60$ 年BP ( $1\sigma$ の曆年代でBC7570年~7500年)、炭化物No.3では $8530 \pm 50$ 年BP ( $1\sigma$ の曆年代でBC7590~7550年)の年代値が得られた。

#### 文献

Suiver, M., et, al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p. 1041~1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p. 1~36.

## 第2節 老瀬坂上遺跡における樹種同定

### (1)はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないとことから、比較的近隣の植林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### (2)試料

試料は、SC4（蔵骨器を伴う土坑）から採取された3点の炭化材である。

### (3)方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### (4)結果

分析の結果、3点の炭化材はいずれもシイ属と同定された。各断面の顕微鏡写真を示し、以下に同定根拠となった特徴を記す。

シイ属 *Castanopsis* ブナ科

横断面：午輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晚材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は單列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ20m、径1.5mに達する。材は耐朽、保存性やや低く、建築、器具などに用いられる。なお、シイ属にはスダジイとツヅラジイがあり、集合放射組織の有無などで同定できるが、本試料は小片で広範囲の観察が困難なため、シイ属の同定にとどめた。

### (5)所見

SC4（蔵骨器を伴う土坑）から採取された3点の炭化材は、いずれもシイ属と同定された。シイ属は温暖な西南日本に分布する照葉樹林の主要構成要素であり、照葉二次林の要素でもある。

### 文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧 雄山閣、296p.

### 第3節 宮崎県高鍋町老瀬坂上第3遺跡出土の平安時代火葬骨

松下孝幸\*

キーワード：宮崎県、平安時代人骨、火葬骨、男性

#### はじめに

宮崎県児湯郡高鍋町大字上江字北中原に所在する老瀬坂上第3遺跡の発掘調査が東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴って2001年（平成13年）10月から2002年（平成14年）12月までおこなわれたが、2002年に蔵骨器（SC4）が出土し、中から火葬骨が検出された。この火葬骨は埋納されていた蔵骨器から奈良時代後半頃の火葬骨と推定されたが、蔵骨器内の埋土に含まれていた炭化物の年代測定によってこの火葬骨は平安時代に埋納されたと推定されている。

宮崎県での奈良・平安時代の火葬骨については、川南町上垂門から発見された「奈良後半ないし平安前期」の例があるにすぎない。

もともと奈良・平安時代人骨の出土例そのものが少なく、出土例はきわめて珍しい。筆者が調査した奈良時代の火葬骨例は、山口県長門市の上藤中横穴群から出土した火葬骨（8世紀）（松下、1999a）、岡山県吉田郡奥津町の久田原遺跡（8世紀）（松下、2004b）と同じく奥津町の夏栗遺跡（8世紀）、岡山県勝田郡勝北町の山ノ奥遺跡（8世紀）（松下、2004a）の4例しかない。宮崎県では都城市横尾原1号、2号から、また、鹿児島県では財部町黒田B遺跡、川内市越ノ巣火葬墓から火葬骨が出土している。平安時代の火葬骨については山口県周東町上久宗遺跡の出土例（松下、1995）のほかに、鹿児島県小平遺跡（松下、1984）と金峰町小中原遺跡からも出土している。

本例は火葬骨の残存量としては比較的多い方であった。解剖学的に精査し、人類学的観察などをおこなつたので、その結果を報告しておきたい。

#### 資料および所見

本火葬骨は須恵器の短頸壺を蔵骨器（SC4）としたもので、蔵骨器には埋土に多量の炭化物を含む土坑内から検出された。火葬骨の残存量は約940gで、1体分の火葬骨である。そのうち頭蓋片は約45gしかなく、頭蓋片の量がかなり少ない。人骨は火を受けており、亀裂や変形がみられるが、変形が著しい骨は色が白色になっている。ところが大腿骨、椎骨などには変形がほとんどみられず、骨の色も黒色である。このように骨の変形状態や骨色が一樣でないことは、火葬の際に火力にムラがあったことを示唆していると思われる。

残っていたのは、頭蓋片、遊離歯根、四肢骨片、椎骨片、肋骨片である。頭蓋片は内外両板が剥離した状態のものが多く、変形が著しい。大部分は頭頂骨片と思われるが、前頭骨眼窓部（右側）と左側上顎骨の前頭突起を同定することができた。おそらくラムダ縫合と思われる縫合の一部が観察できたが、この縫合は内外両板が開離していたようである。

歯が7本残存していたが、熱のために歯冠が完全に脱落しており、残っていたのは歯根のみである。従つて、残存歯の歯種を同定することができなかった。

椎骨片が約20g残っていた。ほとんど椎弓ばかりで、椎体は1個にすぎなかった。また、喉仏と俗称される第二頸椎（軸椎）やその歯突起は残存していないかった。

\*Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]



第128図 遺跡の位置 (1/25,000)  
 (Fig. 1 Location of the Oisesakaue site, Takanabe Cho, Miyazaki Prefecture)



老瀬坂上第3遺跡 (SC 4) 出土火葬骨 (男性・壮年)  
(The cremated skeleton excavated from the Oisesakaue site, young adult male)

残存量がもっとも多いのは四肢骨片であるが、左側大腿骨体の近位部を接合することができた。この部分は黒く変色しているが、熱による変形がほとんどみられない。大腿骨体との径はそれほど大きくはないが、骨壁は厚く、粗線も発達していたようで、矢状径は横径よりも大きいことが予想されるが、骨体上部の扁平性は認められない。右側大腿骨の頭部の一部も残っていたが、この部分の骨壁もかなり厚い。

大腿骨の他に脛骨体と寛骨の一部を認めたが、その他の四肢骨片は骨種を同定することができなかった。

性別は、寛骨や後頭骨、前頭骨などが残存していなかったので、確証を欠くが、大腿骨の骨壁が著しく厚いことを重視し、男性と推定しておきたい。年齢は、観察できた縫合が内外両板とも開離していたことを根拠に、壮年と推定した。なお、年齢区分は、第15表に示すとおりである。

第15表 年齢区分 (Table 1. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頸軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

## 要 約

宮崎県児湯郡高鍋町大字上江字北中原に位置する老瀬坂上第3遺跡の発掘調査によって土坑内から藏骨器1基出土し、その中から火葬骨が検出された。

1. この火葬骨は平安時代の火葬骨と推定されている。
2. この火葬骨は1体分の火葬骨であるが、火葬された全身の骨全量が埋納されたわけではなく、残存量は約940gである。
3. 本火葬骨は壮年の男性骨と思われる。
4. 残存していたのは、頭蓋片、四肢骨片、椎骨片、肋骨片である。頭蓋片は約45gしかなく、頭蓋片の量はかなり少ない。下顎骨は残存していないが、歯根が7本残っていた。
5. 観察ができたのは左側大腿骨体の近位部であるが、この部分は破片を接合し、復元することができるようになった。大腿骨体の径は大きくはないが、骨壁は厚く、粗線も発達していたようで、矢状径は横径よりも大きいようである。また、骨体上部の扁平性は認められない。
6. 喉仏と俗称される第二頸椎（軸椎）や齒突起は残存していないかった。
7. 臨骨器に納められていた火葬骨は、四肢骨片を主体にして頭蓋片や椎骨などの軸幹骨のそれぞれ一部で、一応各部分の骨が納められていたことになるが、下顎骨や手足の指骨など拾骨されなかつた骨もあるようである。また、大腿骨などは受火の影響をあまり受けていないようなので、拾骨時には保存状態はよかつたことが予想されるが、このような骨の量も著しく少ない。藏骨器の容量にはまだ余裕があるにもかかわらずこの程度の量しか納めていないことになる。初めから藏骨器いっぱいに納骨する気はなかったようである。

### 《参考文献》

1. 松下孝幸・他、1983a：山口県防府市玉祖遺跡出土の平安・中世人骨。玉祖遺跡・西小路遺跡（山口県埋蔵文化財調査報告70）：147-148。
2. 松下孝幸・他、1983b：山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジーコンボ古墳群（山口県埋蔵文化財調査報告73）：32-36。
3. 松下孝幸、1984a：鹿児島県大隅半島出土の火葬骨。鹿児島考古、第18号：163-169。
4. 松下孝幸・他、1984b：防府市周防国府跡出土の平安時代人骨。防府市文化財調査年報VI：535-544。
5. 松下孝幸、1985：山口県見島ジーコンボ古墳群出土の人骨—山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料一。山口大学構内遺跡調査研究年報IV：83-90。
6. 松下孝幸、1995：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。山口県埋蔵文化財調査報告第174集：25-30。
7. 松下孝幸、1999a：長門市上藤中横穴出土の奈良時代火葬骨。上藤中横穴墓群（長門市埋蔵文化財調査報告第3集）：15-18。
8. 松下孝幸、1999b：長門市上藤中横穴出土の奈良時代火葬骨。上藤中横穴墓群（長門市埋蔵文化財調査報告第3集）：15-18。
9. 松下孝幸、2004a：岡山県勝北町山ノ奥遺跡出土の奈良時代火葬骨。山ノ奥遺跡池東・溢田遺跡（岡山県埋蔵文化財調査報告180）：121-129。
10. 松下孝幸、2004b：岡山県勝央津町久田原遺跡出土の奈良時代火葬骨。久田原遺跡・久田原古墳群（岡山県埋蔵文化財調査報告184）：759-764。
11. 松下孝幸、岡山県奥津町夏栗遺跡出土の奈良時代火葬骨。（印刷中）
12. 面高哲朗、1980：川南町発見の火葬墓。宮崎考古6号。

# 第VI章 まとめ

## 【旧石器時代】

旧石器時代Ⅰ期は、層序からKr-Kb降灰とAT降灰の間の時期にあり、出土遺物は流紋岩製のナイフ形石器が主であることから後期旧石器時代のナイフ形石器文化期にあたると考えられ、礫群は3基検出したが、SI2は密集度が低く、SI1に近接し傾斜に沿って下った方向に位置しているため、SI1の一部である可能性もある。SI1自体も接合関係などから元の位置より傾斜に沿って流されているのがかなりあると考えられ、この礫群が形成された当時は、検出時よりも北西方向により密集していたと思われる。検出時には赤化している礫も散らばり赤化のピーク地城を特定できず、土中の炭化物なども流されたと考えられるので、火元の特定には至らない。それに対し、SI3は、小規模ながらも、ほぼ全ての礫が赤化し土中に炭化物も見られる事から炭化物の範囲が火元と考えられる。礫の数量がSI1より少ないと、検出されたものが全てではなく流されたものもあると思われるが、検出された礫の赤化度は弱がほとんどであり、焼土が検出されなかったため火元とされた時間が短かったか火力が弱かったことが推測される。

旧石器時代Ⅱ期は、層序からKr-Kb降灰付近で、出土遺物は黒曜石製の細石刃や細石刃核から後期旧石器時代の細石刃文化期にあたると考えられる。礫群については、旧石器時代Ⅰ期より、小規模であり、やはり火元の確定までは至らないが、調査地南西の平場に礫群と細石核が集中して出土し、黒曜石の剥片・碎片もある程度出土している事から、細石器の製作などが行われた可能性がある。

## 【縄文時代】

主に二次堆積K-Ah層の下で確認された遺構・遺物は草創期・早期と考えられ、4箇所の散礫はいくつかの集石遺構を伴っており、それぞれを構成する礫要素に特徴があるため、4箇所それぞれは生活した時期や集団に違いがあった可能性がある。それぞれの散礫周辺から多数出土した遺物を第16表にまとめた。

第16表 縄文時代草創期・早期遺構・遺物対応表

位置	遺溝 ( ) 内は近くの集石遺構	土器 ( ) 内は少數の出土	石器 ( ) 内は少數の出土
南西部平場	散礫Ⅰ群 SI13・14	9・10類 (1・5・8類)	石礫 (尖頭器・搔器・削器)
北部平場下	散礫Ⅱ群 SI10・30・33・34 (SI15・25・31)	2・4・8類 (3・7・9類)	石礫 (搔器・磨石)
南部中央	散礫Ⅲ群 SI9	7類 (2・6類)	石礫灰白色チャート 片数多数 (尖頭器・石錐)
南東部	散礫Ⅳ群 SI5・6・17 (SI21・22・23・29)	(2・4類)	石礫・磨石 ・打製石斧 ・凹石・白色チャート ・黒色黒曜石 石片数多數 (異形石器・礫器)

出土した土器については、1類土器は草創期の隆起線文土器で、2類土器は水迫式土器で、3類～6類は円筒形貝殻文土器で、3類土器は小波状口縁を持つ岩本式土器で、4類土器は前平式土器、5類土器は貝殻刺突文から知覧式（加栗山式土器）、6類は下剥峰式土器に比定される。

7類土器はこれまで「前平系」とされていたもので重留康宏の提唱する前原西式土器<sup>(10)</sup>、8類土器は横位のやや波状の貝殻条痕が施されることから中原IV式土器に比定される。

9類土器は、押型文土器であるが、口縁部がやや外反～大きく外反、胴部が直立～やや膨らむと多样性に富むため、早期中葉から後葉にかけてのものと思われる。

10類土器は、塞ノ神式土器で、区画のない網目状撚糸文や二重口縁状を呈することから高橋信武の提唱するI式の古段階に相当する。

二次堆積K-Ah層で検出された遺構・遺物は前期から晩期にかけてと考えられる。

11類土器は、鎌石橋式土器の文様構成に酷似するものもあるが、二次堆積K-Ah層からの出土であるため、具体的な時期は不明である。

12類土器の中で、所謂ミミズ腫れ状の貼付突帯を持つものは、轟B式に比定される。

13類土器のうち158は弧状の細い沈線を施す野口式土器、それ以外は幾何学的な沈線文を施す曾畠式に比定される。

14類土器は貝殻条痕が施され2本単位の平行沈線で施文されることから轟C・D式土器に比定される。

15類土器は前期から中期にかけての連点文土器に近いものと思われる。

16類土器は、後期の屈曲部に貝殻腹縁部による刺突文を施す丸尾式土器に比定される。

17類土器のうち、183は、口縁部の形状と文様から鳥井原～御領式にかけての時期に相当すると思われる。

晩期については、18類の黒川式土器や所謂孔列文土器が出土している。このように中期を除く草創期～晩期にかけての様々な時期の出土がみられるが、周辺の遺跡からは、このような継続性は見られず本遺跡の特徴であるといえる。さらに2類の水追式土器についてはこの地域にある程度まとまった量出土する事は貴重であると思われるここでそれぞの個体を比較したい。

『水追遺跡報告書II』によれば、古い要素とされるのが、「内湾する器形を有するもの、口唇部上面を平坦にするものの、口縁部外面を肥厚させるもの、口唇部刻が貝殻蝶番部によるもの、貝殻横位刺突文を施すもの」に対し新しい要素とされるのが「直立しない外傾の器形を有するもの、口唇部上面を丸くするもの、口縁部外面を肥厚させないもの、口唇部刻が棒状工具によるもの、縦位貝殻刺突文・貝殻腹縁押引文を施すもの」とされている。本遺跡出土の土器では、内湾すると思われるものではなく、全て直立もしくは外傾している。口縁部形態は、平坦かやや口縁外面が高くなるものがあり後出とされる岩本式土器に近い要素を持つと思われる。施文では、古い要素のみの構成は77で、新しい要素のみの構成

は76で他は、どちらの要素とも混在している。80の施文は異質ではあるが、口唇外面に刻目、口縁外面に刺突文を施す行為が3類と同様と判断した。また、岩本式土器とした3類土器の82も口縁部外面の肥厚や貝殻腹縁横位刺突文など水追式土器の古いとされる要素を持つ。



石器は石鏃・石斧・磨石・石錐がある程度の量出土したが、そのうちチャート製の石鏃は調査地南側を中心に大量の剥片・碎片が出土しており、この地で他の製品も含めて製作されていた可能性がある。これに対し、白色の黒曜石（姫島産）の剥片・碎片はきわめて低い出土であるため、これらの製品は外部より持ち込まれた可能性がある。

#### 【弥生時代】

445の柱状脚台付の甕は、口縁外面の台形状突帯やその下に3条の突帯をもつなど、中期中葉～後葉に見られる甕の特徴をもっているが、口縁外面の貼付突帯がやや下方に垂れることからより新しい要素が入っていると考えられる。

その他の土器は、緩い「く」の字屈曲口縁を持つ甕(448)や櫛描波状文を施した複合口縁甕(449)、451・452の平底の甕(451・452など)など、後期と考えられる土器が主体的に出土した。

遺構の検出には至らなかったため、集落など定住の場ではなかったが、磨製石鏃などの出土もあることから、近隣の集落から狩猟・採集などを行う場であったことが推測される。

#### 【古墳時代】

出土した土器はいずれも後期のものと考えられ、南に谷を挟みこの時期の大規模な集落跡が検出された下耳切第3遺跡があり、出土位置も集落からみて

谷の対岸付近であるため、調査地の下の平場は集落の生活圏の一部であったと考えられる。

#### 【古代】

SC 4 であるが、蔵骨器は転用された須恵器の編年から 8 世紀後半の所産で、土坑内の 3 箇所の炭化物の年代測定の結果を総合すると 790 年～ 880 年であるので、埋葬された時期は平安時代初期と考えられる。埋葬された人物像であるが、下耳切第 3 遺跡で 7 世紀末の所産と推定される円面鏡が出土し、この地域にすでに文字を使用する人物が存在し、本遺跡でも 8 世紀代の环蓋を転用した転用硯が出土していることから平安時代の初期までにこの地域に識字層が存在していたと思われ、その中の一人が埋葬された可能性がある。

#### 【その他】

塚の時代であるが、塚下の二次堆積 K-Ah 層から須恵器などが出土しており、少なくとも古代以降に形成されたと考えられ、形成時にはすでに存在していたと考えられる木の切り株が樹齧 40 ～ 20 年であったことから形成されてから 50 年は経っていないと思われる。『高鍋町史』によれば、太平洋戦争中には、軍関係の施設が造られ、実際、踏査をすると調査地近辺に砲台跡も残っていた。地元の方によると調査地あたりに通信施設が在ったという話も聞く事が出来たので、戦争時の施設遺構に伴うものではないかと思われる。溝状遺構についても塚の周囲で検出されているため塚に関連するものである可能性がある。

#### (註)

重留康宏は「宮崎県西部における縄文早期遺跡の概観」(『九州縄文時代早期研究ノート』第 1 号 2003)・「前原西式上器雑考」(『九州縄文時代早期研究ノート』第 2 号 2004) で「前平系」を前平式の範疇に入らない別の土器型式として「前原西式」を設定している。なお、「別府原式土器」とその周辺(『九州縄文時代早期研究ノート』第 2 号)の中で上杉彰紀は「前平式系土器」を「別府原式土器」と設定している。

#### 〈引用・参考文献〉

##### 萩台地の遺跡 X

「右京西遺跡」1986 萩町教育委員会

『肥後考古』11号 1998 肥後考古学会

熊本県文化財調査報告第 206 集

「蒲生・上の原遺跡」1996 熊本県教育委員会

熊本県文化財調査報告第 158 集

「頭地田口 A 遺跡」2002 熊本県教育委員会

『鹿児島考古』第 16 号 1982 鹿児島考古学会

郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

「湯屋原遺跡」2003 鹿児島県郡山町教育委員会

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書(35)

「水迫遺跡 II」2002 指宿市教育委員会

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 7

「星塚遺跡」1993

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 15

「小牧 3A 遺跡」「岩本遺跡」1996

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 28

「上野原(第 10 地点)第 4 分冊」2001

南九州縄文集成 2

「南九州貝殻文系土器 II」2003 南九州縄文研究会

『宮崎考古』6・14・15・18 号 宮崎考古学会

宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第 2 集

「堂地西遺跡」1985 宮崎県教育委員会

「天神河内第 1 遺跡」1991 宮崎県教育委員会

「田代ヶ八重遺跡」1992 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 21 集

「右葛ヶ追遺跡」2000

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 27 集

「竹ノ内遺跡」2000

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 43 集

「木脇遺跡」2001

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 59 集

「迫内遺跡」2002

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 51 集

「内城跡」2002

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 86 集

「野首第 1 遺跡」2004

第17表 繩文時代【二次堆積K-Ah層下】遺構出土土器観察表

NO.	出土地點	器種	部位	量(回)			手法・調整・文様ほか	色調	成形	胎土の特徴	備考
				口径	底径	壁高					
61 32	SI 32	深鉢	口縁 胴部				外面 内面	楕位(やや波状)貝殻条文	明黄褐色 良好	2mm以下の淡黃色粒を多く含む、灰色粒を少し含む	8類
							外面 内面	楕位(やや波状)貝殻条文	浅黄褐色 良好	1mm以下の白色粒を多く含む	8類
62 32	SI 32	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ	黄褐色 良好	2mm以下の淡黄褐色・黒色粒を含む	8類?
							外面 内面	ナデ	黒褐色 良好	2mm以下の淡黄褐色	平底
63	SI 32	深鉢	胴部 ~底部								

第18表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】遺構出土土器観察表

NO.	出土地點	器種	部位	量(回)			手法・調整・文様ほか	色調	成形	胎土の特徴	備考
				口径	底径	壁高					
64 37	SI 37	深鉢	胴部				外面 内面	斜位(＼)貝殻条文	橙 良好	4mm以下の淡黄色粒を少し含む	
							ナデ	明黄褐色			
65 37	SI 37	深鉢	胴部				外面 内面	条痕(風化により不明瞭) 条痕(風化により不明瞭)	橙 良好	3mmの淡黄色粒、2mmの黑色透明・黑色光沢粒を含む	
							ナデ	にじい青緑			
66 口縁部	SI38	深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条文(風化により不明瞭)	黄褐色 良好	1mmの淡黄色粒、赤褐色・黒色光沢粒を含む	波状 口縁
							ナデ	貝殻条文(風化により不明瞭)	橙 良好	2mmの淡黄色粒を含む	
67 口縁部	SI38	深鉢	胴部				外面 内面	ナデ(風化により不明瞭)	橙 良好	2mm以下の淡黄色粒を含む	
							ナデ	にじい青緑	灰青	2mm以下の淡黄色・黒色光沢粒を含む	13類
68	SC1	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、竪線文、網突文	にじい青緑 良好	2mm以下の淡黄色・黒色光沢粒を含む	13類
							ナデ	灰青			
69	SC1	深鉢	胴部				外面 内面	ナデ	にじい青緑	3mm以下の淡黄色透明粒、2mm以下の黑色透明粒、1mm以下の淡黄色粒を含む	13類
							ナデ	灰青			
70	SC2	深鉢	口縁				外面 内面	比縫文 ナデ	にじい青 良好	1mm以下の淡黄色・黒色光沢透明粒、2mm以下の淡黄色透明粒を含む	13類

第19表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】遺構出土石器観察表

NO.	出土地點	器種	石材	量(回)			最大幅	最大厚	重量	備考
				口径	底径	壁高				
71	SI30	有溝砥石	砂岩		9.4	8.1	2.8		268.9	

第20表 繩文時代【二次堆積K-Ah層下】包含層出土土器観察表(1)

NO.	出土地點	器種	部位	量(回)			手法・調整・文様ほか	色調	成形	胎土の特徴	備考
				口径	底径	壁高					
72	C8	深鉢	口縁				外面 内面	口縁外面に羅位刻み、1条以上の陸起縦文	にじい青緑 良好	1mm以下の乳白色粒を含む	1類
							ナデ	風化により不明瞭、ナデ?	浅黃褐色 良好		
73	C8	深鉢	胴部				外面 内面	1条以上の陸起縦文 風化により不明瞭、ナデ?	にじい青緑 良好	1mm以下の乳白色粒を含む	1類
							ナデ	風化により不明瞭、ナデ?	浅黃褐色 良好		
74	F9	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、口唇部外縁に貝殻繙番押印刻み、口縁部に貝殻繙番押印刻み+横位の刺突縞文(1条)	明黄褐色 良好	2mm以下の淡黄色・黒色粒を多く含む	2類
							ナデ	貝殻繙番押印刻み	明黄褐色 良好		
75	F4	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、口唇部外縁に貝殻繙番押印刻み、口縁部に貝殻繙番押印刻み+横位の刺突縞文(1条)	黄褐色 良好	1mm以下の灰白色・無粒を多く含む	2類
							ナデ	にじい青緑	良		
76	F4	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、口唇部外縁に貝殻繙番押印刻み、口縁部に貝殻繙番押印刻み+横位の刺突縞文(2条)	にじい青緑 良好	1mm以下の淡黄色・灰色・赤褐色粒を含む	2類
							ナデ	にじい青緑	良		
77	F8	深鉢	口縁～胴部				外面 内面	貝殻条纹後ナデ、口唇部外縁に貝殻繙番押印刻み、口縁部に貝殻繙番押印刻み+横位の刺突縞文(3条)	にじい青緑 良好	2mm～6mmの淡黃褐色、4mm以下の灰色・黑色・無粒を含む	2類
							ナデ	貝殻条纹後ナデ	良		
78	E5	深鉢	口縁	(19.6)			外面 内面	(＼)形跡、口縁部に斜位(＼)貝殻条文と貝殻繙番部横立刺突文(2条)	にじい青緑 良好	1mm～2mmの乳白色粒を多く含む、2mm以下の金色光沢粒を含む	2類
							ナデ	にじい青緑	良		
79	H9	深鉢	口縁	(16.6)			外面 内面	斜位(＼)貝殻条文と貝殻繙番部横立刺突文(2条)	明黄褐色 良好	3mm以下の黒色・灰白色・褐色粒、2mm以下の金色光沢粒を含む	2類
							ナデ	にじい青緑	良		
80	E4	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、口唇部外縁に櫛(矢頭)状工具による羅位刻み、口縁部に連続刻突文	黄褐色 良好	2mm以下の黒褐色・金色光沢粒を含む	2類
							ナデ	ナデ	良		
81	F6	深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条位(＼)刻み、口縁部に貝殻繙番部斜位(＼)貝殻条文	橙 良好	2mm以下の灰白色・黒色透明粒を含む	2類
							ナデ	にじい青緑	良		

第21表 繩文時代【二次堆積K-Ah層下】包含層出土土器觀察表(2)

NO.	出土場所	器種	部位	測量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考	
				口径	底径	壁高						
82	G4	深鉢	口縁				丁寧なナガ、口縁部に棒状工具押付 跡み、口縁部に貝殻腹縫部斜削(?) 文(4条)	にぶい燒 良好	1mm以下の乳白色・黒色 ・灰白色・白色粒を含む	3類		
							丁寧なナダ	にぶい燒				
83	F6	深鉢	口縁 胴部				横～斜位(?)の貝殻条痕、口縁～口 縁部に棒状工具貝殻腹縫部斜削(?) 文(4条)	にぶい燒 良好	2mm以下の乳白色・灰白色 を含む	4類		
							内面	にぶい燒				
84	H7	深鉢	口縁 胴部				横～斜位(?)の貝殻条痕、 斜位(?)の貝殻条痕、棒状工具(貝殻 腹縫部)斜位(?)連続刻文	にぶい燒 良好	1mm以下の灰褐色・乳白色粒・1 mm程度の赤褐色光沢柱状粒を 含む	4類		
							内面	にぶい燒				
85	G4	深鉢	口縁				横～斜位(?)の貝殻条痕、口縁外 端に貝殻腹縫部斜位(?)連続刻文	にぶい燒 良好	2mm以下の赤褐色・黒色・ 灰白色・白色・無色透明粒を 含む	4類		
							内面	にぶい燒				
86	H9	深鉢	口縁				風化により不明瞭、斜位(?)の貝殻 条痕、棒状工具貝殻腹縫部斜位(?) 文(4条)連続刻文	にぶい燒 良好	3mm以下の白・淡黄色・ 黒色透明の粒を含む	4類		
							内面	橙				
87	H9	深鉢	口縁				風化により不明瞭、斜位(?)の貝殻 条痕、棒状工具貝殻腹縫部斜位(?) 文(4条)連続刻文	明黄褐 良好	5mm以下の灰白色粒・3mm以下の黒色 粒を含む	4類		
							内面	明黄褐				
88	H5	深鉢	口縁部				横～斜位(?)の貝殻条痕、貝殻腹縫 部斜位(?)連続刻文	明黄褐 良好	4mm以下の灰白色・黒色粒 を含む	4類		
							内面	黄褐				
89	H5	深鉢	胴部				斜位(?)の貝殻条痕	明黄褐 良好	3mm以下の明赤褐色・2mm 以下の浅黄色粒を含む	4類		
							内面	ナダ				
90	G7	深鉢	口縁				斜位(?)の貝殻条痕、貝殻腹縫部斜 位(?)連続刻文	明褐 良好	2mm以下の赤褐色透明粒・黑 色柱状粒・2mm浅黄色粒を 含む	4類		
							内面	細い斜位(?)貝殻条痕	明褐			
91	E5	深鉢	胴部				斜位(?)の貝殻条痕	明黄褐 良好	1mm以下の灰褐色透明・淡黄色 粒・3mm以下の赤褐色粒を含む	4類		
							内面	細い斜位(?)貝殻条痕	明黄褐			
92	G5	深鉢	口縁				斜位(?)の貝殻条痕、口縁部に縱線 の彫刻工具による刻み	明褐 良好	1mm以下の灰褐色・灰色透明 ・黑色・2mmの赤褐色光沢 ・4mmのオーリーブ色粒を含む	4類		
							内面	ナダ				
93	D6	深鉢	口縁				横位太い貝殻条痕、口縁部に彫(?)記 状工具による連続押込文	にぶい燒 良好	2mm以下の乳白色粒を多く 含む	4類		
							内面	風化により不明瞭、ナダ?	にぶい燒			
94	F4	深鉢	口縁				ナダ、口縁部外端に箇(?)形工具 跡み	にぶい燒 良好	1mm以下の黑色透明・無色 透明・白色・灰色粒を含む	4類		
							内面	ナダ	明褐			
95	F4	深鉢	口縁				横位太い貝殻条痕、口縁部に複数 の彫刻工具による連続押込文	にぶい燒 良好	1mm以下の乳白色透明・黒色 透明・白色粒を含む	4類		
							内面	ナダ	明褐			
96	G5	深鉢	口縁				風化により不明瞭、横～斜位(?)の貝 殻条痕(?)	にぶい燒 良好	1mm以下の乳白色粒を含む	4類		
							内面	横位ナダ	にぶい燒			
97	F9	深鉢	胴部				横位貝殻腹縫部斜削刻文	にぶい燒 良好	1mm以下の白色・黒色・無 色透明粒を含む	5類		
							内面	横位貝殻腹縫部斜削刻文	にぶい燒			
98	B9	深鉢	口縁				ナダ、口縁部に棒状工具連接連続 突文(4条)、胴部に反射状連続刻文	にぶい燒 良好	4mm以下の金色光沢柱状粒を多く 含む	6類		
							内面	横位ナダ	にぶい燒			
99	G4	深鉢	口縁部				斜位(?)の貝殻条痕	黄褐 良好	2mm以下の淡黄色・無色透 明粒を多く含む	7類		
							内面	風化により不明瞭、ミガキ?	明黄褐 良好			
100	G9	深鉢	口縁				斜位(?)の貝殻条痕	改善 良好	2mm以下の乳白色・無色 透明粒を含む	7類		
							内面	風化により不明瞭、ミガキ?	改善 良好			
101	F8	深鉢	胴部				風化のため不明瞭、斜位(?)の貝殻条痕	浅黃褐 良好	1mm以下の乳白色・無色透 明粒を含む	7類		
							内面	風化により不明瞭、ミガキ?	浅黃褐 良好			
102	G5	深鉢	口縁				風化により不明瞭、横位(?)貝殻条痕 と(?)波状(?)貝殻条痕	にぶい燒 良好	2mm以下の灰色・乳白色粒 を含む	8類		
							内面	ナダ	にぶい燒			
103	F4	深鉢	口縁				外縁	風化により不明瞭、横位(?)貝殻条痕 と(?)波状(?)貝殻条痕	淡・浅黃 良好	微細な黒色粒を多數、1mm以 下の乳白色粒を少し含む	8類	
							内面	ナダ	改善 良好			
104	C7	深鉢	口縁				外縁	横位(?)貝殻条痕	2mm以下の淡黄色粒を含む	8類		
							内面	ナダ	改善 良好			
105	D4	深鉢	口縁				外縁	横位(?)貝殻条痕	2mm以下の淡黄色粒を含む	8類		
							内面	ナダ	明黄褐 良好			
106	G5	深鉢	口縁				外縁	横位(?)貝殻条痕	2mm以下の淡黄色粒を多く 含む	8類		
							内面	ナダ	改善 良好			

第22表 繩文時代〔二次堆積K-Ah層下〕包含層出土器觀察表（3）

NO.	出土地	器種	部位	重さ(g)		手法・調整・文様ほか	色調	層成	胎土の特徴	備考
				口径	底径					
107	G4	深鉢	口縁			外面 横位(やや波状)貝殻系底 内面 ナデ	明褐色 濃褐色	2mm以下の淡黃褐色粒、1mmの灰褐色粒を含む	8類	
108	F5	深鉢	口縁			外面 横位(やや波状)貝殻系底 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	1mm以下の白色・灰色・無色透明・黑色透明を含む	8類	
109	G5	深鉢	口縁			外面 横位(やや波状)貝殻系底 内面 ナデ	黃褐色 淡黃褐色	1mmの黑色柱状粒、灰白色 ・淡黄色粒を含む	8類	
110	G5	深鉢	口縁~側部	(19.8)		外面 横位(やや波状)貝殻系底 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	1mm以下の乳白色粒を含む	8類	
111	B10	深鉢	側部~底部			外面 横位(やや波状)貝殻系底 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	2mm以下の乳白色・灰色粒 を多め、金色光沢粒を含む	8類	
112	B11	深鉢	胴部			外面 肩部横内押型文 内面 ナデ	穀粒 淡黃褐色	2mm以下の白色粒を含む	9類	
113	F4	深鉢	口縁~側部			外面 横位(筋の大きな)撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	4mm以下の乳白色粒、1mm以下の灰褐色・赤褐色・淡黃褐色 ・無色透明・黑色透明を含む	9類	
114	G6	深鉢	胴部			外面 縦方向の撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	6mm以下の灰色・灰褐色粒、1mm以下の白色・白色・黃褐色 ・無色透明・黑色透明を含む	9類	
115	C9	深鉢	胴部			外面 縦方向の撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	4mm以下の灰白色・黃褐色 ・減色・白色・無色透明 ・灰色透明粒を含む	9類	
116	E3	深鉢	胴部			外面 縦方向の撚糸文 内面 ナデ	黃褐色 淡黃褐色	1mmの無色透明・灰色透明・ 黑色・明赤褐色・無色透明 ・3mmの灰白色粒を含む	9類	
117	A10	深鉢	D部~側部			外面 全体に縦位撚糸文 内面 ナデ、口縁部横内押型文	にい黄褐色 にい黄褐色	2mm以下の乳白色粒を含む	9類	
118	B10	深鉢	底部			外面 縦方向の撚糸文 内面 ナデ	明黃褐色 にい黄褐色	1mmの灰褐色透明・黑色・灰白色 ・2mmの灰白色・淡黃褐色 ・4mmの灰白色粒を含む	9類	
119	E3	深鉢	胴部			外面 縦位山形押型文 内面 ナデ	穀粒 にい黄褐色	1mmの褐色光沢粒状粒、1mmの黑色 透明・灰褐色・灰白色・3mm以下の明黄褐色 ・4mm以下の淡黃褐色	9類	
120	A11	深鉢	胴部			外面 不定方向山形押型文 内面 ナデ	黃褐色 淡黃褐色	1mm以下の灰色透明・2mm 以下の淡黃褐色・1mm以下 の白色粒を含む	9類	
121	A10	深鉢	胴部			外面 不定方向山形押型文 内面 ナデ	にい黄褐色 淡黃褐色	2mm以下の淡黃褐色・1mm 以下の灰色透明・淡黃褐色 を含む	9類	
122	B8	深鉢	口縁			外面 変形撚糸文 内面 ナデ、口縫部に変形撚糸文	にい黄褐色 にい黄褐色	3mm以下の褐色・乳白色粒 ・黑色光沢柱状粒を含む	9類	
123	A10	深鉢	胴部			外面 変形撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	微細な黒色・白色粒を多 く含む	9類	
124	C6	深鉢	胴部			外面 变形撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	3mm以下の褐色・乳白色・ 灰色粒・微細な・無色透明 粒を含む	9類	
125	B10	深鉢	口縁			外面 ナデ、口縫部に斜位刻み、口縫部に沈線 内面 ナデ	明黃褐色 明黃褐色	2mm以下の褐褐色・褐色 粒を含む	10類	
126	A11	深鉢	頭部			外面 ナデ、沈線文、撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	3mm以下の乳白色・白色・ 灰色粒を含む	10類	
127	C10	深鉢	胴部			外面 沈糸文 内面 ナデ	穀粒 明黃褐色	2mm以下の灰白色・黑色透明 粒を含む	10類	
128	A8	深鉢	胴部			外面 沈糸文、横目状撚糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	1mm以下の乳白色・褐色 ・無色透明粒を多く含む	10類	
129	B9	深鉢	胴部			外面 ナデ、網目状撚糸文、沈糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	1mm以下の淡黃褐色・黑色・灰 色透明・無色透明・黑色透明 ・3mm以下の灰白色粒を含む	10類	
130	D9	深鉢	D部~側部			外面 ナデ、口縫部に斜位刻み、口縫部に沈線 内面 ナデ	明黃褐色 淡黃褐色	3mm以下の黃褐色・黑色粒 を含む	10類	
131	B10	深鉢	口縁			外面 ナデ、沈線文 内面 ナデ	淡黃褐色 黃褐色	3mmのにい黄褐色粒・2mm 以下の灰白色粒を含む	10類	
132	B10	深鉢	口縁			外面 ナデ、口縫部に棒状工具による斜位 刻み、口縫部に沈糸文 内面 ナデ	にい黄褐色 にい黄褐色	1mm以下の乳白色・黑色透 明粒を多く含む	10類	
133	D10	深鉢	口縁~側部			外面 ナデ、口縫部に斜位刻み、口縫部に沈糸 内面 ナデ	にい黄褐色 淡黃褐色	3mm以下の淡黃褐色粒・1mm以下 の白色・黑色・白色・淡黃褐色 ・無色透明・黑色透明を含む	10類	

第23表 縄文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表（1）

NO.	出土地	器種	部位	表面(ce)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ					
134	G4	深鉢	口縁				外面 内面ナデ	曲線具沿条痕文 内面ナデ	に高い黄色 に高い黄色	1mm以下の灰白色、乳白色粒を多く含む 黒色光沢柱状粒を含む	11類
135	B10	深鉢	胴部				外面 内面	貝殻条痕(風化により不明瞭) 風化により不明	明褐色 暗褐色	1mm以下灰・黑色紋、黒色光沢柱状粒、2mmの黒色光沢柱状粒、2mm以下の淡黄色粒を含む	11類 難?
136	B10	深鉢	口縁				外面 内面	削・横位の貝殻条痕文 貝殻条痕→ナデ	に高い黄色 に高い黄色	5mm以下の灰白色、3mm以下の灰白色、1mm以下の白褐色、2mm以下の黒色光沢柱状粒を含む	11類
137	B10	深鉢	口縁~胴部	17.4			外面 内面	丁寧なナデ・縦・横・斜め・曲筋次の貝殻条痕文 貝殻条痕→丁寧なナデ	明褐色 に高い黄色	4mm以下の淡黄色粒、3mm以下の白褐色、1mm以下の白褐色、2mm以下の黒色光沢柱状粒	11類
138	C11 F5	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ、貝殻条痕、板状工具による曲跡? 横位貝殻条痕	に高い黄色 相	1mm以下の灰黄色、灰色、灰色透明、2mm以下の黒色光沢粒を多く含む	11類
139	E8	深鉢	胴部				外面 内面	貝殻条痕 横位のナデ	に高い黄色 に高い黄色	1mm以下の淡黄色、灰色、に高い赤褐色、黒色光沢粒を多く含む	11類
140	G3	深鉢	口縁				外面 内面	縫合・斜位の微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の淡黃褐色、黑色、赤褐色、灰色、灰色透明、無色透明粒を含む	12類
141	A11	深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条痕?微隆起線文(風化により不明瞭) 風化著しく不明	淡褐色 に高い褐色	3mm以下の灰白色粒を多く含む	12類
142	B10	深鉢	口縁				外面 内面	縫合の微隆起線文、横位の連続刻突文 横位の貝殻条痕	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の乳白色、灰褐色、粗細なガラス状の粒を含む	12類
143	F10	深鉢	胴部				外面 内面	変形状の微隆起線文に棒跡? ナデで刺突	暗赤褐色 に高い褐色	1mm以下の淡黄色、深・灰白色の帶状、黒色光沢粒、2mmの黒色光沢柱状粒、黄褐色、無色透明粒を含む	12類
144	D7	深鉢	胴部				外面 内面	変形状の微隆起線文 ナデ	褐色 灰	1mmの淡黃褐色、黃褐色、灰白色粒、2mmの灰白色、無色透明柱状粒を含む	12類
145	F3	深鉢	胴部				外面 内面	変形状の微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の淡黄色、白色、灰褐色、黑色透明、灰褐色透明、無色透明粒を含む	12類
146	F3	深鉢	胴部				外面 内面	変形状の微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	2mm以下の淡黄色、白色、灰褐色、黑色透明、灰褐色透明、無色透明粒を含む	12類
147	F3	深鉢	胴部				外面 内面	変形状の微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	微細な乳白色粒、黒色光沢粒を多く含む	12類
148	F3	深鉢	頭縁?				外面 内面	変形状の微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の乳白色粒、黑色光沢粒を多く含む	12類
149	A11	深鉢	胴部				外面 内面	4条の微隆起線文、列点(×)一列 横位の貝殻条痕	淡褐色 に高い褐色	1mm以下の黒色光沢粒を含む	12類
150	A11	深鉢	胴部				外面 内面	ナデ、列点(×)一列)と板状工具による幅広洗文で微隆起線文 ナデ、横位の太い貝殻条痕	に高い黄色 に高い褐色	微細な乳白色粒、灰色光沢粒を含む	12類
151	B10	深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条痕、微隆起線文(3条)、口縁剝離 貝殻条痕	に高い褐色 褐色	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢柱状粒を多く含む	12類
152	B10	深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条痕→ナデ、刻目突帯文(神作工 具)と剝離	明赤褐色 に高い褐色	1mm以下の灰黑色光沢粒、淡黄色光沢粒を含む	12類
153	B10	深鉢	口縁				外面 内面	横位の突帯文(2条) 風化著しく不明	明褐色 に高い褐色	2mm以下の赤褐色、淡黄色、乳白色透明、黑色光沢柱状粒を含む	12類
154		深鉢?	胴部?				外面 内面	貝殻条痕→ナデ、微隆起突起2条 貝殻条痕→ナデ	に高い褐色 淡褐色	3mm以下の褐色、灰色粒を多く含み相混	12類
155	F10	深鉢	口縁?				外面 内面	ナデ、刻目突帯文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の乳白色透明、2mm以下の黒色光沢柱状粒を含む	12類
156	F3	深鉢	頭縁?				外面 内面	貝殻条痕、微隆起線文 ナデ	に高い褐色 に高い褐色	1mm以下の乳山色透明粒、黑色光沢柱状粒を含む	12類
157		深鉢	口縁				外面 内面	貝殻条痕→ナデ、刻目突帯文(都?部)? 工具上から剝離	明赤褐色 に高い褐色	2mm以下の灰白色光沢粒、黑色光沢柱状粒を含む	12類
158	D10	深鉢	口縁				外面 内面	ナデ?微隆起線文 貝殻条痕(風化により不明瞭)	に高い褐色 に高い褐色	4mm以下の灰白色粒、黑色光沢柱状粒、2mm以下の淡黄色光沢粒を含む	13類
159	G2	深鉢	胴部~頭縁?				外面 内面	丁寧なナデ、横位、横位の平行状線文 丁寧なナデ	に高い褐色 暗褐色	2mm以下の灰白色光沢柱状粒、黑色光沢柱状粒、5mmの黑色光沢柱状粒の灰白色粒を含む	13類
160	B10	深鉢	胴部				外面 内面	ナデ、綾形状短弧線文 ナデ	淡褐色 淡褐色	1mm以下の灰色、に高い黄色、無色透明光沢粒を含む	13類

第24表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表（2）

NO.	出土地點	器種	部位	表面(①) 口縁 基底 裏面			手法・調整・文様ほか	色調	度数	胎土の特徴	備考	
				外面	裏面	横位・横位の平行沈縫						
161	F2	深鉢	胴部				外面 裏面	に高い 良好	1mm前後の灰色粒を含む	13類		
							横位のナデ	に低い 良好				
162		深鉢	口縁				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	明黄褐 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							ナデー、連続刻突縫文	黄褐				
163	B11	深鉢	口縁				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	相 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							ナデー、連続刻突縫文	に低い 良好				
164	B11	深鉢	口縁				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	灰褐 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							ナデー、連続刻突縫文	に低い 良好				
165	C11	深鉢	口縁				外面 裏面	風化により不明瞭、2本単位の平行沈縫 文、ナデー、刻突文	に高い 良好	黒色光沢柱状粒をやや多く含む	14類	
							ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	に低い 良好				
166	C11	深鉢	口縁				外面 裏面	風化により不明瞭、2本単位の平行沈縫 文、ナデー、刻突文	に高い 良好	黒色光沢柱状粒をやや多く含む	14類	
							ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	に低い 良好				
167	B11	深鉢	胴部				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	に高い 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							横位のナデー風化により不明瞭	に低い 良好				
168	B11	深鉢	胴部				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	に高い 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							横位のナデー風化により不明瞭	に低い 良好				
169	B11	深鉢	胴部 (口縁に 近い)				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	相 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							ナデー、連続刻突縫文	相				
170	C9	深鉢	胴部				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、ナデー	に高い 良好	2mm以下の灰色、淡黄色、 黑色粒を多く含む、黒色光沢柱状粒を含む	14類	
							ナデー	に低い 良好				
171	B11	深鉢	胴部				外面 裏面	ナデー貝殻条痕、2本単位の平行沈縫 文、連続刻突縫文	に高い 良好	1mm前後の灰色粒を多く含む	14類	
							横位のナデー風化により不明瞭	に低い 良好				
172	F9	深鉢	口縁				外面 裏面	ナデー、連続押引縫文	に高い 良好	1mm以下の灰白色、黒色粒 を含む	15類	
							横位貝殻条痕	に低い 良好				
173	F9	深鉢	胴部				外面 裏面	ナデー、連続押引縫文	に高い 良好	1mm以下の灰白色、黒色粒 を含む	15類	
							横位貝殻条痕	に低い 良好				
174	E2	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー	相	3mm以下の赤黒色、淡黄色 黒色粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	相				
175	B10	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	明赤褐 良好	2mm以下の乳白色、黒褐色 1mm以下の透明粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	相				
176	B11	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	明赤褐 良好	3mm以下の淡黄色、暗赤色 黒色粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	相				
177	E10	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	明赤褐 良好	1mm以下の黒色粒を多く含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	明赤褐				
178	F10	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	赤褐 良好	5mm以下の赤褐色、白色、 黒色、無色透明粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	赤褐				
179	D10	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	相	3mm以下の乳白色、赤褐色 黒色、無色透明粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	相				
180	B11	深鉢	頭部				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	に高い 良好	2mm以下の黒色、灰色、淡 黄色、無色透明粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	に低い 良好				
181	E10	深鉢	頭部				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	明赤褐 良好	2mm程度の褐色粒、1mm以 下的灰色粒を含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	明赤褐				
182	B11	深鉢	頭部				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー、斜位(△)の貝殻条 縫跡刻突縫文	に高い 良好	2mm以下の乳白色、灰色 多數、微細な黒色光沢粒 を少し含む	16類	
							貝殻条痕→ナデー	に低い 良好				
183	B11	甕	口縁 胴部	14.45			外面 裏面	横位△ガキ、 縦状工具による斜位△の貝殻条 縫跡刻突縫文、沈縫文	に高い 良好	2mm以下の乳白色、灰色 粒を多く含む	17類	
							ナデー	相				
184	E8	深鉢	口縁				外面 裏面	ナデー、沈縫文	明赤褐 良好	2mm以下の灰白、尾白、灰 色透明粒を含む	17類	
							貝殻条痕→ナデー	に高い 良好				
185	F10	深鉢	口縁				外面 裏面	貝殻条痕→ナデー	に高い 良好	3mm以下の黃褐色、2mm 以下の男赤褐色を含む	17類	

第25表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器観察表(3)

NO.	出土地	器種	部位	法面(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	感	土石の特徴	備考
				口径	底径	器高					
186	E9	深鉢	口縁				外面 ナデ	にぶい黄褐色	良好	3mm以下の灰赤褐色・灰白	17類
							内面 ナデ	にぶい黄褐色	良好	色粒を含む	
187	A10	深鉢	口縁				外面 ナデ	にぶい褐色	良好	6mmの黄赤褐色・4mm以下の暗赤褐色・灰白色を含む	17類
							内面 ナデ	にぶい褐色	良好		
188	E1	深鉢	口縁 脇部				外面 ナデ	椎	良好	2mm以下の灰白色・黒褐色	17類
							内面 ナデ	椎	良好	・黒色透明粒を含む	
189	E1	深鉢	口縁				外面 ナデ	椎	良好	1mmの灰白色・黄褐色・2mm以下の褐色に、4mm以下の黒褐色	17類
							内面 ナデ	椎	良好	・1mmの黒色板状粒を含む	
190	F3	深鉢	口縁				外縁 模位ナデ	椎	良好	2mm以下の褐灰色・灰白色	17類
							内面 模位ナデ	椎	良好	・粒を含む	
191	D5	深鉢	口縁				外面 箆ケズリ	にぶい黄褐色	良好	1mm以下の黒色・赤褐色・白色	17類
							内面 箆ケズリ	にぶい黄褐色	良好	・無色透明粒を含む	
192	E3	深鉢	口縁				外面 箆ケズリ、箆状工具による連続刺突文	にぶい黄褐色	良好	2mm以下の淡黃・赤褐色	17類
							内面 箆ケズリ	にぶい黄褐色	良好	・黒色・無色透明粒を含む	
193	D10	深鉢	口縁				外面 箆ケズリ	にぶい黄褐色	良好	2mm以下の黒色・無色透明	17類
							内面 箆ケズリ	にぶい黄褐色	良好	・粒を含む	
194	D10	深鉢	口縁				外面 箆ケズリ	椎	良好	2mm以下の灰白色・灰白色透明	17類
							内面 箆ケズリ	椎	良好	・粒を含む	
195	G8	深鉢	口縁				外面 ケズリ	椎	良好	3mmの淡黃色・2mmの暗褐色	17類
							内面 ケズリ	にぶい黄褐色	良好	・褐色粒を含む	
196	B10	深鉢	口縁				外面 ケズリ	明黄色	良好	3mm以下の灰白色・2mm以下の褐色粒を含む	17類
							内面 ケズリ	明黄色	良好		
197	F3	深鉢	口縁				外面 ケズリ	椎	良好	6mm～2mmの赤褐色・褐色	17類
							内面 ケズリ	褐色	良好	・粒を含む	
198	B9	深鉢	口縁				外面 ケズリ	椎	良好	3mm以下の明赤褐色・2mm以下の黒色透明粒を含む	17類
							内面 ケズリ	椎	良好		
199	G2	深鉢	口縁 脇部				外面 ケズリ	淡黃色	良好	1mmの灰黄色・灰白色・2mmの明赤褐色・無色透明粒を含む	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	椎	良好		
200	F2	深鉢	口縁				外面 ケズリ	椎	良好	2mmにぶい黄褐色・灰白色	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	浅黃色	良好	・粒を含む	
201	E3	深鉢	口縁				外面 ケズリ	にぶい黄褐色	良好	2mm以下の明赤褐色・灰白色	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	明黄色	良好	・色粒を含む	
202	B9	深鉢	口縁				外面 ケズリ、口唇部刻目	にぶい黄褐色	良好	微細な乳白色粒を含む	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	灰褐色	良好		
203	E1	深鉢	口縁				外面 ケズリ	にぶい黄褐色	良好	1mm以下の乳白色・褐色・無色透明粒を含む	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	にぶい黄褐色	良好		
204	B9	深鉢	口縁				横位のナデ(風化により不明瞭)	灰褐色	良好	1mm以下の乳白色・無色透明粒を含む	17類 波状口縁
							内面 其脱条痕	灰褐色	良好		
205	D10	深鉢	口縁				外面 ケズリ、口唇部刻目	にぶい黄褐色	良好	微細な灰褐色・褐色粒を多く含む	17類 波状口縁
							内面 ケズリ	にぶい黄褐色	良好	・少しある	
206	B9	浅鉢	口縁				横位ミガキ、沈線文	灰白	良好	1mm以下の灰白色・2mm以下の浅褐色粒を含む	18類
							内面 横位ミガキ	灰白	良好		
207	A10	浅鉢	口縁				外面 横位ミガキ(風化により不明瞭)、沈線文	黄褐色	良好	微細な灰白色粒を少し含む	18類
							内面 横位ミガキ	黄褐色	良好		
208	D11	浅鉢	口縁				ミガキ、沈線文	灰褐色	良好	1mm以下の乳白色・黑色・無色透明粒を含む	18類
							内面 横位ミガキ(風化により不明瞭)	灰褐色	良好	・微細な無色透明粒を含む	
209	C6	浅鉢	口縁				外面 横位ミガキ	暗灰褐色	良好	1mmの灰白・黄褐色・黒色	18類
							内面 横位ミガキ	火	良好	・透明粒を含む	
210	C6	浅鉢	頸部 脇部				外面 横位ミガキ	にぶい黄褐色	良好	1mmの灰白・黄褐色・黒色	18類
							内面 横位ミガキ	黒褐色	良好	・透明粒を含む	
211	C6	浅鉢	頸部 脇部				外面 横位ミガキ	浅灰褐色	良好	微細な灰白色粒を含む	18類
							内面 横位ミガキ	暗灰褐色	良好		
212	B10	浅鉢	口縁				ミガキ(風化により不明瞭)	淡黃	良好	1mm以下の白色・淡黄色・黑色	18類
							内面 ミガキ(風化により不明瞭)	淡黃	良好	・透明粒を含む	
213	D9	浅鉢	口縁 或頭部附近	18.6			外面 横位・頭部のミガキ	青褐色	良好	1mm以下の乳白色・微細な黒色・白色透明粒を含む	18類
							内面 横方向のミガキ	にぶい青褐色	良好		
214	C3	浅鉢	頸部 脇部				外面 横位のミガキ	浅灰褐色	良好	微細な乳白色・黑色・無色透明粒を含む	18類
							内面 横位のミガキ	にぶい青褐色	良好		
215	D8	浅鉢	頭部				外面 横位のミガキ	微細な黒色・無色透明粒を含む	良好		18類
							内面 横位のナデ	にぶい青褐色	良好		

第26表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表(4)

NO.	出土地點	器種	部位	量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口徑	底径	器高					
216	B10	?	口縁				外面ミガキ 内面ミガキ	浅黄 良好	1mm以下の赤褐色・黒色粒 を含む		18類
217	D8	浅鉢	口縁底部	46.0			外面横位の鑿ミガキ 内面横位の鑿ミガキ	にい黄 良好	1mm以下の乳白色・淡黄色・ 黒色透明・無色透明粒を含む		18類
218	D9	浅鉢	口縁底部	36.75			外面黄ミガキ・口縁部に横状突起 内面横位の鑿ミガキ(風化により不明瞭)	浅黄 良好	きめ細かい		18類
219	F2	浅鉢	口縁胸部	33.5			外面横位ミガキ(風化により不明瞭) 内面横位ミガキ(風化により不明瞭)	にい黄 良好	微細な黑色・白色透明粒を 含む		18類
220	F2	深鉢	口縁				ミガキ(風化により不明瞭)	椎 良好	2mm以下の黒色・灰白色粒 を含む		19類
221	F2	深鉢	口縁				ミガキ	灰褐 良好	2mm以下の乳白色・灰色・ 褐色粒を含む		19類
222	B9	深鉢	口縁胸部				外面工具によるナデ 内面工具によるナデ	にい黄 良好	1mmの乳白色・無色透明粒 ・4mm以下の灰白色・7mm以 下のにい褐色粒を含む		19類
223	E7	深鉢	口縁				外面工具によるナデ 内面工具によるナデ	にい椎 良好	1mm以下の乳白色・3mm 以下の灰色・褐色粒を含む		19類
224	D7	深鉢	口縁胸部				外面工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	にい黄 良好	2mm以下の乳白色粒を含む		19類
225	E6	深鉢	口縁				外面工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	浅黄 良好	3mm以下の暗褐色・明赤褐 色・灰色粒を含む		19類
226	E8	深鉢	口縁				外面工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	にい黄 良好	3mm以下の赤褐色・にい 黄褐色・灰色・灰白色粒を 多く含む		19類
227	G7	深鉢	口縁				外面工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	にい黄 良好	4mm以下の灰色・暗褐色・ 灰白色粒を含む		19類
228	B10	深鉢	口縁				工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	暗灰黄 良好	6mm以下の乳白色・2mm 以下の灰白色粒を含む		19類
229	B8	深鉢	口縁				工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	にい黄 良好	3mm以下のにい褐色・乳 白色・黑色・無色透明粒を 含む		19類
230	E6	深鉢	口縁				工具によるナデ・口縁部幅広突帯に ある肥厚 内面工具によるナデ	にい黄 良好	3mm以下の淡黄色・灰白色 粒を含む		19類
231	D3	深鉢	胸部				外面工具によるナデ 内面工具によるナデ	にい黄 良好	1mm以下の灰色粒を含む		19類
232	H9	深鉢	口縁胸部	(42.2)			外面工具によるナデ・孔列文 内面工具によるナデ	にい黄 良好	1~5mmの乳白色の粒を多 く含む		20類
233	C11	深鉢	口縁口縁				工具によるナデ・口縁部幅広付突帯 による隆起線文跡・孔列文 内面工具によるナデ	にい黄 良好	2mm以下の乳白色・褐色・ 黑色粒を多く含む		20類
234	H8	深鉢	口縁~胸部				工具によるナデ・口縁部幅広付突帯 による隆起線文跡・孔列文 内面工具によるナデ	にい黄 良好	4mm以下の乳白色・赤褐色 ・灰白色粒を多く含む		20類
235	H8	深鉢	胸部				外面工具によるナデ 内面工具によるナデ	椎 良好	4mm以下の乳白色・赤褐色 ・灰白色粒を多く含む		20類
236	C9	深鉢	口縁胸部	(36.7)			工具によるナデ・口縁部幅広付突帯 による隆起線文跡・孔列文 内面工具によるナデ	明黄褐 良好	3mm以下の暗褐色・2mm 以下の灰白色粒を含む		20類

第27表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表(4)

NO.	出土地點	器種	部位	量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口徑	底径	器高					
237	E5	深鉢	口縁				外面ナデ・口唇外端に押切みり・餘部に 斜面(+)・(-)・△・○連続刻文	黄灰 良好	2mm以下の淡黃色・3mm以 下の明赤褐色粒を含む		21類
238	G5	深鉢	口縁				外面横位のナデ 内面横位のナデ	にい黄 良好	1mm以下の無色透明粒・明 赤褐色粒を含む		21類
239	D10	深鉢	胸部				外面跳文 内面丁字なナデ	黄灰 良好	3mm以下の明赤褐色・黒色粒 ・2mm以下の灰白色粒を含む		21類

第28表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表(5)

NO.	出土地点	器種	部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ					
240	F10	深鉢	口縁				外面 貝殻余痕？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好	1mm以下の赤褐色・黒色・灰色の粒 無色透明・黒色透明の粒を含む	1mm以下の粒状・良好	22類
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	にぶい黒			
241	C10	深鉢	胸部				外面 丁寧なナデ・横位沈線	浅黄 良好	1mm以下の粒状・良好	1mm以下の粒状・良好	22類
							内面 丁寧なナデ	液晶	粒・淡黄色粒を多く含む		
242		深鉢	胸部				外面 ナデ・棒？状工具による刻突文	明褐色 良好	2mm以下の淡黃色粒・黒色 光沢柱状粒を含む	2mm以下の粒状・良好	22類
							内面 貝殻余痕	にぶい黒			
243	D10	深鉢	胸部				外面 ミガキ？(風化により不明瞭) 横位の沈線	浅黄 良好	3mm以下の褐色・淡黄色粒 黒色光沢柱状粒を含む	1mm以下の白色・2mm以下の褐色粒 3mm以下の白色・2mm以下の黒色 光沢柱状・無色透明粒を含む	22類
							内面 ナデ	浅黄			
244	F8	深鉢	胸部				外面 風化・ナデ？棒状工具による骨状連續文？	にぶい黒 良好	1mm以下の白色・2mm以下の褐色粒 3mm以下の白色・2mm以下の黒色 光沢柱状・無色透明粒を含む	1mm以下の白色・2mm以下の褐色粒 3mm以下の白色・2mm以下の黒色 光沢柱状・無色透明粒を含む	22類
							内面 風化・ナデ？	白			
245	B11/12	深鉢	口縁				外面 船型の丁寧なナデ・敲打工具による右下5列の密着跡等	にぶい黒 良好	4mm以下の赤褐色・2mm以下の黒色 光沢柱状・無色透明粒を含む	4mm以下の赤褐色・2mm以下の黒色 光沢柱状・無色透明粒を含む	22類
							内面 丁寧なナデ	黄褐色			
246	B8	深鉢	口縁	17.6			外面 貝殻余痕-ナデ	にぶい黒 良好	1mm以下の白色・赤褐色・淡黄色 無色透明・無色透明を含む	1mm以下の白色・赤褐色・淡黄色 無色透明・無色透明を含む	22類
							内面 貝殻余痕-ナデ	にぶい黒			

第29表 繩文時代【一次堆積K-Ah層下】包含層出土土器觀察表(5)

NO.	出土地点	器種	部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ					
247	G4	深鉢	底部	8.0推			外面 ナデ	にぶい黒 良好	1mm以下の無色透明粒・黒色 光沢柱状粒を含む	1mm以下の白色・2mm以下の褐色 光沢柱状粒を含む	23類
							内面 ナデ	にぶい黒			
248	F4	深鉢	底部	推11.6			外面 ナデ？(風化により不明瞭)	橙	1mmの黒色・灰白色・淡褐色 無色透明・2mmの灰褐色	1mmの黒色・灰白色・淡褐色 無色透明・2mmの灰褐色	23類 網代底
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好	1mmの黒色・灰白色・淡褐色 無色透明・2mmの灰褐色	1mmの黒色・灰白色・淡褐色・赤褐色 無色透明・2mmの灰褐色	23類 木の葉裏
249	E2	深鉢	底部				外面 ナデ？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好	1mm以下の乳白色・淡褐色・赤褐色 無色透明・2mmの赤褐色	1mm以下の乳白色・淡褐色・赤褐色 無色透明・2mmの赤褐色	23類 木の葉裏
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好			
250	D4	深鉢	底部	底径 11.2推			外面 貝殻余痕	にぶい黒 良好	1mm以下の乳白色・白色・灰色 透明・無色透明・無色透明粒を含む	1mm以下の乳白色・白色・灰色 透明・無色透明・無色透明粒を含む	23類 上げ底
							内面 ナデ	にぶい黒 良好			
251	C10	深鉢	底部	底径 推13.0			外面 ナデ？(風化により不明瞭)	橙	1mmの金色・無色透明・2mm以下の茶 色・無色透明・無色透明を含む	1mmの金色・無色透明・2mm以下の茶 色・無色透明・無色透明を含む	23類
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	浅黄褐色			

第30表 繩文時代【二次堆積K-Ah層上】包含層出土土器觀察表(7)

NO.	出土地点	器種	部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				口径	底径	高さ					
252	B9	深鉢	底部	10.8推			外面 箆状工具？を用いたナデ	橙・黃褐色 良好	2mm以下の明赤褐色・1mm 以下の無色粒	2mm以下の赤褐色・1mm 以下の無色粒	24類 網代底
							内面 箆状工具？を用いたナデ	良好			
253	C11	深鉢	底部	底径 9.0推			外面 箆状工具？を用いたナデ	橙	4mm以下の明赤褐色・灰色 透明・無色透明粒を含む	4mm以下の明赤褐色・灰色 透明・無色透明粒を含む	24類 網代底
							内面 箆状工具？を用いたナデ	尚灰			
254	A10	深鉢	底部	9.3推			外面 貝殻余痕	浅黄	3mm以下の乳白色・赤褐色 にぶい黒	3mm以下の乳白色・赤褐色 にぶい黒	24類
							内面 ナデ	良好	にぶい黒	にぶい黒	
255	E9	深鉢	底部	底径 推13.0			外面 ナデ？(風化により不明瞭)	明赤褐色 良好	2mm以下の赤褐色・灰色 にぶい黒	2mm以下の赤褐色・灰色 にぶい黒	24類
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	良好			
256	D10	深鉢	底部	底径 推10.0			外面 ナデ？(風化により不明瞭)	明黃褐色 良好	3mm以下の淡黄色粒・2mm 以下の褐色粒を含む	3mm以下の淡黄色粒・2mm 以下の褐色粒を含む	24類 網代底
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	良好			
257	E2	深鉢	底部	底径 推12.0			外面 ナデ？(風化により不明瞭)	橙	2mm以下の灰白色粒を含む	2mm以下の灰白色粒を含む	24類 網代底
							内面 ナデ？(風化により不明瞭)	良好			
258	D7	深鉢	底部	底径 推13.0			外面 ナデ	橙	2mm以下の明赤褐色・灰白色 ・無色透明	2mm以下の明赤褐色・灰白色 ・無色透明	24類 網代底
							内面 ナデ	良好			
259	B9	深鉢	底部	底径 5.7推			外面 ナデ？～ミガキ？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好	2mm以下の赤褐色・灰色 粒・無色透明	2mm以下の赤褐色・灰色 粒・無色透明	24類 上げ底
							内面 ナデ	良好			
260	F8	深鉢	底部	底径 推7.5			外面 ナデ？～ミガキ？(風化により不明瞭)	にぶい黒 良好	2mm以下の褐色粒を多く含む	2mm以下の褐色粒を多く含む	24類
							内面 ナデ	良好			
261	D5	深鉢	底部	底径 推8.0			外面 貝殻余痕	白	2mm以下の乳白色・灰色粒 を多く含む	2mm以下の乳白色・灰色粒 を多く含む	24類
							内面 ナデ	良好			

第31表 土器片加工品観察表

NO.	出土地點	器種	部位	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
262		土器片錐		—	(3.8)	(0.8)	(38.3)	無文・胴部
263		土器片錐		—	(2.9)	(0.7)	(22.5)	貝殻条痕・胴部
264		土器片錐		8.3	4.3	(0.9)	60.0	貝殻条痕・胴部
265		土器片錐		—	(4.2)	(0.7)	(23.1)	無文・胴部
266		土器片錐		—	(3.6)	(0.7)	(32.9)	貝殻条痕・胴部
267		土器片錐		7.6	4.9	(0.9)	42.3	貝殻条痕・胴部
268		土器片錐		5.0	2.9	(0.6)	31.3	貝殻条痕・胴部
269		土器片錐		—	(4.1)	(0.9)	(31.0)	貝殻条痕・胴部
270		土器片錐		—	—	(0.7)	(23.1)	無文・胴部
271		土器片錐		—	—	(0.7)	(10.8)	無文・胴部
272		土器片錐		6.2	4.8	1.2	34.4	無文・胴部
273		円盤		12.3	(6.9)	1.8	203.1	底部
274		円盤		11.4	(6.7)	1.5	207.8	底部
275		円盤		11.7	(7.1)	1.6	208.9	底部
276		円盤		12.6	12.5	1.7	335.9	底部、穿孔

第32表 弥生時代出土遺物観察表

NO.	出土地點	器種	部位	法面(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考	
				口径	底径	高さ						
445	F9	甕	口縁 底部	(29.7)	8.0	(34.5)	外面 内面	ハラミガキ、ハケ目、突帯3条 風化著しく不明	橙 明赤褐色	良好 好	5mm以下の褐色地、褐灰色、黒色光沢、1mmの金色粒を含む	柱状脚 台付蓋
446	B11	蓋	頸部				外面 内面	ナデ、突帯2条 ナデ	白 明赤褐色	良好 好	2mmの浅黄褐色、1mmの墨色光沢、斑状状況、無色透明粒を含む	
447	C11	甕	口縁	(18.0)			外面 内面	ハケ目 ハケ目	橙 橙	良好 好	4mm以下の褐色地、赤褐色、灰白色粒を多く含む	
448	C11 C12	甕	口縁	(18.0)			外面 内面	ハケ目 ハケ目	橙 橙	良好 好	4mm以下の褐色地、赤褐色、灰白色粒を多く含む	
449	E6	壺	口縁				外面 内面	ナデ、柳條波状紋 ナデ	白 白	良好 好	3mm以下の褐色地、灰色地を多く含み粗い	複合 口縁蓋
450	C9 D9	壺	口縁	(11.4)			外面 内面	級位ハラミガキ 工具によるナデ	白 白	良好 好	2mm以下の灰黄色、にぶい褐色地、灰白色粒を含む	
451	E6	壺	底部		4.6		外面 内面	級位ハケ目 風化著しく不明	白 白	良好 好	2~5mmの灰褐色地、褐色粒を多く含む	
452	D10	壺	底部		3.4		外面 内面	ナデ 級位ハケ目	白 白	良好 好	2mm以下の灰白色地を含む	
453	G7	甕	底部				外面 内面	ナデ ナデ	白 白	良好 好	3mm以下の灰褐色地、乳白色、赤褐色粒を含む	

第33表 古墳時代出土土器観察表

NO.	出土地點	器種	部位	法面(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考	
				口径	底径	高さ						
457	H9	壺	頸部 胸部				外面 内面	横位のハラミガキ ナデ(風化により不明瞭)	橙 浅黃	良好 好	4mm以下の灰褐色地、赤褐色、灰白色粒を含む	
458	H9	壺	頸部 胸部				外面 内面	横位のハラミガキ 風化著しく不鮮明	橙 浅黃	良好 好	4mm以下の灰褐色地、赤褐色、灰白色粒を含む	
459	D8 D8	甕	底部				外面 内面	ハケ目(風化により不明瞭) 風化著しく不鮮明	白 白	良好 好	3mm以下の灰褐色地、灰白色粒を多く含む	
460	D8	壺	肩部				外面 内面	ハケ目(風化により不明瞭) 風化著しく不鮮明	白 白	良好 好	2~3mm以下の灰白色地、褐色粒を多く含む	
461	E7	甕	底部				外面 内面	ナデ ナデ	白 白	良好 好	3mm以下の暗赤褐色地、灰褐色粒を多く含む	

第34表 古代遺構出土土器観察表

NO.	出土地點	器種	部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				日径	底径	最高					
462	SI39 B12	須恵器 甕	脚部				外面 内面 同心円当て具痕	格子目タキ後力キ目 窓円当て具痕	灰白 灰白	1mm以下の灰白と灰の粒を含む	1mmと同一 基盤か?
463	SI39 B12	須恵器 甕	坏身 底部		(8.8)		外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰黄 灰白	きめ細かい 良好	
464	SC3	—	脚部				外面 内面	ナデ 布目压痕	にぶい壁 にほい表面	良好	1mm以下の灰白色、褐色粒を含む
465	SC3	須恵器 高台付 甕	坏蓋 完形	15.5			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰 灰	良好	転用碗
466	SC4	須恵器 高台付 甕	坏蓋	(13.8)			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰黄 灰黄	精良 堅致	鐵骨器? 直 輪形器? 分 外器? 分 自然物?
467	SC4	須恵器 短颈甕	完形	11.3	13.5	21.3	外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰 灰	精良 堅致	鐵骨器? 分 外器? 分 自然物?

第35表 古代包含層出土土器観察表

NO.	出土地點	器種	部位	法量(cm)			手法・調整・文様ほか	色調	焼成	胎土の特徴	備考
				日径	底径	最高					
468	D10	土師器 坏	体部				外面 内面	回転ヘラ削り後ナデ 回転ナデ	燈 橙	良好 3mm程度の黄色粒を含む	
469	D11	—	脚部				外面 内面	ナデ 布目压痕	燈 にほい表面	1mm以下の灰白色を含む	
470	E10	土師器 坏	底部	(10.0)			外面 内面	回転ヘラ削り後ナデ ナデ	にほい表面 黒褐	2mm以下の精良褐色、灰色 粒を含む	
471	C6	土師器 高台 付	底部	(13.0)			外面 内面	回転ナデ、底部回転ヘラ削り 回転ナデ	燈 にほい表面	1mm以下の灰白の粒を含む	回転台 土師器
472	G7	須恵器 高台 付	坏蓋				外面 内面	回転ナデ 回転ナデ	灰 暗灰	良好 良好	きめ細かい
473	G7	須恵器 高台 付	坏蓋				外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰 灰	良好	きめ細かい
474	E5	須恵器 高台 付	坏蓋				外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰白 灰	良好	1mm以下の淡黃色、黑色粒 を含む
475	E7	須恵器 高台 付	坏蓋				外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰 灰	良好	1mm以下の黒色、淡黃色粒 を含む
476	G7	須恵器 高台 付	坏蓋	(10.2)			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰 灰	良好	きめ細かい
477	C7	須恵器 高台 付	坏蓋	(13.8)			外面 内面	回転ヘラ削り?(風化により不明瞭) 回転ナデ?(風化により不明瞭)	灰白 灰白	良好	1mm以下の灰色の砂粒を含む
478	G7	須恵器 高台 付	坏蓋	(12.8)			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰白 灰	良好 良好	1mm以下の灰色、白色粒を含む
479	G7	須恵器 高台 付	坏蓋	(12.7)			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰白 灰黄	良好 精緻	1mmの黒色、灰白色粒を含む
480	C7	須恵器 長颈甕	坏身				外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰白 灰白	良好 良好	1mm以下の淡黃色、黑色粒 を含む
481	D8	須恵器 長颈甕	脚部				外面 内面	回転ナデ 回転ナデ	灰 灰黄	良好 良好	1mm以下の白色、淡黃色、 灰色粒を含む
482	C7	須恵器 長颈甕	脚部				外面 内面	回転ナデ 回転ナデ	黒褐、青灰 明示橋	良好 良好	青灰 自然物?
483	B12	須恵器 甕	脚部				外面 内面	格子目タキ後力キ目 同心円当て具痕	灰白 灰黄	良好	きめ細かい
484	須恵器 甕	須恵器 甕	脚部				外面 内面	平行タキ 平行凹て具痕	黄灰 暗灰	良好 良好	きめ細かい
485	B12	須恵器 高台 付	坏身	(7.6)			外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰灰 灰オリーブ	良好 良好	きめ細かい
486	E10	須恵器 高台 付	坏身				外面 内面	回転ヘラ削り 回転ナデ	灰黄 灰白	良好	きめ細かい

第36表 旧石器時代Ⅰ期石器計測表

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
1		ナイフ形石器	流紋岩	4.2	1.7	0.8	5.9	
2	C10	ナイフ形石器	流紋岩	6.0	2.3	1.1	13.3	
3	D10	ナイフ形石器	流紋岩	5.9	2.2	0.9	12.2	
4	D10	ナイフ形石器	流紋岩	3.5	1.9	1.1	7.6	
5	B11	ナイフ形石器	流紋岩	5.9	2.3	1.0	12.5	
6	B10	ナイフ形石器	流紋岩	4.2	1.9	0.9	6.6	
7	C10	ナイフ形石器	流紋岩	5.6	1.6	1.0	7.4	
8	C10	ナイフ形石器	流紋岩	5.2	1.5	0.9	7.8	
9	A11	ナイフ形石器	流紋岩	5.4	2.5	0.8	8.6	
10	C10	ナイフ形石器	流紋岩	5.6	1.9	1.4	15.7	
11		ナイフ形石器	流紋岩	3.4	1.2	0.8	3.2	
12	E3	ナイフ形石器	流紋岩	4.2	1.4	0.5	3.5	
13		角錐状石器	流紋岩	4.8	1.8	0.8	7.6	
14	A10	削器	流紋岩	4.5	4.1	1.6	27.2	
15	C9	二次加工剥片	流紋岩	4.6	2.5	0.7	5.6	
16	D10	二次加工剥片	流紋岩	4.0	2.6	0.8	6.9	
17	C10	鈍頭のある削片	流紋岩	3.7	1.7	1.0	4.7	
18	E10	鈍頭のある削片	流紋岩	6.7	2.2	0.7	9.1	
19	D10	剥片	流紋岩	6.7	3.3	1.6	20.8	
20	D10	剥片	流紋岩	5.4	1.8	0.9	8.5	
21	C10	剥片	流紋岩	7.0	3.8	1.0	24.0	
22	E9	剥片	流紋岩	7.5	3.3	1.4	40.4	
23	E10	剥片	流紋岩	5.0	4.3	1.5	31.4	
24	A10	剥片	流紋岩	4.4	3.8	1.2	18.3	
25	E10	石核	流紋岩	7.9	5.9	2.5	115.7	
26	C10	石核	流紋岩	5.9	5.9	2.3	47.8	
27	D10	磨石	尾崎山性岩類	6.7	5.4	4.2	214.2	
28	D10	磨石	砂岩	8.9	6.5	5.8	495.6	
29	D10	磨石	砂岩	(11.8)	5.7	4.5	501.3	
30	D10	敲石	砂岩	16.5	5.4	3.5	479.8	

第37表 旧石器時代Ⅱ期石器計測表(1)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
31		石核	黒曜石					接合資料1
32	C10	剥片	黒曜石					接合資料1
33	D10	剥片	黒曜石					接合資料1
34	D10	剥片	黒曜石					接合資料2
35	B11	剥片	黒曜石					接合資料2
36	B10	剥片	出雲石					接合資料2
37	G9	振器	綠色石	10.1	5.0	1.9	87.8	
38		二次加工剥片	流紋岩	6.6	2.7	0.9	16.4	
39	C10	細石刃	黒曜石	2.0	0.8	0.2	0.3	
40	C9	細石刃	黒曜石	1.3	0.5	0.2	0.1	
41	H8	細石刃	黒曜石	1.3	0.5	0.2	0.1	
42	B10	細石刃	黒曜石	1.1	0.5	0.2	0.1	
43	B9	細石刃	黒曜石	1.2	0.6	0.2	0.1	
44	G4	細石刃	黒曜石	1.6	5.5	0.2	0.3	
45	C8	細石刃	黒曜石	1.8	0.6	0.2	0.2	
46	B10	細石核	黒曜石	1.8	0.6	0.2	0.2	
47	B9	細石核	黒曜石	1.8	1.2	1.6	6.0	
48	D2	細石核	黒曜石	2.2	1.4	1.1	4.6	

第38表 旧石器時代Ⅱ期石器計測表(2)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
49	C9	細石核	黒曜石	1.7	1.6	1.3	3.7	
50	C9	細石核	黒曜石	2.4	1.8	1.6	5.9	
51	C10	細石核	黒曜石	1.9	1.4	1.3	3.8	
52	B9	細石核	黒曜石	3.3	1.7	1.2	7.6	
53	C9	細石核	黒曜石	2.0	1.0	0.9	1.9	
54	C9	細石核	黒曜石	2.4	1.9	1.5	5.6	
55	B11	細石核	黒曜石	2.1	1.4	1.1	4.4	
56	E10	細石核	黒曜石	1.6	1.6	1.3	3.9	
57	C10	細石核	黒曜石	2.0	1.1	1.1	3.1	
58	B10	細石核	黒曜石	2.3	2.1	1.5	7.8	
59	B11	細石核	黒曜石	2.2	1.6	1.2	4.8	
60	B11	細石核	黒曜石	2.4	1.5	1.2	5.3	

第39表 諸文時代(K-Ah層下) 石器計測表(1)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
277		剥片	黒曜石	3.5	1.2	1.0	2.6	接合資料3
278		剥片	黒曜石	2.9	1.0	0.4	0.8	接合資料3
279		石鏃	チャート	3.0	1.6	0.2	0.8	
280		石鏃	チャート	3.2	(1.6)	0.3	0.9	
281		石鏃	チャート	(2.4)	1.5	0.3	1.0	
282		石鏃	チャート	(2.4)	2.1	0.3	1.6	
283		石鏃	チャート	(2.6)	(1.9)	0.3	1.4	
284		石鏃	チャート	(2.2)	2.1	0.4	1.6	
285		石鏃	頁岩	(2.3)	1.7	0.4	1.2	
286		石鏃	チャート	(2.0)	1.7	0.3	0.9	
287		石鏃	チャート	2.3	1.9	0.3	0.9	
288		石鏃	チャート	1.5	1.1	0.3	0.3	
289		石鏃	チャート	1.4	(1.2)	0.2	0.4	
290		石鏃	チャート	2.6	1.9	0.3	0.9	
291		石鏃	チャート	1.9	1.7	0.5	1.1	
292		石鏃	チャート	2.2	2.3	0.4	1.8	
293		石鏃	黒曜石	2.3	(1.4)	0.4	0.8	
294		石鏃	黒曜石	3.4	1.8	0.4	1.4	
295		石鏃	黒曜石	2.5	(1.6)	0.4	0.8	
296		石鏃	黒曜石	1.2	1.3	0.4	0.5	
297		石鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.3	0.3	
298		石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.4	
299		石鏃	黒曜石	3.1	(1.8)	0.4	1.5	
300		石鏃	黒曜石	1.1	1.1	0.2	0.2	
301		石鏃	黒曜石	1.4	1.0	0.3	0.2	
302		石鏃	頁岩	1.8	1.5	0.3	0.6	
303		石鏃	頁岩	1.7	1.6	0.5	0.9	
304		石鏃	頁岩	3.2	1.8	0.4	1.3	
305		石鏃	頁岩	1.9	1.2	0.3	0.5	
306		尖頭器	チャート	2.2	(1.9)	0.5	1.3	
307		尖頭器	頁岩	3.6	1.5	0.4	2.2	
308		尖頭器	チャート	3.8	1.3	0.3	1.8	
309		尖頭器	頁岩	3.0	1.7	0.4	1.9	
310		異形石器	黒曜石	3.0	2.4	0.8	6.5	
311		異形石器	チャート	3.1	2.2	0.7	6.3	

第40表 繪文時代(K-Ah層下)石器計測表(2)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
312		刮器	頁岩	11.8	4.1	0.8	52.3	
313		刮器	頁岩	6.4	7.6	1.5	72.7	
314		標誌	ホルンフェルス	10.1	7.5	3.2	256.8	
315		標誌	頁岩	8.8	5.5	1.5	82.9	
316	黒櫛乳突のある骨片	標誌	頁岩	7.8	2.2	0.9	12.2	
		標誌	剝片	6.5	5.9	1.6	51.1	
317		標誌	砂岩	9.1	13.2	2.8	425.5	
318		打製石斧	綠色岩	10.2	4.8	1.6	97.1	
319		打製石斧	ホルンフェルス	14.3	5.8	3.9	391.7	
320		打製石斧	ホルンフェルス	10.5	5.2	2.6	197.8	
321		打製石斧	ホルンフェルス	(5.7)	3.8	1.7	44.5	
322		打製石斧	ホルンフェルス	15.1	6.0	3.7	440.8	
		打製石斧	砂岩	(5.4)	5.1	2.2	87.5	
323		打製石斧	ホルンフェルス	21.8	6.4	3.2	714.3	
324		打製石斧	ホルンフェルス	14.4	5.8	2.3	197.9	
325		打製石斧	ホルンフェルス	12.9	6.2	3.1	258.7	
326		打製石斧	ホルンフェルス	13.3	5.4	2.0	160.1	
327		打製石斧	ホルンフェルス	12.2	5.7	1.5	135.3	
328		打製石斧	ホルンフェルス	17.3	6.2	3.0	454.8	
329		磨石石斧	ホルンフェルス	15.7	15.0	5.2	307.0	
330		磨石	砂岩	6.9	5.4	3.4	166.2	
331		磨石	尾崎山巖性岩類	4.3	3.9	3.1	67.4	
332		磨石	尾崎山巖性岩類	9.0	8.0	4.3	441.1	
333		磨石	尾崎山巖性岩類	12.4	7.3	5.2	745.7	
334		磨石	尾崎山巖性岩類	12.8	9.2	4.4	843.4	
335		磨石	尾崎山巖性岩類	11.7	8.4	4.7	746.8	
336		磨石	砂岩	8.7	7.2	3.4	324.8	
337		磨石	砂岩	9.0	7.2	5.2	479.3	
338		敲石	ホルンフェルス	5.7	2.8	1.9	41.2	
339		台石	砂岩	17.2	16.2	4.2	1610.0	
340		凹石	砂岩	11.9	8.3	3.9	555.8	
341		凹石	砂岩	11.2	6.1	3.5	359.5	
342		凹石	砂岩	10.4	7.2	2.6	264.9	
343		凹石	砂岩	9.0	7.7	3.2	260.0	
344		凹石	砂岩	9.6	8.3	3.1	362.5	
345		石錐	砂岩	6.1	7.2	2.1	136.0	
346		石錐	砂岩	4.9	5.8	1.4	59.8	

第41表 繪文時代(K-Ah層上)石器計測表(1)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
347		石縫	黒曜石	2.4	1.4	0.3	0.8	
348		石縫	黒曜石	(1.9)	1.7	0.3	0.6	
349		石縫	黒曜石	1.9	1.6	0.4	0.9	
350		石縫	黒曜石	(2.3)	(1.8)	0.4	1.1	
351	C8	石縫	黒曜石	2.6	1.8	0.3	1.1	
352	楕	石縫	チャート	2.6	1.8	0.3	1.1	
353		石縫	チャート	2.3	1.6	0.3	0.8	
354		石縫	チャート	2.4	1.7	0.2	0.6	
355		石縫	チャート	2.6	2.1	0.4	1.9	
356		石縫	チャート	1.8	1.7	0.3	0.7	

第42表 繩文時代(K-Ah層下)石器計測表(2)

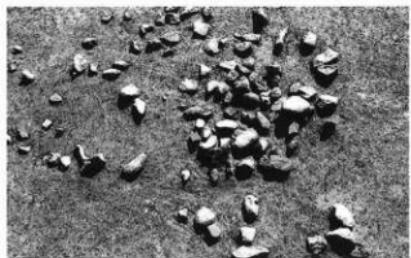
NO.	出土地点	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
357		石鏃	チャート	1.9	(1.2)	0.3	0.5	
358		石鏃	チャート	(1.4)	(1.6)	0.3	0.5	
359	E10	石鏃	チャート	2.0	1.6	0.3	0.8	
360		石鏃	チャート	2.1	1.4	0.3	0.6	
361		石鏃	チャート	(2.0)	1.3	0.3	0.7	
362		石鏃	チャート	(2.6)	2.1	0.5	2.1	
363		鐵密		3.1	1.8	0.3	1.4	
364		局部磨製石鏃	チャート	2.5	1.6	0.2	0.7	
365		石匙	黒曜石	6.5	1.7	0.8	7.6	
366	B10	石匙	黒曜石	2.3	(3.1)	0.7	2.8	
367		石匙	チャート	2.1	(3.0)	0.5	2.6	
368	A10	石匙	鐵密	4.3	2.6	0.6	6.9	
369		搔器	頁岩	10.8	10.1	1.8	274.0	
370		搔器	尾鈎山酸性岩類	(15.5)	(12.6)	(4.1)	935.6	
371		搔器	ホルンフェルス	11.8	9.0	3.2	412.0	
372		搔器	ホルンフェルス	6.7	5.1	1.6	61.8	
373		打製石斧	ホルンフェルス	11.8	4.1	1.3	95.2	
374		打製石斧	ホルンフェルス	14.5	8.7	3.1	506.4	
375		打製石斧	ホルンフェルス	15.3	5.4	3.0	315.8	
376	G6	打製石斧	ホルンフェルス	12.4	4.7	1.7	117.3	
377	D2	打製石斧	ホルンフェルス	(12.1)	6.4	3.5	413.2	
378	H4	打製石斧	ホルンフェルス	8.3	4.8	1.8	106.7	
379	D6	打製石斧	ホルンフェルス	(9.5)	6.1	3.6	213.2	
380	D6	打製石斧	ホルンフェルス	(9.5)	6.1	3.6	213.2	
381	F4	打製石斧	ホルンフェルス	(11.0)	4.7	2.0	91.3	
382		打製石斧	ホルンフェルス	7.7	4.7	2.0	90.0	
383		打製石斧	ホルンフェルス	9.1	6.1	3.7	212.7	
384	D10	磨製石斧	砂岩?	(8.2)	5.5	2.7	198.1	
385	H8	磨製石斧	砂岩?	15.3	5.1	2.3	243.4	
386		磨製石斧	砂岩?	(9.4)	7.4	3.8	375.7	
387		磨製石斧	2種	(12.7)	5.8	3.1	401.3	
388		磨製石斧	砂岩?	(10.7)	5.8	3.9	295.1	
389	D6	磨製石斧	綠色	(10.4)	4.6	2.5	170.1	
390		磨製石斧	綠色	(10.5)	6.9	3.7	321.4	
391		磨製石斧	ホルンフェルス	10.9	5.1	2.7	238.8	
392		磨製石斧	ホルンフェルス	11.0	4.0	2.5	186.3	
393	D4	磨製石斧	ホルンフェルス	17.5	6.3	3.4	501.0	
394	B9	磨製石斧	ホルンフェルス	(9.1)	4.5	2.8	172.6	
395		磨製石斧	ホルンフェルス	(8.7)	6.5	3.1	285.0	
396		磨製石斧	ホルンフェルス	(9.5)	6.3	3.2	311.6	
397		磨製石斧	ホルンフェルス	(6.9)	4.3	3.6	130.0	
398	G8	磨製石斧	ホルンフェルス	(8.1)	5.7	3.7	279.0	
399		磨製石斧	ホルンフェルス	(10.2)	5.2	3.3	252.4	
400		磨製石斧	ホルンフェルス	(5.0)	3.9	1.3	37.8	
401	F3	磨製石斧	ホルンフェルス	(13.7)	5.8	5.1	581.7	
402	D3	磨製石斧	ホルンフェルス	(12.4)	6.2	2.4	296.4	
403	D9	磨製石斧	ホルンフェルス	(8.6)	5.5	3.2	212.7	
404		磨製石斧	ホルンフェルス	(11.7)	6.1	3.0	289.3	
405	G9	磨石	尾鈎山酸性岩類	7.5	7.4	3.8	332.8	
406		磨石	尾鈎山酸性岩類	8.6	6.7	3.9	340.5	
407	H6	磨石	尾鈎山酸性岩類	6.0	5.4	2.8	141.1	
408	F4	磨石	尾鈎山酸性岩類	10.6	8.7	4.7	660.7	

第43表 網文時代(K-Ah層上)石器計測表(3)

NO.	出土地點	器種	石材	最大長		最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
				(cm)	(cm)				
409		磨石	尾鷲山巖性岩類	11.1	8.1	5.3	706.1		
410		磨石	尾鷲山巖性岩類	11.6	8.5	5.8	926.0		
411		磨石	砂岩	9.7	8.1	3.8	436.6		
412	F4	磨石	砂岩	10.4	9.1	4.2	577.6		
413		磨石	砂岩	8.9	7.7	4.5	417.7		
414		磨石	砂岩	12.7	9.1	4.6	762.9		
415		磨石	砂岩	8.0	5.6	2.8	189.3		
416	A10	敲石	頁岩	7.7	5.2	2.6	152.2		
417	A10	敲石	砂岩	(5.0)	4.4	2.6	81.3		
418	G2	敲石	砂岩	13.5	5.7	4.9	447.1		
419		敲石	砂岩	18.4	5.1	4.6	723.8		
420	F4	敲石	砂岩	(6.4)	4.8	2.5	113.2		
421	F2	敲石	砂岩	12.7	7.4	3.8	424.5		
422		敲石	砂岩	8.2	6.2	2.9	190.6		
423	G9	凹石	砂岩	9.7	8.0	2.9	289.6		
424		砥石	砂岩	10.5	3.6	2.1	119.9		
425	G9	砥石	砂岩	11.4	6.2	3.2	256.2		
426		石錐	綈密	5.4	2.7	0.9	19.5		
427		石錐	綈密	7.2	4.9	2.2	103.6		
428		石錐	砂岩	8.3	4.0	1.8	88.9		
429	E8	石錐	砂岩	6.9	5.8	1.8	106.0		
430	H6	石錐	砂岩	10.5	7.7	1.8	224.7		
431		石錐	砂岩	10.5	8.0	2.9	391.0		
432		石錐	砂岩	5.5	4.4	1.5	57.9		
433	F7	石錐	ホルンフェルス	6.7	5.8	1.5	91.0		
434	B9	石錐	砂岩	7.8	6.6	2.4	190.1		
435	F5	石錐	砂岩	(6.7)	6.5	1.7	107.3		
436	F3	石錐	ホルンフェルス	6.8	5.7	1.6	89.5		
437		石錐	ホルンフェルス	8.7	3.6	1.4	51.5		
438	F3	石錐	ホルンフェルス	10.2	3.9	2.1	127.9		
439	E10	石錐	ホルンフェルス	8.0	4.8	1.9	108.5		
440	F3	石錐	ホルンフェルス	7.2	5.8	1.6	101.5		
441	F3	石錐	ホルンフェルス	7.5	4.4	1.8	83.0		
442		石錐	ホルンフェルス	8.7	4.3	1.4	78.4		
443	F3	石錐	ホルンフェルス	8.4	3.7	1.7	82.2		
444	F2	石錐	ホルンフェルス	5.7	5.5	2.1	90.0		

第44表 弓生時代石器計測表

NO.	出土地點	器種	石材	最大長		最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
				(cm)	(cm)				
454	E7	磨製石鏟	綠色凝灰岩	4.8	2.6	0.3	5.5		
455	G9	磨製石鏟	綠色凝灰岩	(2.5)	1.7	0.2	0.9		
456	D11	石錐	砂岩	6.0	3.5	2.8	69.3		



旧石器時代Ⅰ期 SI 1



旧石器時代Ⅰ期 SI 2



旧石器時代Ⅰ期 SI 3



旧石器時代Ⅰ期 SI 4



旧石器時代Ⅱ期 SI 5



旧石器時代Ⅱ期 SI 6

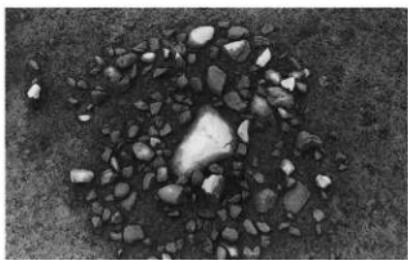


散礫Ⅰ群

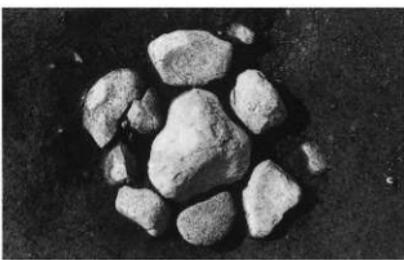


散礫Ⅱ群

図版2



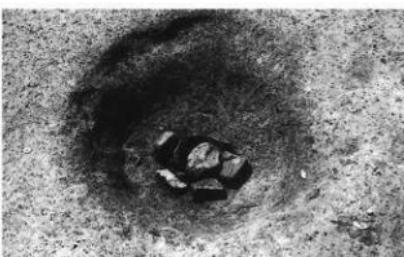
SI32



SI32下配石



SI34



SI34下配石



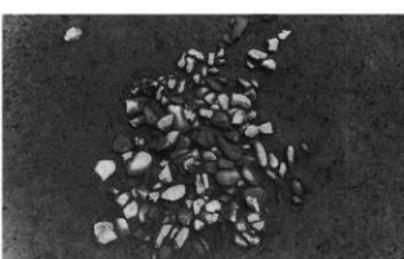
SI22・23



SI19・20・SC 1



SI5



SI11

図版3



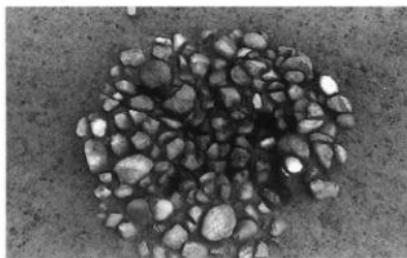
SI 3



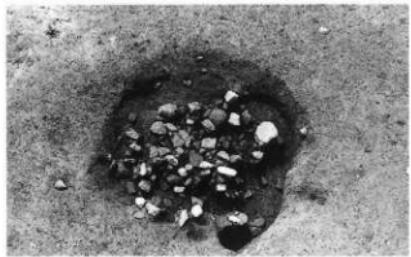
SI 4



SI 17



SI 26



SI 30



SI 31



SI 37



SI 36

図版4



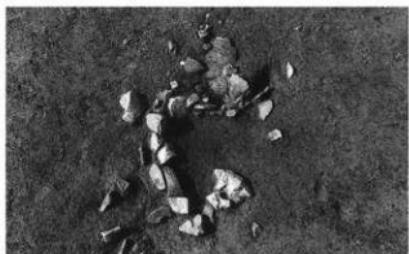
SI38



打製石斧出土状況



縄文土器出土状況 1



縄文土器出土状況 2



SI39



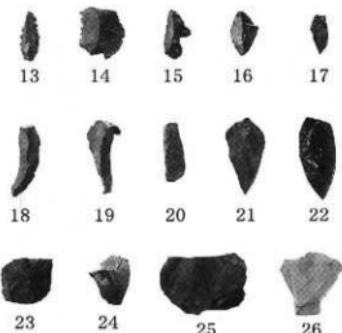
塚（掘削前）



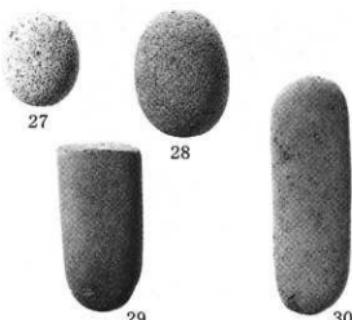
溝状遺構 1



溝状遺構 2



旧石器時代Ⅰ期の石器（1）



旧石器時代Ⅰ期の石器（2）



接合 1



接合 2



31



32



33



34



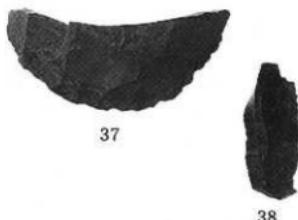
35



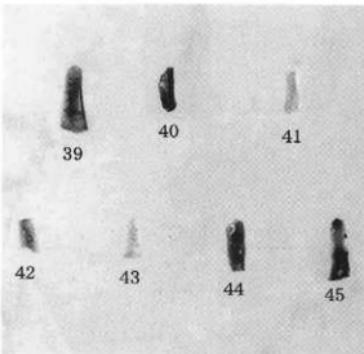
36

旧石器時代Ⅱ期の石器（1）

旧石器時代Ⅱ期の石器（2）



旧石器時代Ⅱ期の石器（3）



旧石器時代Ⅱ期の石器（4）

図版 6



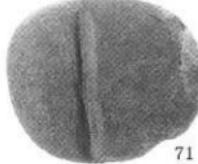
61



63



62



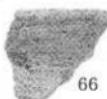
71



64



65



66



67



68



69



70

縄文時代（二次堆積K-Ah層下）遺構出土遺物

縄文時代（二次堆積K-Ah層上）遺構出土遺物



72



73



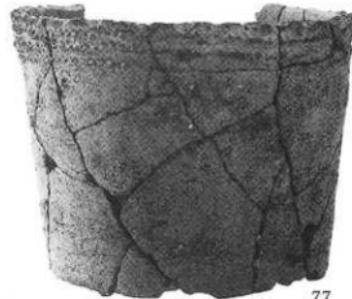
74



75



76



77

縄文土器（1）

縄文土器（2）



78



79



80



81



82

縄文土器（3）



83



84



85

縄文土器（4）

图版7



86



88



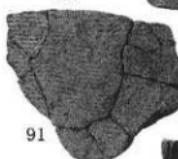
87



89



90



91



92



93



94



95



96

绳文土器 (5)

绳文土器 (6)



97



98



100



102



103



104



99



101



105



106



107

绳文土器 (7)

绳文土器 (8)



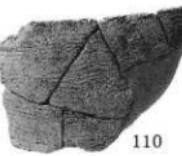
108



109



111



110



112



113



114



115



116



117

绳文土器 (9)

绳文土器 (10)